

年 報

2010年度
(平成22年度)

聖路加看護大学
St. Luke's College of Nursing

目 次

ごあいさつ	理事長 日野原重明	・ 1
序文	学 長 井部 俊子	・ 2
組織図		3
重点活動計画		4
学事暦		5
I 法人機関		・ 7
理事会		7
常任理事会		7
評議員会		8
募金活動推進委員会		9
II 大学決議機関		・ 11
教授会		11
研究科委員会		11
III 教学組織		・ 13
看護学部 看護学科（データ）		13
入試委員会		21
カリキュラム運用委員会		21
●カリキュラム2011		
●実習単位認定者連絡会		
●臨地実習Ⅱ担当者会議		
実習室委員会		23
体育デー委員会		25
学生支援推進プロジェクト		25
看護教育会議		26
教育会議		27
看護学研究科（データ）		27
がんプロフェッショナル養成プラン		29
組織的な若手研究者等海外派遣プログラム（PCC）		30
看護実践開発研究センター		32
運営委員会		32
People-Centered Care（PCC）実践開発部門		37
キャリア開発支援部門		39
研究活動支援部門		41
WHOコラボレーティングセンター		41
るかなび運営会議		42
聖路加・テルモ新健康カレッジセミナー、聖路加市民アカデミー		43

IV 事務部・学生支援組織	・ 45
教務部（教務課）	45
学生部（学生課）	45
●チャペルアワー委員会	
図書館／図書委員会	50
大学史編纂・資料室／大学史編纂・資料室委員会	56
秘書室	57
総務課（学生課）	57
経理課	58
管財課	59
健康管理室	61
研究支援室	68
危機管理対策室	68
広報室	69
V 学長諮問委員会	・ 74
学事協議会	74
自己評価委員会	74
研究倫理審査委員会	75
人権委員会	77
発明委員会	77
大学マネジメント検討会	77
奨学生選考委員会	78
危機管理対策委員会	79
VI 常設委員会	・ 80
教育予算委員会	80
広報委員会	81
情報システム委員会	84
国際交流委員会	92
表彰運営委員会	93
紀要委員会	94
オリエンテーション・セミナー委員会	96
FD・SD委員会	96

ごあいさつ

聖路加看護学園理事長 日野原 重明

2010年度の聖路加看護大学の教育研究活動について、各担当者の取り組みについて、『年報』で関係各位にご報告する。

「健康」という人間にとってもっとも基本的なニーズを担うのが医療であり看護である。当大学は、1920年の設立以来、「人間と社会を理解することができる看護師の育成」を目標に掲げて歩んできた。看護は社会の動きと同調した「生きている科学」ということでもある。これまで90年間にわたる当大学の教育研究活動は、それに対応して新たな分野や領域を組み入れて発展してきたが、本誌によって2010年度の積極的な取り組みを報告できることはうれしい限りである。

日本の高等教育機関が1年間に行った教育研究および社会活動についてその業績を内部の教職により自己評価をして発表することは長く行われてきたが、その多くは単なる事業報告であり、本当の意味での自己評価ではないという批判があった。本学では2009年度から井部俊子学長によって思い切った編集方針の変革が打ち出され、各部署の責任者によって外部の方々にもわかりやすい客観的情報を提示することとなり、2010年度は本当の内部評価として更に改善されたものとなった。

さて、今年度を終えようとした3月11日、日本は「東日本大震災」および「福島第一原子力発電所」の大事故に遭遇した。2010年度の修了式・卒業式を終えた翌日のことであった。

地震や津波、そして放射能汚染に被災された地域住民の安全と健康をいちばん早く、そしていちばん身近なところで支えるのが医療であり看護であるということを改めて強く覚悟させられた出来事であった。「人間と社会を理解する」という当大学の設立理念をもう一度確認し、その立場から日本の復興のために私たちの力をどのように用いるべきか、新たな課題として考えていきたい。

序 文

2010年度は、学部1年生85名、学士編入14回生20名、ならびに大学院博士前期課程（修士課程）42名（看護学専攻23名、ウィメンズヘルス・助産学専攻19名）、博士後期課程11名、合計158名の新入生を迎え、本学のミッション実現のために精力的に教育研究活動が行われた。

2010年度の学部一般入学試験において辞退者が予測を大幅に下回り、新入学生が入学定員の1.34倍を超えたため経常費補助金の不交付問題が浮上した。対応の結果、補助金取扱要領の一部改正によって本学は救済されることとなった。しかし今年度の補助金は大幅に減額され、厳しい大学経営を余議なくされた。

「カリキュラム2011」プロジェクトを中心に検討した学部のカリキュラムは最終案をまとめ、カリキュラム改正の変更承認申請を行い受理された。したがって2011年度入学生より新カリキュラムが適用されることとなった。さらに保健師国家試験受験資格取得を選択制とすることも承認された。大学院教育では、アドミッションポリシーを明文化しホームページに公開した。基礎系看護学Ⅱに遺伝看護学を新設するとともに、厚生労働省による特定看護師（仮称）養成調査試行事業に、小児看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、周麻酔期看護学の各上級実践コースが参加した。また単位取得に課題がある学生が増加傾向にあるため、再試験や再履修等について明文化した。

WHO プライマリヘルス看護開発協力センターは、創設20周年を迎えた。そのため2011年1月21日の大学創立記念式において記念シンポジウムを開催した。

看護実践開発研究センターは活動を強化するため改組を行い、聖路加・テルモ共同事業も含めて市民サービスの推進をはかり地域に定着している。

大学史編纂・資料室は、史料・資料の収集を行うとともに、貴重な展示企画が催された。

本学の重要な活動を担う委員会活動では、広報委員会がオープンキャンパスをリニューアルし参加者の増員をもたらした他、大学ホームページに Contents Management System を導入したプログラム導入を企画した。FD・SD委員会は、FD マップを作成し、大学経営のあり方をテーマにするなど意欲的な研修を実施した。募金活動委員会は、「サポーター制度」の導入計画を立案した。

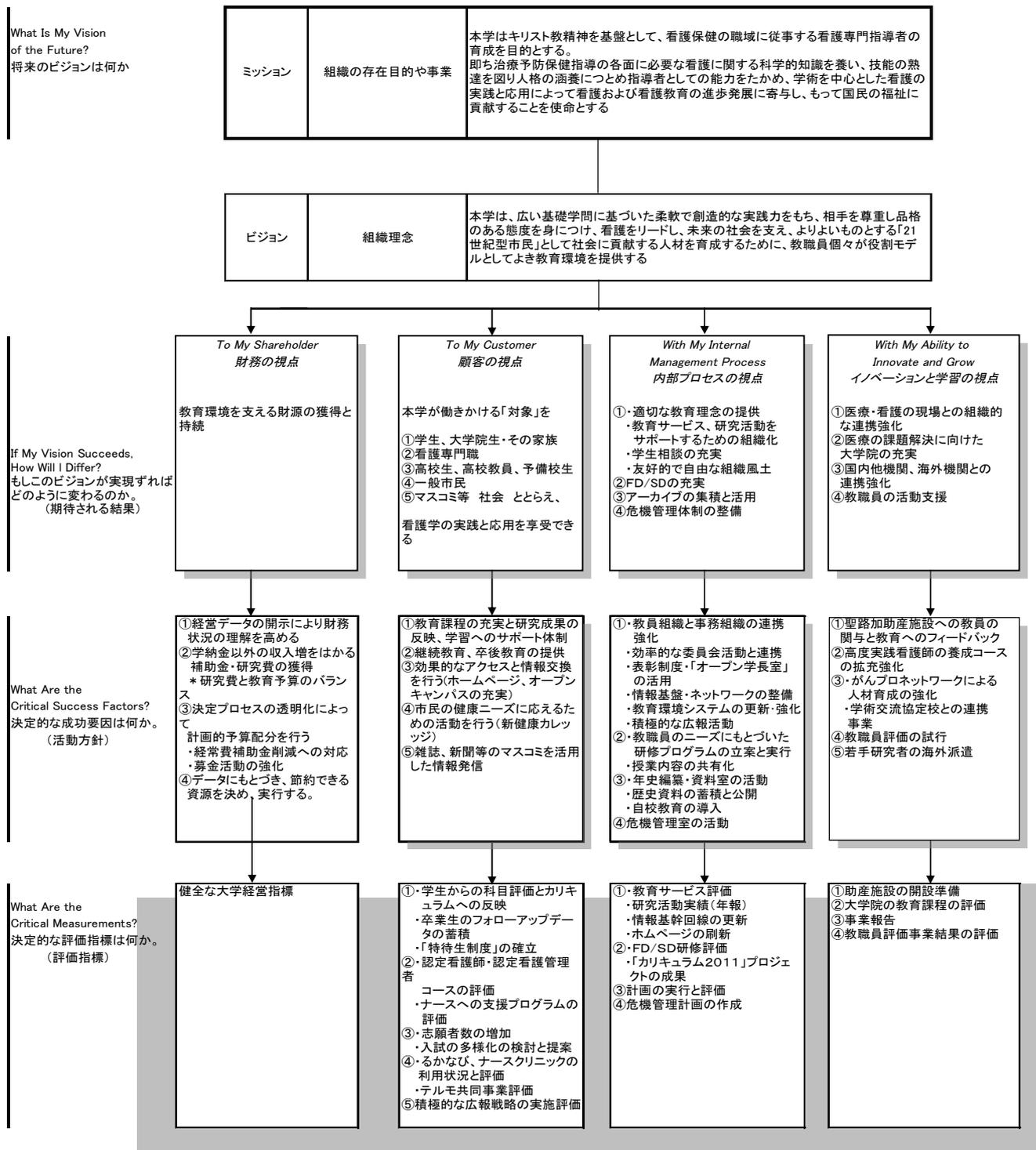
2010年度の終結は衝撃的であった。2011年3月10日に修了式・卒業式を終えた翌日、3月11日14時46分、マグニチュード9.0の東日本大震災が発生した。それに続く大津波、福島第一原子力発電所事故による放射性物質の漏出で、日本は未曾有の大災害に直面した。幸い本学の学生・教職員に大きな被害はなく、校舎も無事であった。3月11日は帰宅困難者約70名が学内で宿泊した。早急に防災対策を行う必要がある。

学校法人としての財政基盤や法人事務局の体制を含めた将来構想計画の検討を始めたい。

2011年3月31日

聖路加看護大学学長 井 部 俊 子

2010年度聖路加看護大学 重点活動計画



* 上段と下段の番号は関連しています。

2010年度 学事暦

年 月 日	大 学 行 事	教授会・委員会など
2010年		
4月 6日 (火)	学部入学式・始業式	
7日 (水)	新入生オリエンテーション (～8日(木))	
9日 (金)	新入生オリエンテーション・セミナー (清里・清泉寮～10日(土))	
12日 (月)	学部授業開始	
13日 (火)		教授会
14日 (水)	大学院入学式・開講式	
15日 (木)	大学院オリエンテーション (～16日(金))	
17日 (土)	大学院授業開始	
20日 (火)		研究科委員会
21日 (水)		看護教育会議
5月11日 (火)		教授会
15日 (土)	修士論文研究計画書締切	
18日 (火)		研究科委員会
20日 (木)		常任理事会
26日 (水)	消防訓練	
27日 (木)		ミセス・セントジョン記念日
28日 (金)		理事会・評議員会
6月 2日 (水)	体育デー (中央区立総合スポーツセンター)	
5日 (土)	補講日	
8日 (火)		教授会
11日 (金)	総合看護・看護研究Ⅱ計画書提出締切	
14日 (月)	総合実習(6/14～7/23)、養護実習(6/14～7/16)	
15日 (火)		研究科委員会
26日 (土)	大学説明会 (オープンキャンパス)	
7月10日 (土)	修士・博士論文提出締切	
13日 (火)		教授会・臨時研究科委員会
17日 (土)	補講日	
20日 (火)		研究科委員会
21日 (水)	修士課程学内推薦入学試験	看護教育会議
23日 (金)		修士課程学内試験判定会議
26日 (月)	前期試験期間 (～30(金))	
30日 (金)	授業終了	
31日 (土)	大学説明会 (オープンキャンパス) (～8/1(日))	
夏季休暇 8月1日～9月30日 大学一斉休暇 8月13日～18日		
8月10日 (火)		トイスラー記念日
9月 2日 (木)	看護援助論Ⅳ実習 (～14(火))	
7日 (火)		臨時研究科委員会
14日 (火)		教授会
15日 (水)	修士課程入学試験 (前期) (～16日(木))	
16日 (木)	臨地実習オリエンテーション (～17日(金))	
21日 (火)	臨地実習 (～2/18(金))	修士課程入試選考判定会議
22日 (水)	野外活動実習 (～25日(土))	常任理事会
24日 (金)	学士編入学試験	
25日 (土)		聖路加看護学会
28日 (火)		学士編入学試験選考会議・臨時教授会
29日 (水)	大学院論文発表会・学位授与	
30日 (木)		理事会・評議員会

年 月 日	大 学 行 事	教授会・委員会など
10月 1日 (金) 2日 (土) 7日 (木) 12日 (火) 19日 (火) 20日 (水) 26日 (火) " 30日 (土)	後期授業開始 認定看護師教育課程1次募集入学試験 合同防災訓練 博士後期課程入学試験 (~21日 (木)) 白楊祭 (~31日 (日))	臨時研究科委員会、教授会 研究科委員会 臨時研究科委員会 [博士後期課程入試判定会議] 拡大研究科委員会
11月 1日 (月) 4日 (木) 9日 (火) 16日 (火) 27日 (土)	学生ふりかえり休日 推薦入学試験 生涯発達看護論Ⅱ 見学実習 (～19日(金)) 補講日	推薦入試選考会議・教授会 研究科委員会
12月10日 (金) 14日 (火) 16日 (木) 21日 (火) 22日 (水) 24日 (金) 25日 (土)	修士論文研究計画書提出締切 総合看護・看護研究提出締切 クリスマスの集い クリスマス・イヴ礼拝 クリスマス礼拝 (聖餐式)	教授会 研究科委員会
冬季休暇 12月23日～1月10日 大学一斉休暇 12月29日～1月3日		
2011年 1月 4日 (火) 8日 (土) 11日 (火) 18日 (火) 21日 (金) 22日 (土) 25日 (火) 31日 (月)	新年礼拝 博士論文提出締切 授業開始・博士論文研究計画書発表会 大学創立記念式典・祝賀会、表彰式 補講日 大学創立記念日 修士論文提出締切	教授会 研究科委員会
2月 1日 (火) 2日 (水) 3日 (木) 8日 (火) 9日 (水) 14日 (月) 14日 (月) 15日 (火) 16日 (水) 18日 (金) 21日 (月) 22日 (火) " 24日 (木) 25日 (金)	学部1次入学試験 学部1次入学試験発表 学部2次入学試験 学部2次入学試験発表 学部後期試験 (~18日(金)) 修士論文審査・最終試験 (~19日(土)) 学士編入生看護援助論Ⅳ実習 (～26日(土)) 博士論文発表会	学部入試1次選考会議、臨時研究科委員会 学部入試2次選考会議、教授会 研究科委員会 看護教育会議 常任理事会 臨時研究科委員会、 臨時教授会【卒業生単位認定】 理事会・評議員会
3月 2日 (水) 3日 (木) 8日 (月) " 9日 (水) 10日 (木) 14日 (月) 15日 (火) 22日 (火) 24日 (木)	修士課程入学試験 (Ⅱ期) 修士論文発表会 (修論・上級実践) (～4日(金)) 卒業式・修了式予行演習 卒業式・修了式	修士課程入学試験Ⅱ期判定会議 科目等履修生選考会議、教授会 FD・SD研修会 研究科委員会 臨時教授会【在校生単位認定】 教育会議、教職員歓送迎会

I 法人機関

理事会

1. 構成員

[理事長] 日野原重明

[理事] 井部俊子、福井次矢、助川尚子、岡堂哲雄、青木康子、内田卿子、山口喜義、長 清子（9月より鈴木典比古）、小島操子、鴨下重彦、細谷亮太、上田憲明

[監事] 岩井郁子、吉羽真治

2. 役割・職務

- 1) 理事・監事の定数、選任、任期、補充、解任および退任については寄附行為第5条から第10条に規定している。
- 2) 理事長の職務については、同第11条に規定
- 3) 監事の職務については、同第14条に規定
- 4) 理事会については、同第15条に規定

3. 活動内容

下記のとおり3回の理事会を開催した。

- 1) 2010年5月28日（金）コートヤード・マリオット 銀座東武ホテル

理事12名出席（うち2名委任状出席）、欠席1名、監事1名出席、1名欠席

決議事項

①2009年度決算案 ②同決算の監査報告 ③2010年度入学生の学納金 ④学則変更 ⑤規程の制定および改正 ⑥理事・監事・評議員の選任 ⑦修士課程・遺伝看護学専攻分野の設置 ⑧特任教授の任用

- 2) 2010年9月30日（木）コートヤード・マリオット 銀座東武ホテル

理事13名出席（うち5名委任状出席）、監事2名出席

決議事項

①大学院学則改訂（教育課程改訂） ②規程改訂・制定 ③寄付募集 ④特任教授の任用期間 ⑤事務局長の定年延長 ⑥理事の選任 ⑦理事長選任 ⑧外部常任理事および理事長代行者の決定

- 3) 2011年2月25日（金）コートヤード・マリオット

銀座東武ホテル

理事12名出席（うち3名委任状出席）、監事2名出席
決議事項

①2011年度学費 ②学則および大学院学則変更 ③2011年度事業計画・予算案 ④退職金規程の改定 ⑤評議員の選任 ⑥聖路加看護学園サポーター制度の発足について

4. 課題

私立学校法改正により、学校法人の経営、管理運営を理事会が実質的に担うことが求められている。これを支えるには法人事務局体制の整備が必要となる。しかし、本法人は、小規模なため、財政的理由で大学教育研究に最低必要な職員しか配置できていない。法人事務局も兼務で担当している。学校法人としての長期計画、企画部門を担う職員体制の脆弱性克服が課題である。

常任理事会

1. 構成員

[理事長] 日野原重明

[理事] 井部俊子、小島操子、山口喜義

[監事] 岩井郁子、吉羽真治

2. 役割・職務

- 1) 常任理事会規程第1条（総則）において、以下のとおり規定されている。

常任理事会は、理事会の委任に基づき経営の基本方針、全般的業務執行方針、並びに重要な業務の計画・実施に関し協議し、理事会で付議する事項を除き審議し決定する。

付議事項については、同規則別表1に定められている。

1. 寄附行為で理事会、評議員会に付議することが明記されている事項についてその方針、原案等。主なものとしては、(1) 予算及び決算の編成 (2) 借入金 (3) 学園の基本財産の変動 (4) 寄附行為の変更及び重要な諸規則の制定改廃 (5) その他
2. 学納金
3. 中長期計画の策定・変更等
4. 重要な組織・機構の変更、重要な人事異動

5. 重要な施設設備の取得ならびに変更・利用
6. 重要な実習施設の契約・利用
7. 重要な契約の締結、重要な対外交渉対策等
8. 経営に影響を及ぼす紛争、訴訟等
9. 重要な労働協定の締結・改廃
10. 理事長名、学長名による賞罰
11. 理事会から常任理事会に特に審議を委譲されたこと
12. その他理事長が必要と認めた事項

3. 活動内容

1) 第20回 2010年5月20日(木)

出席者 日野原重明、小島操子、山口喜義、各常任理事、菱沼典子(井部俊子常任理事の代理)、
常任監事岩井郁子
欠席者 常任監事吉羽真治

①2009年度決算案 ②2009年度決算の監査報告
③2011年度入学生の学納金 ④学則変更 ⑤規定の制定 ⑥理事・監事・評議員の選任 以上について審議し承認された。

2) 第21回 2010年9月22日(水)

出席者 日野原重明、小島操子、井部俊子、山口喜義各常任理事、常任監事岩井郁子

①大学院学則改訂(教育課程改訂) ②規程制定・改訂(研究センター規程、認定看護管理者講習運営委員会規程改訂、実習室委員会規程制定) ③寄付募集 ④特任教授の任用期間 ⑤事務局長の定年延長 ⑥理事の選任 ⑦理事長選任 以上について審議し承認された。

3) 第22回 2011年2月18日(金)

出席者 日野原重明、小島操子、井部俊子、山口喜義各常任理事、岩井郁子常任監事
欠席者 吉羽真治常任監事

①2011年度学費 ②学則および大学院学則変更
③2011年度事業計画・予算案について ④退職金規定の改正について ⑤評議員の選任 ⑥. 聖路加看護学園サポーター制度 以上について審議し承認された。

4. 課題

常任理事会 学内常任理事会メンバーである理事長、学長、財務理事(事務局長)は毎週打ち合わせを行って

おり、日常的な業務執行体制は順調に行われているが、学外常任理事を含めた正規常任理事会の開催回数が若干少ないことが課題である。

評議員会

1. 構成員

[議長] 井部俊子

[評議員] 日野原重明、助川尚子(2月より田代順子)、菱沼典子、白木和夫、堀内成子、山口喜義、上田憲明、内田卿子、渡部尚子、鶴田恵子、青木康子、深田清香、長濱晴子、岩間節子、小松美穂子、鴨下重彦、深瀬須加子、押見輝男、林田憲明(2月より小松康宏)、若井恒雄、船本弘毅、岡堂哲雄、櫻井健司、江尻美穂子、石川陵一、佐藤エキ子、熊谷三樹雄 以上28名

[監事] 岩井郁子、吉羽真治 以上2名

2. 役割・職務

- (1) 評議員会の定数、会議の運営については寄附行為第18条に規定
- (2) 評議員会への諮問事項については、同第20条に規定
- (3) 評議員会の意見具申等については、同第21条に規定
- (4) 評議員の選出については、同第22条に規定
- (5) 評議員の任期については、同第23条に規定
- (6) 評議員の解任及び退任については、同第24条に規定

3. 活動内容

下記のとおり3回の評議員会を開催した。

- (1) 2010年5月28日(金) コートヤード・マリオット銀座東武ホテル
評議員28名出席(うち4名委任状出席)、監事1名出席、1名欠席
決議事項
①2009年度決算案 ②同決算の監査報告 ③2011年度入学生の学納金 ④学則変更 ⑤規程の制定および改正 ⑥理事・監事・評議員の選任 ⑦修士課程・遺伝看護学専攻分野の設置 ⑧特任教授の任用
- (2) 2010年9月30日(木) コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

評議員28名出席（うち1名委任状出席）、監事2名出席

決議事項

①大学院学則改訂（教育課程改訂） ②規程改訂・制定 ③寄付募集 ④特任教授の任用期間 ⑤事務局長の定年延長 ⑥理事の選任 ⑦理事長選任 ⑧外部常任理事および理事長代行者の決定

(3) 2011年2月25日（金）コートヤード・マリOTT銀座東武ホテル

評議員26名出席（うち2名委任状出席）、監事2名出席

決議事項

①2011年度学費 ②学則および大学院学則変更 ③2011年度事業計画・予算案 ④退職金規程の改定 ⑤評議員の選任 ⑥聖路加看護学園サポーター制度発足について

4. 課題

学校法人に関する重要事項の審議、理事長への意見具申はしっかりと行われており、個別議事に関する意見交換も活発である。とりたてて課題はない。

募金活動推進委員会

1. 構成員

[委員長] 井部俊子（学長）

[委員] 内田卿子（同窓会）、熊谷三樹雄（聖路加国際病院）、古川恵一（学生父母）、山口喜義（事務局長）、稲田昇三（事務局）

2. 役割・職務

(1) 2010年9月30日の評議員会・理事会の決定により、本委員会を設置。

(2) 第1回10月29日（金）、第2回12月10日（金）、第3回2011年2月4日（金）、第4回3月2日（水）に委員会を開催した。

(3) 規程はまだ整備できていないが、サポーター制度発足について、2011年2月25日（金の理事会で承認された。

3. 活動内容

(1) 第1回委員会では、従来の募金実績を確認し、この後の募金PRの手段・ターゲットの選定等を検討、11月に「教育研究維持充実資金」に絞って同窓会報、学園ニュースに同封して、募金趣意書を約3,500通発送することを了承した。

(2) 第2回では、他大学（立教・東大・青学）や機関（国境なき医師団）などの募金方法を参考に、本学の募金方法の改善を検討した。

(3) 第3回では、ゆうちょ銀行への振込入金やクレジットカードを利用した入金方法などを検討、また寄付税制の改正についての確認を行った。

(4) 第4回では、1口の金額を低く押えて募金しやすくするサポーター制度を設定することを決定し、規程を理事会に提案することにした。

4. 課題

(1) サポーター制度のスタートに備えて、ゆうちょ銀行口座を開設することと、小口定期入金に備えて、入金事務代行（ファクタリング）会社の選定を急ぐこと。

(2) 用途を制限された資金ばかりではなく、学園が効果的に必要分野に振り向けられる資金を寄付金で獲得することを希求する。

5. データ

2010 年度寄付金

種 別	件 数	金 額 (円)
施設設備充実基金	6	730,000
教育・研究振興資金	23	4,070,000
大学史編纂・自校教育・資料保存展示事業募金	24	1,746,040
未来の助産師奨学基金	6	240,000
特待生給付奨学金資金	4	10,320,000
90 周年記念事業	12	600,000
青木奨学金	4	1,218,495
るかなび基金（聖路加健康ナビスポット）	2	60,000
表彰者副賞資金	1	200,000
教育研究維持充実資金	43	6,730,000
その他		
American Council	1	452,700
聖路加・テルモ共同事業資金	1	20,000,000
その他の受配者指定寄付金	3	2,540,000
合 計	130	48,907,235

Ⅱ 大学決議機関

教授会

1. 構成員

[学 長] 井部俊子

[教 授] 伊藤和弘、菱田治子、中山和弘、菱沼典子、松谷美和子(サバティカルリーグのため9月～1月は欠席)、及川郁子、堀内成子、林 直子、亀井智子、萱間真美、麻原きよみ(サバティカルリーグのため9月～1月は欠席)、田代順子、柳井晴夫、垣添忠生、宮坂勝之(6月より)、山田雅子、森明子、小口江美子(11月まで)、福井次矢、佐藤エキ子、上田憲明

[准教授] 深谷計子、廣瀬清人、菊田文夫、大久保暢子(2010年10月まで研修のため欠席)、佐居由美(10月より休職)、平林優子、小野智美、有森直子、江藤宏美、片岡弥恵子、飯岡由紀子、卯野木健、梶井文子、瀬戸屋希、大森純子

[構成員以外の出席者] 山口喜義(事務局長)

[議事録確認者] 山田雅子(教授)、梶井文子(准教授)

[書 記] 高橋昌子(教務部)

2. 役割・職務(学則第40条)

教授会は次の事項を審議する。

- 1) 学則に関する事項
- 2) 教育課程に関する事項
- 3) 研究および教授に関する事項
- 4) 学生の入学、退学、転入学、休学、編入学、再入学、卒業および賞罰に関する事項
- 5) その他学長が諮問する事項

3. 活動内容

定例会(11回)、臨時会(3回)を開催し、上記の審議事項の他に、以下について話し合いを行った。

- 1) 学部一般入学試験において辞退者が予想を大幅に下回り、新入学生が入学定員の1.34倍を超えてしまい85名となった。このため、経常費補助金が不交付となることが考えられ、その対応について検討が行われた。
- 2) 2011年度より実施の新カリキュラムおよび保健師

国家試験受験資格取得は、選択制とすることが承認された。

- 3) 保健師国家試験受験資格取得を選択制としたことに伴い、取得に関わる実習科目の履修料を66,000円と定めた。
- 4) 本学学生を対象とした調査を実施する際の方法を再検討し、学生部からの提案通り決定した。
- 5) 国立イスラム大学保健・医学部との学術交流協定締結を決定した。
- 6) 学部生の新入生オリエンテーションのあり方を再考するために、プロジェクトを編成し検討を行い、オリエンテーションの目的を明確にした。
- 7) 聴覚に障害を持つ学生が入学することになり、その対応を検討した。
- 8) 東日本大震災の対応について、検討を行った。
- 9) 下記規程の作成または改訂を行った。

大学史編纂・資料室委員会規定、聖路加看護大学実習室委員会規程、聖路加看護大学看護実践開発研究センター規程、同センター構成員細則、同センター認定看護管理者講習運営委員会規則、紀要投稿論文の著作権に関する申し合わせ、聖路加看護大学紀要投稿要項、ウパウパ奨学金規程、ウパウパ奨学金細則

4. 課題

- 1) 新入生の学生数増加に伴い、教室等の使用や整備上の問題点が挙げられている。次年度一般入試入学者数については、71人とした。教室等の整備について、さらなる検討が必要である。
- 2) 成人看護学(慢性)の教授人事が継続審議となり、成人看護学の体制について検討を行った。その結果、現行の体制で継続することにして、教授人事を再開することになった。

研究科委員会

1. 構成員

[委員長] 菱沼典子

[委 員] 伊藤和弘、廣瀬清人、中山和弘、柳井晴夫、垣添忠生、松谷美和子(9-1月サバティカル

のため出席せず)、井部俊子、田代順子、及川郁子、小松浩子、亀井智子、堀内成子、森明子、萱間真美、麻原きよみ(9-1月サバティカルのため出席せず)、山田雅子、飯岡由紀子、卯野木健、有森直子、江藤宏美、片岡弥恵子、宮坂勝之(6月より)

[書記] 教務課森川雪絵

2. 役割・職務

学籍、カリキュラム、カリキュラム運営、入試、論文審査、最終試験、学位授与等、研究科にかかわる一切の件を企画、審議、決定し、研究科の円滑な運営をはかり、大学院教育の質の向上を目指す。

3. 活動内容

定例委員会(11回)、臨時委員会(8回)を開催し、上記の職務を遂行した。本年度の特記事項として、休学中であった学生2名の死亡による除籍、修士課程のカリキュラム改訂、特定看護師(仮称)養成調査試行事業への参加があった。周麻酔期看護学を開講し、教員を増員、次年度に修了生を輩出する見込みである。大学院のアドミッションポリシーを明文化し、HPに公開した。また、保健師助産師看護師養成所指定規則が改定され、2012年度ウィメンズヘルス・助産学専攻のカリキュラム改定が必須となっている。

修士課程のカリキュラムについて、1) 研究法Ⅰ(必修2単位)に加え、研究法Ⅱ(選択2単位)を増設し、

修論コースは研究法Ⅱを必修とする改定を行った。ホルツマー客員教授の後任にノア客員教授を招聘できた。2) 基礎系看護学Ⅱに遺伝看護学を新設する改定を行った。これに伴い、基盤分野に臨床遺伝学を開講することとなった。3) 特別講義を2科目履修できるように改定した。いずれも次年度より施行する。

厚生労働省による特定看護師(仮称)養成調査試行事業に、小児看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、周麻酔期看護学の各上級実践コースが参加した。次年度の同事業への申請も行った。

4. 課題

昨年度課題とされた修士課程の研究法は、次年度運用の上、評価する。周麻酔期看護学、遺伝看護学のコースの展開、学生募集は次年度の課題である。

修士課程の高度実践家養成での人材育成の目標が課題となっていたが、本年度専門看護師との関連を模索しつつ、特定看護師(仮称)の養成を試みた。しかし看護界、社会から見て何が必要か、さらなる検討が課題となっている。

社会人学生数増へ向けた方策については、未解決のままである。

単位取得に課題がある学生が増加の傾向にあり、再試験や再履修等の明文化を行ったが、学生の学修が困難となる様々な要因への対応は今後の課題である。

5. 資料 なし

Ⅲ 教学組織

看護学部・看護学科

【在籍者】

収容定員に対する在籍者数

(2010.4 現在)

学 年	収容定員	現 員 数	休学者数 (内数)	留年者数 (内数)
1 年	60	86	0	1
2 年	80	96	0	1
3 年	80	90	0	0
4 年	80	91	1	0
計	300	363 (121.0%)	1 (0.3%)	2 (0.6%)

【入学者】

学 部

《 》…男子内数

	学部一般	推 薦 (帰国生を含む)	学士編入学	科目等履修生
募集要項配布期間	2010年8月～ 2011年1月	2010年7月～11月	2010年7月～9月	2011年2月～ 2011年3月
願書受付期間	2010年12月20日～ 1月17日	2010年10月18日 ～10月25日	2010年9月 3日 ～9月10日	2011年2月16日 ～3月 2日
募 集 人 員	60 (推薦15名程度を含む)	15程度	20	各科目若干名
志願者数(倍率)	467 (7.8倍) 《21》	34 (2.3倍) 《0》	77 (3.9倍) 《10》	3
受験者数	449 (7.5倍) 《20》	34 (2.3倍) 《0》	72 (3.6倍) 《10》	3
合 格 者 数	1次試験 169 《5》 2次試験 80 《2》	15 《0》	20 《1》	3
補 欠 者 数	49		3 《2》	
入学者数	56 《1》	15 《0》	20 《2》	3

【卒業生】

	学部一般	編入生
卒業生数	69	21
入学時人数	70	20
上級から加わる	3	1
下級へ下がる	2	0
退学	2	0

【平均修得単位数】

平均修得単位数（学士編入生を除く）

		卒業所要 単位数	平均取得 単位数	最高取得 単位数	最低取得 単位数
教養科目	教養科目		23	40	18
	外国後科目	10	10	13	10
	小計	28	34	52	28
基礎科目		31	32	32	32
専門科目		69	72	77	69
総計		128	137	161	129

【国家試験結果】

国家試験結果

	受験者 (名)	合格者 (名)	合格率 (%)
保健師	90	84	93.3
看護師	90	90	100.0

【看護学部科目等履修生】

科目等履修生開講科目および履修者数

	授業科目	単位数	履修者数	単位修得者数	単位未履修者数
前期	心理学	2			
	生涯発達論Ⅱ	2			
	家族関係論	2			
	集団力動論	1			
	看護提供システムⅠ	2			
	看護技術論	1	1	1	
	生涯発達看護論Ⅰ	2			
	学校保健	2			
	養護概説	2			
	看護研究Ⅰ	2	1	1	
	看護ゼミナール（がん看護）	1			
	看護ゼミナール（遺伝看護）	1			
	看護ゼミナール（老年看護）	1			
	看護ゼミナール （老年期の看護援助に関する文献学習）	1			
後期	教育方法の研究	2			
	教育制度論	2			
	カウンセリング概論	2			
	教職総合ゼミ	2			
	ヒューマンセクシュアリティ	2			
	地域看護論Ⅰ	2			
	急性期看護論Ⅰ	3	1	1	
	看護政策論	2			
	看護研究Ⅱ	3			
			計	3 (100%)	0

【実習施設】

2010 年度実習施設一覧表

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
1	看護援助論Ⅳ	1	聖路加国際病院	31	臨地実習G	3	江戸川区小岩健康サポートセンター
2	臨地実習A	2	聖路加国際病院	32	臨地実習G	3	中野区中部保健福祉センター
3	臨地実習A	2	済生会横浜市東部病院	33	臨地実習G	3	中野区北部健康福祉センター
4	臨地実習A	2	神奈川県立こども医療センター	34	臨地実習G	3	中野区南部保健福祉センター
5	臨地実習B	2	聖路加国際病院	35	臨地実習G	3	中野区鷺宮保健福祉センター
6	臨地実習B	2	東府中病院	36	臨地実習G	3	港区みなと保健所
7	臨地実習C	2	聖路加国際病院	37	臨地実習G	3	おもて参道訪問看護ステーション
8	臨地実習D	2	聖路加国際病院	38	臨地実習G	3	浅草医師会立訪問看護ステーション
9	臨地実習E	2	永生会永生病院	39	臨地実習G	3	医師会立中央区訪問看護ステーション
10	臨地実習E	2	救世軍ブース記念病院	40	臨地実習G	3	医師会立品川区訪問看護ステーション
11	臨地実習E	2	ブース記念老人保健施設グレイス	41	臨地実習G	3	セコム駒込訪問看護ステーション
12	臨地実習E	2	介護老人保健施設リハポート明石	42	臨地実習G	3	セコム世田谷訪問看護ステーション
13	臨地実習F	2	東京武蔵野病院	43	臨地実習G	3	セコム新宿訪問看護ステーション
14	臨地実習G	3	杉並区荻窪保健センター	44	臨地実習G	3	セコム吉祥寺訪問看護ステーション
15	臨地実習G	3	杉並区高円寺保健センター	45	臨地実習G	3	セコム練馬訪問看護ステーション
16	臨地実習G	3	杉並区上井草保健センター	46	臨地実習G	3	練馬区医師会立訪問看護ステーション
17	臨地実習G	3	杉並区高井戸保健センター	47	臨地実習G	3	自由が丘訪問看護ステーション
18	臨地実習G	3	豊島区池袋保健所	48	臨地実習G	3	すみだ訪問看護ステーション
19	臨地実習G	3	豊島区長崎保健相談所	49	臨地実習G	3	東京白十字訪問看護ステーション
20	臨地実習G	3	練馬区石神井保健相談所	50	臨地実習G	3	板橋ロイヤル訪問看護ステーション
21	臨地実習G	3	練馬区豊玉健康相談所	51	臨地実習G	3	白十字訪問看護ステーション
22	臨地実習G	3	練馬区関保健相談所	52	臨地実習G	3	あすか山訪問看護ステーション
23	臨地実習G	3	足立区竹の塚保健総合センター	53	臨地実習G	3	訪問看護ステーションけせら
24	臨地実習G	3	足立区江北保健総合センター	54	臨地実習G	3	訪問看護ステーションみけ
25	臨地実習G	3	千代田区千代田保健所	55	臨地実習G	3	訪問看護ステーションけやき
26	臨地実習G	3	中央区日本橋保健センター	56	臨地実習G	3	訪問看護ステーションさぎそう
27	臨地実習G	3	中央区中央区保健所	57	臨地実習G	3	城北訪問看護ステーション
28	臨地実習G	3	中央区月島保健センター	58	臨地実習G	3	東電さわやか訪問看護ステーション中野
29	臨地実習G	3	江戸川区中央健康サポートセンター	59	臨地実習G	3	訪問看護ステーション芦花
30	臨地実習G	3	江戸川区葛西健康サポートセンター	60	臨地実習G	3	岩本町訪問看護ステーション

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
61	臨地実習G	3	新みさと訪問看護ステーション	73	総合実習	2	永生会永生病院
62	臨地実習G	3	河北杉並訪問看護ステーション	74	総合実習	2	川崎市立井田病院
63	臨地実習G	3	すみれ訪問看護ステーション	75	総合実習	2	東芝ヒューマンアセットサービス(株)保健支援事業部
64	臨地実習G	3	桜台訪問看護ステーション	76	総合実習	2	小鹿野町保健福祉センター
65	臨地実習G	3	訪問看護ステーション北沢	77	総合実習	2	NTT東日本首都圏健康管理センター
66	総合実習	2	聖路加国際病院	78	総合実習	2	訪問看護ステーションあかし
67	総合実習	2	訪問看護ステーションパリアン	79	総合実習	2	助産婦石村
68	総合実習	2	東京武蔵野病院	80	総合実習	2	森田助産院
69	総合実習	2	聖路加国際病院訪問看護ステーション	81	総合実習	2	かもめ助産院
70	総合実習	2	共同作業所ひやしんす城北	82	総合実習	2	結核予防会結核研究所
71	総合実習	2	多摩たんぽぽ介護サービスセンター	83	総合実習	2	杏林大学医学部附属病院
72	総合実習	2	小竹メンタルサポート				

Class of 2010 (2011年3月卒業) 総合看護・看護研究Ⅱタイトル一覧

学籍番号	氏名	領域	指導教員	タイトル
07B01	浅野 晴子	基礎	佐竹 澄子	乳房ケアにおける里芋湿布導入の背景
07B02	池添 日菜	母性	五十嵐ゆかり	在日外国人への母子保健に関する情報発信の内容と評価
07B03	磯部 愛	廣瀬	廣瀬 清人	不登校児童・生徒の支援における認知行動療法的介入の有用性
07B04	市村真季江	母性	蛭田 明子	機械的モニタリングを用いた正常産児に対するカンガルーケアにおける、助産師の構造 —安全性と有効性の視点から—
07B05	今崎 葉月	教育	堀 成美	葬祭業者の業務における感染予防対策とエンパワーミングについての実態調査
07B06	上野 真実	基礎	蜂ヶ崎令子	病棟看護師における清拭動作時の姿勢と身体負荷の検討
07B07	大坪 清志	廣瀬	廣瀬 清人	闘病記、手記からみた、家を離れて死を迎える癌患者と死刑囚の死を意識しながら生きる者の心理についての文献検討を通しての比較分析
07B08	小形 優子	母性	蛭田 明子	NICU 長期入院児の退院に向けた看護師の関わり
07B09	小澤 絢名	中山	中山 和弘	Q&A サイトの投稿におけるデートDV の定義と認知度について
07B10	小野友貴奈	母性	有森 直子	子どもを持つことにより変化する夫婦関係への看護支援 —文献的検討—
07B11	河野優美絵	老年	山本 由子	糖尿病高齢者の食事療法に伴う食づくり行動での困りごとと看護師の役割
07B12	菊池 華奈	地域	大森 純子	20代女性のライフスタイルに合わせた子宮頸癌検診の受診促進方法に関する研究 —情報の周知方法及び受診方法に焦点をあてて—
07B13	京増あやめ	中山	中山 和弘	Twitter で禁煙を支援する iPhone アプリ「禁煙なう」での発言からみた禁煙継続要因としてのつながりの状況

学籍番号	氏名	領域	指導教員	タイトル
07B14	黒白 夏妃	鶴若	鶴若 麻理	患者の宗教的ニーズとその表出を促す要因についての研究
07B15	小板橋 彩	教育	井部 俊子	看護学生が職場選択する際の意味決定プロセスと意思決定要因に関する研究
07B16	小西 咲	岩辺	岩辺 京子	知的障害者への性教育の現状と問題点、支援のあり方について －教諭へのインタビューからの考察－
07B17	小林 聡美	老年	梶井 文子	要介護高齢者のその人らしさへの配慮 ーおむつ交換に着目してー
07B18	小屋野幸呼	家族	有森 直子	先天性疾患親の会に看護学生が参加したことに対する親の体験
07B19	坂口 達哉	成人 急性期	卯野木 健	人工呼吸器バンドルの導入とそのコンプライアンスの VAP 発生率への影響
07B20	坂本和嘉子	母性	小黒 道子	NICU 退院児を育てる母親のニーズに対する訪問看護師の役割の検討
07B21	佐々木美麗	精神	瀬戸屋 希	リエゾン専門看護師の救命救急領域における自殺企図者に対するケアの現状
07B22	佐藤 繭子	中山	中山 和弘	医療報道における新聞と Twitter の反応の比較からみたソーシャルメディアの可能性 ー帝京大病院院内感染事件を題材としてー
07B23	眞田 和美	老年	梶井 文子	男性介護者に関する研究において明らかになっていることと今後の課題について ー要因・支援・虐待に関する文献検討ー
07B24	猿渡ゆかり	母性	小黒 道子	低出生体重児とその母親が NICU を退院する際に行われる母乳育児支援の現状と課題
07B25	白土 聡美	鶴若	鶴若 麻理	ALS 患者の人工呼吸器装着に関する意思決定と看護支援の検討
07B26	志波 美帆	国際	長松 康子	フィリピン都市部在住の HIV 感染者が抱える困難
07B27	杉岡 寛子	母性	片岡弥恵子	新生児へのビタミン K 投与に関するリーフレットの作成
07B28	鈴木 彩乃	成人 急性期	卯野木 健 四本 竜一	術前に実施する薬液シャワー浴の手術部位感染症予防の有効性に関する文献検討
07B29	鈴木ゆかり	国際	長松 康子	フィリピン都市部在住の HIV 感染者が抱える困難
07B30	高木 彩	岩辺	岩辺 京子	不登校児童生徒をもつ母親の心理的変化過程および望ましいサポートのあり方についての分析
07B31	高木 由希	鶴若	鶴若 麻理	カップルの出生前診断の選択という意思決定に影響する要因と倫理観に関する研究
07B32	高見沢 早	国際	長松 康子	フィリピン・マニラのスラム街における男性喫煙者の喫煙状況および意識調査
07B33	竹之内 優	地域	留目 宏美	発達障害を持つ児童生徒に対する養護教諭の個別的な関わり ー養護教諭へのインタビューからわかったことー
07B34	田淵 陽子	成人 急性期	御子柴直子 飯岡由紀子	わが国の遺族ケアの実態把握と課題の考察
07B35	藤平 実可	教育	堀 成美	東京都自治体ホームページの予防接種に関する情報提供の現状と今後の課題
07B36	徳田 里美	精神	角田 秋	看護師がパーソナリティ障害を持つ人との関わりにおいて重視するコミュニケーション方法 ー患者の状態に改善がみられた 7 事例の分析からー
07B37	長岡紗規子	中山	中山 和弘	インターネットで販売される HIV 郵送検査の利用者の声からみた普及理由と問題点
07B38	中村 真理	岩辺	岩辺 京子	日本の公立小学校に通学するニューカマー児童に対する養護教諭のサポート ー文献検討による考察ー
07B39	布谷なつき	精神	角田 秋	統合失調症をもちながら育児を行う人に対する地域での看護
07B40	野口 由布	成人 急性期	飯岡由紀子	看護における「傾聴」の文献的考察

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タイトル
07B41	野田 真澄	成人 急性期	卯野木 健	ICUに関連したうつ病の発症率とうつ病発症のリスクファクター －文献検討を通して－
07B42	萩原 伶奈	老年	亀井 智子	デイサービスに通う認知症高齢者の家族がスタッフに対して求めている もの：連絡帳の分析から
07B43	橋本千絵美	鶴若	鶴若 麻理	改正臓器移植法の臓器摘出要件に対する新たな提案 －自律性の尊重という観点から－
07B44	林 聖子	地域	留目 宏美	小学校における性教育の評価のあり方 －養護教諭へのインタビューから見えたこと－
07B46	平井小百合	教育	堀 成美	洗髪技術学内演習の必要性の検討
07B47	平木 彩子	成人 急性期	卯野木 健	ICU 退室後の患者の妄想的記憶の実態について －発生率及びリスクファクター－
07B48	平野 悠理	母性	小黒 道子	NIDCAP の日本での導入の実際と課題について
07B49	平原 詩織	菊田	菊田 文夫	自然体験活動における看護学部学生スタッフの学びの特性に関する考察 －聖路加親子キャンプの事例を通して－
07B50	藤田 祥子	管理	井部 俊子	病院に勤務する看護師が仕事と育児を両立させるために活用できる制度 に関する文献調査
07B51	古川 愛	教育	堀 成美	看護学生を対象とした子宮頸がんの意識調査 －子宮検診受診率向上のための考察－
07B52	細田 愛菜	精神	瀬戸屋 希	リエゾンナースの活動の実際と今後の可能性 －リエゾンナースの活動報告 14 件における文献検討－
07B53	堀内理恵子	精神	大熊 恵子	暴力行為により保護室での隔離を受けている統合失調症の患者の症状改 善に有効なコミュニケーション技術を中心とした看護介入の分析
07B54	堀江 千紘	国際	長松 康子	フィリピン・マニラのスラム街における男性喫煙者の喫煙状況および意識 調査
07B55	前田 緑	母性	實崎 美奈	妊娠期における緊急帝王切開の説明の必要性とその内容に関する文献検討
07B56	松本 真緒	岩辺	岩辺 京子	「睡眠」についての意識変容をもたらす保健学習の考察 ー生活実態調査 と授業実践を通じて (小学生児童編) ー
07B58	水木 優	母性	實崎 美奈	不妊治療後に双胎妊娠した女性の心理的特徴に関する文献検討 －各期において必要とされる看護の考察－
07B59	光成真理子	国際	長松 康子	フィリピン都市部のスラム街に暮らす子供たちの発育状況に関する研究
07B60	三宅 智子	成人 慢性期	大坂和可子	唾液分泌機能が低下している患者の唾液分泌を促進し、口腔内乾燥を予防 するためのケアに関する文献検討
07B61	宮本 彩	地域	小林 真朝	女性の産後再喫煙行動の要因と支援のあり方 －働く女性 2 名のインタビューを通して－
07B62	御代 晋平	菊田	菊田 文夫	親子キャンプにおける自然体験や世代間交流が参加者の成長に与える影 響について
07B63	村田麻喜恵	地域	小林 真朝	カンボジアの精神保健の現状と今後の課題を沖縄の精神保健の歴史と現 状から考える ーフィールドワークと文献検討からー
07B64	安田ゆり子	教育	堀 成美	義務教育における性教育内容の検討 －高校 1 年生へのアンケート調査から－
07B65	山口 侑美	地域	留目 宏美	欧米系在日外国人の結核検診受診困難に関する影響要因
07B66	山添 沙織	管理	井部 俊子	看護師のキャリアの多様性 ー看護師経験を活かせる認定資格についてー
07B67	横川 彩夏	母性	有森 直子	HPV および HPV ワクチンに関する情報の比較検討 －日本国内の関連機関ホームページおよび刊行物等の記述の分析を通して－

学籍番号	氏名	領域	指導教員	タイトル
07B68	横田 真理	成人急性期	池口 佳子 林 直子	クリティカルケアの場において家族の突然死を体験した遺族のニーズから考察する遺族ケア
06B51	藤井 まい	管理	井部 俊子	看護師のキャリアの多様性 ―看護師経験を活かせる認定資格について―
06B55	三浦 千佳	地域	大森 純子	P 県 Q 町における運動指導の実際と地域ケアシステムの課題 ―生活習慣病を持つ住民の保健行動支援に焦点を当てて―
06B59	百瀬 綾子	成人急性期	卯野木 健	ICUにおけるせん妄の実態と、せん妄発症のリスクファクター ―文献検討を通して―
08B71	相羽 有美	地域	小野若菜子	膵臓がんとともに生きる A さんの3年半の体験 ―闘病記の分析から―
08B72	泉 智子	地域	小野若菜子	自宅で死を迎える高齢者へのケアマネジメントにおける福祉職介護支援専門員の困難
08B73	岩下ひとみ	成人慢性期	飯岡由紀子	退院調整看護師の介入とその結果を踏まえた役割の文献的考察
08B74	歌城 歩	老年	山本 由子	日常型世代間交流における高齢者の役割（感）を支えるケアについての考察 ―日課を設けないデイサービス施設での試みから―
08B75	海老沢実樹	管理	野田由美子	韓国の保健診療員制度の変遷と日本の地域医療への適用可能性
08B76	岡本 幸子	中山	中山 和弘	アメリカ政府による、質が高くわかりやすい健康情報提供を通じた市民のヘルスリテラシー向上をめぐる動向
08B77	小田ちひろ	老年	亀井 智子	入院中の認知症高齢者の転倒要因の検討 ―インシデントレポートの分析から―
08B78	小野 絢子	成人慢性期	大坂和可子	ターミナル期にある独居患者の生活を支えるチームケア ―ボランティアを導入し、継続するための訪問看護師の支援―
08B79	金 有実	管理	野田由美子	韓国の保健診療員制度の変遷と日本の地域医療への適用可能性
08B80	里見 全代	基礎	伊東美奈子	パフォーマンスを生で鑑賞することから観客が受け取っている心理的効果
08B81	志沢 陽子	基礎	大橋久美子	採血に伴うネガティブな感情に対する援助モデルの有効性の検討 ―患者の対処方略と看護師の援助に注目して―
08B82	篠原 美穂	地域	小林 真朝	世代間交流に対する無限の可能性 ―住民同士の交流と文化をつむぎ、次世代に伝えていくこと―
08B83	清水 泉	中山	中山 和弘	Q&A サイト上の HPV ワクチンに関する質問と回答からみた情報ニーズと課題
08B84	杉森めぐみ	管理	野田由美子	外国の看護師資格の国際的相互認証制度と日本の現状
08B85	鈴木ちひろ	精神	大熊 恵子	リワークプログラムにおいて参加者のモチベーションに影響を与える要因についての考察 ―リワークで出会う「仲間」の存在に焦点を当てて―
08B86	千野 裕子	成人急性期	池口 佳子 林 直子	終末期がん在宅療養者の家族の介護負担感・介護肯定感に関する文献検討
08B87	濱田 千絵	成人急性期	卯野木 健 四本 竜一	ICUにおける呼吸理学療法の呼吸器合併症予防への有効性
08B88	山下 文	管理	井部 俊子 中村・野田	看護基礎教育におけるコスト管理の理解とその必要性
08B89	矢萩 裕子	地域	小野若菜子	終末期医療における看護師の死生観に関する文献レビュー
08B90	横山 仁美	基礎	大橋久美子	採血に伴うネガティブな感情に対する援助モデルの有効性の検討 ―患者の対処方略と看護師の援助に注目して―
07B77	熊倉 綾子	地域	大森 純子	自閉症児者の母親が経験する子育てのストレスと親育ちのプロセス ―手記の分析を通して―

【学部選択科目履修状況】

		授業科目	学年	人数
基礎科目	人間文化	キリスト教倫理	1年	3
		音楽	1・2年	6
		美術	1・2年	26
		文学	1・2年	開講せず
		哲学	1年	14
		倫理学	2・3年	4
		宗教学	2・3年	15
	人間社	歴史学	1・2年	11
		法学（日本国憲法）	1・2・4年	66
		教育原理	1年	60
		教育方法の研究	1年	35
		社会学	1年	61
		心理学	1年	22
		教育制度論	2年	13
		カウンセリング概論	2年	18
		教職概論	2年	12
		教育課程論	4年	11
		道徳及び特別活動論	4年	11
		生徒指導論	4年	11
		女性学	2年	35
	人間言語	国語表現法	2年	開講せず
		総合英語	1年	11
		英語Ⅲ一A	1年	11
		英語Ⅲ一B	2年	6
		文献講読A	2年	6
		文献講読B	3年	8
		英語表現法Ⅲ一S	2年	23
		英語表現法Ⅲ一W	3年	4
		異文化コミュニケーション	3年	37
		ドイツ語Ⅰ	1年	31
		ドイツ語Ⅱ	2年	6
		中国語	1・2年	10
人間情報	情報科学	1・2年	開講せず	
	統計学演習	4年	0	
人間自然環境	生物学	1年	15	
	物理学	1年	7	
	化学	1年	5	
体育	体育Ⅰ	1年	56	
	体育Ⅱ	1～4年	55	

		授業科目	学年	人数
門科目	合科目	総合科目Ⅱ（健康科学）	1・2年	12
		総合科目Ⅲ（生活科学論）	1・2年	30
		教職総合ゼミ	2年	14
	看護基本	看護提供システムⅡ	4年	0
		看護技術論	4年	3
	人間作用	生涯発達看護論Ⅲ	4年	開講せず
		家族発達看護論Ⅱ	4年	15
	環境保持相強互化	地域看護論Ⅲ	4年	7
		学校保健	3年	10
		養護概説	4年	11
	人間環境修正	慢性期看護論Ⅲ	4年	0
		リハビリテーション看護論Ⅱ	4年	4
	人間作用環境回復相	急性期看護論Ⅲ	4年	65
	看護統合	看護研究Ⅱ	4年	80
		総合看護	4年	11
		看護ゼミナール（苦痛を伴う検査や処置を受ける子どもと家族の看護）	4年	7
		看護ゼミナール（遺伝看護）	4年	9
		看護ゼミナール（看護教育）	4年	0
		看護ゼミナール（国際看護）	4年	8
		看護ゼミナール（生活行動が障害された患者とその家族の看護）	4年	開講せず
		看護ゼミナール（老年看護学実践ゼミ）	4年	4
		看護ゼミナール（老年期の看護援助に関する文献学習）	4年	8
		看護ゼミナール（自校史演習）	4年	0
		看護ゼミナール（感染症看護）	4年	11
		看護ゼミナール（がん看護）	4年	19
養護実習Ⅰ		4年	11	
養護実習Ⅱ		4年	11	

【立教大学全学共通カリキュラム】履修状況

授業科目	履修者数
現代社会のと人間	2
心の健康	1
経済学の世界	1

【立教大学科目履修状況】

	前期	後期
開講科目数	110	118
履修科目数	3	0
履修者数	4	0
単位習得率	75.00%	

入試委員会

1. 構成員

[委員長] 及川郁子

[委員] 井部俊子、菱沼典子、麻原きよみ、田代順子、柳井晴夫、山口喜義（事務局）

[書記] 榎田智恵美（教務部）

2. 役割・職務

- (1) 聖路加看護大学入試委員会規程により看護学部入学者選抜の実施に関する事項を審議し、公正な方法で実施運営を図る。
- (2) 審議事項は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、入学者選抜方法の検討と選抜試験の実施、入学選抜に関する情報提供および情報開示、各委員（出題、校正、面接、採点）の人選、入学者選抜の統計、その他入学者選抜に関すること。重要事項は教授会の議を経て決定する。

3. 活動内容

- (1) 委員会は常設で定例会は原則毎月1回開催した。
- (2) 適切な入学定員確保に向けた入学者へのヒアリングと、育英奨学金による入学者10名に対するヒアリングを行った。育英奨学金については、他大学へ進学しないことの抑止力となったのは1名であった。
- (3) 推薦（帰国生を含む）入試の出願資格に「インタ

ーナショナルスクール」および「朝鮮中高級学校」が該当するか否かを検討した。2011年度は該当しないことになったが、来年度入試に向けて引き続き検討する。

- (4) 学士編入学試験における情報開示について周知した。また合否基準のランク・グループを整理し12月に情報開示を行った。
- (5) 一般入試の実施にあたり学力試験の休憩時間は科目間を30分間に拡大し、受験生へ配慮した。また聴覚障害のある受験生に対して次の特別措置をとった。
 - ①試験監督のアナウンスを書面で伝達
 - ②面接官はFM補聴器に連動したFMワイヤレスマイクを使用（本人持参）
 - ③試験場内待機係と面接場への誘導係を配置
- (6) 学士編入学「生物」と一般入試「生物」「化学」の入試問題で入試ミスがおきたため大学ホームページで受験生に周知し、文部科学省へ報告した。検証の結果、問題作成をマニュアル通りに行っていれば防止できたと思われる。今後は入試問題作成ミス防止策として「入試問題作成に関わる留意事項」に校正手順と出題形式を追加する。
- (7) 昨年の入試マニュアルに不足していた採点入力手順について記載し実施した。
- (8) 昨年まで教務部長と入試委員長の役割と責任の明確化が曖昧であったが、今年度は入試委員長が中心となって各入学試験を実施した。

4. 課題

- (1) 出題ミスを反省し防止策として「入試問題作成に関わる留意事項」の見直しと周知・徹底
- (2) 推薦入学者の出願資格ならびにフォローアップ方法の検討
- (3) 高等学校の平成25年度新学習指導要領の実施に伴う出題教科・科目の検討
- (4) 大学入試センター試験についての調査および検討

カリキュラム運用委員会

1. 構成員

[委員長] 麻原きよみ（サバティカル・リープのため9月～1月は菱沼典子教授が代行）

[委員] 伊藤和弘、菱田治子、菊田文夫、廣瀬清人、鶴若麻理、中山和弘、菱沼典子、田代順子、松谷美

和子（サバティカル・リーブのため9月～1月は欠席）、及川郁子、林 直子、飯岡由紀子、有森直子、亀井智子、萱間真美、井部俊子、岩辺京子、大森純子（麻原委員長がサバティカル・リーブ期間中出席）

〔書 記〕 教務部 高橋昌子

2. 役割・職務（カリキュラム運用委員会規程）

本学の教育理念のもと、現行の看護学部教育課程の運用および編成に係る事項について所用の審議を行い、必要あれば教授会に上程する。具体的には、以下のことを審議する。

- (1) 教育課程の編成に関すること
- (2) 授業科目および実習の実施に関すること
- (3) 時間割の編成に関すること
- (4) 前各号に係る評価に関すること
- (5) 単位の認定に関すること
- (6) 非常勤講師、臨時助教の採用に関すること
- (7) 学生の履修状況に関すること
- (8) その他教育課程に関すること

3. 活動内容

11回の委員会を開催し、例年の上記審議事項の他に、以下について審議を行った。

- (1) カリキュラム2011について検討し、最終案を決定した。それに伴い、カリキュラム改正の変更承認申請の調整および次年度から実施する新カリキュラムについて詳細を決定した。
- (2) 公衆衛生看護学実習の履修者上限を30名とし、選考基準や履修科目を決定した。
- (3) 新カリキュラムでの実習レベル目標について決定した。
- (4) 新カリキュラムにおいて、英語の公的試験による単位認定は、入学前に取得したもののみを8単位まで認定することに改正した。
- (5) 立教大学「人間と看護」の次年度以降の担当者を、各部門で1年ごとに持ち回りとすることを決定した。
- (6) 養護教諭二種免許状から一種免許状取得を含めた科目等履修生について検討し、養護教諭一種取得を目指す卒業生の科目等履修生を2011年度から実際に受け入れることになった。
- (7) インフルエンザの対応について検討し、通常の病気と同じ扱いとすることを決め、欠席扱いとしないとする記載を便覧から削除した。

また、風疹の抗体検査が（－）の場合、実習前に各自

予防接種を受けることを追加し、B型肝炎の予防接種やインフルエンザワクチン接種を実習前までに受けることを推奨する旨、便覧に加筆した。

- (8) 実習等の安全対策について、実習施設に教員がいる場合の対応について検討し、便覧に加筆した。

4. 課題

- (1) 昨年度課題となっていた、保健師国家試験受験資格選択者の上限、選考基準および履修科目について検討し決定したが、具体的な履修方法については、今後検討していく必要がある。
- (2) 養護教諭実習の実施時期について検討し、新カリキュラムでは9月に実施することに決定した。今後は実際に実施しながら不都合等がある場合は検討することとなった。
- (3) 養護教諭二種免許から一種免許を取得するための科目等履修生について検討を行い、詳細を決定し実際に受講生を受け入れることができたが、養護実習1単位の履修について、今後どのように実施していくか、さらなる検討が必要である。
- (4) 「情報科学」「生涯発達看護論Ⅲ」については、2011年度も開講ができなかった。新カリキュラムでは、開講できない科目がないよう、調整する必要がある。
- (5) カリキュラム2011の変更承認申請は無事終了し、新カリキュラムをスタートする予定であるが、2012年度から保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正となり、本年度もカリキュラムの変更承認申請が必要となるため、再度検討、審議を進めていく必要がある。

a. カリキュラム2011

1) 構成員

〔委員〕 麻原きよみ、松谷美和子、有森直子、飯岡由紀子、大森純子、小野智美、梶井文子、佐居由美、瀬戸屋希、廣瀬清人、長松康子、中村綾子

2) 役割・職務

2011年度から開始するカリキュラムを作成する。

3) 活動内容

8回の定例会議および7回の臨時会議を開催した。

また、カリキュラム2011の説明と意見交換、およびその結果をカリキュラム2011に反映するために、カリキュラム運用委員会の定例会議および臨時会議に計3回メンバーが出席した。さらに、ファカルティ・スタッ

フミーティングにおいて、全教職員対象にカリキュラム 2011 についての説明と意見交換を 1 回行った。2010 年 5 月にカリキュラム 2011 が完成し、教授会で承認された。それ以降は、実習の展開方法やレベル目標を検討し、結果をカリキュラム運用委員会に報告した。

4) 課題

2011 年度入学生から適用されるカリキュラム 2011 が混乱なくスムーズに運用できることが課題である。

b. 実習単位認定者連絡会

1) 構成員

[担当者] 佐居由美、小野智美、卯野木健、市川和可子、五十嵐ゆかり、山本由子、瀬戸屋希、小林真朝、長松康子

2) 役割・職務

レベル I、II の実習単位認定者による学生の指導に関する会議

3) 活動内容

定例会議 3 回、臨時会議 1 回の計 4 回会議を開催し、学生の実習指導および指導体制の整備について検討を行った。

- (1) 各実習における学生の学習状況を共有した。
- (2) カリキュラム 2011 に向けて各領域から意見を出し合った。
- (3) 実習オリエンテーションの方法および内容について検討した。
- (4) 達成度自己記入用紙レベル評価用紙の使用の実態と課題を検討した。
- (5) その他、実習上の検討課題について話し合いを行った。

4) 課題

臨地実習オリエンテーション内容の再検討。具体的には下記の通りである。

- (1) 教務部オリエンテーションの時期、担当者、内容の検討
- (2) オリエンテーションの内容で重複している箇所の再検討
- (3) 患者からの暴力やセクシャルハラスメントに関するオリエンテーションの時期と内容、担当者。また、それらを受けた学生に対するサポートシステムの構築

c. 臨地実習 II 担当者会議

1) 構成員

[担当者] レベル II の実習担当者全員

2) 役割・職務

レベル II の実習運営のための検討会議

3) 活動内容

4 月、6 月に会議を開催し、臨地実習に向けた準備と実習指導体制についての検討を行った。

- (1) 臨地実習オリエンテーションの内容について検討した。
- (2) 事前自己学習、および技術確認の内容と方法について検討した。
- (3) 実習レベル目標 II の達成度自己記入用紙が十分に機能していないため、内容と活用方法について検討した。活用方法を欄外に明記し、オリエンテーションを実施した。
- (4) 今年度より情報システム委員会から情報管理に関するオリエンテーションを実施した。
- (5) 聖路加国際病院新電子カルテシステムへの対応について検討した。

4) 課題

- (1) 実習の積み上げなどに関する全体的な内容のオリエンテーションを誰が担当し、いつ、何回実施するか
- (2) 臨地実習オリエンテーションの内容で重複している箇所の再検討
- (3) 患者からの暴力やセクシャルハラスメントに関する実習前オリエンテーションの時期と内容、担当者。また、それらを受けた学生に対するサポートシステムの構築
- (4) 聖路加国際病院新電子カルテシステムの操作方法に関するオリエンテーション内容

実習室委員会

1. 構成員

[委員長] 平林優子

[委員] 四本竜一、島田裕司、伊東美奈子、浅井宏美

2. 役割・職務

聖路加看護大学の学生が必要な看護技術を修得するために実習室の環境を整える。

- (1) 地下および 6 階実習室と教材が、学生の学習環境

- として整うように管理・運営する。
- (2) 実習室自己学習支援員を配置し、学生の自己学習支援を行えるように依頼・調整する。

- (1) 実習室使用頻度が高く、学生の自己学習時間の確保や支援員の在室場所が課題である。
- (2) 継続勤務が可能な自己学習支援員の確保が必要。
- (3) 今年度自己学習支援員の活用が前年度より少なかった。PR や積極的な関わりが必要
- (4) 災害時に使用される物品が多く、場所の明示、危機管理時の責任の所在・整備方法の確立

3. 活動内容 (表1・2参照)

4. 課題

表1 2010年度実習室委員会活動内容

活動項目	活動内容
実習室支援員の確保・支援業務依頼・日程調整・勤務管理・学内周知	原則週2回(火・木)の13~19時に各1名の支援員が活動ができるように調整した。掲示とメールで学内に周知した。
地下、6階の実習室インベントリー	3月11日(金)10:00~15:30、教員、学生アルバイト、自己学習支援員の計46名で実施。不要物品の整理、修理依頼・アーカイブへの移行含む。終了後の地震による持ち出し物品が多く、支援員・委員会教員で後日数日間を使って整備を続行した。
医療機器・教材の点検	①臨床工学士による医療機器の点検を依頼(7月、3月)、②蘇生・シミュレーター人形の点検を業者に依頼(2月)、③機器の充電、通電・作動点検を毎月確認(自己学習支援員による)
物品の修理・破損物の処理	年間を通じて実習室物品・教材の修理や破損物処理の窓口となる。
物品の貸し出し・実習室使用の調整	学内教員の教材・物品貸し出し表の作成(学内のどこで使用しているかわかるようにした)。外部および学生への貸出票(教務課保管)による管理。文化祭や病院の研修等の貸出しの相談・調整・準備
業者による清掃依頼・インベントリー時の棚・物品の清掃	業者への清掃依頼(8月、2月)(倉庫内ワックスがけ、ベッド、床頭台、棚扉や枠等)。インベントリー時(3月)に全棚内・教材物品類の清掃、ブラインド清掃依頼
全ベッドのリネンの洗濯・交換	8月、3月(2回)実施(震災により再度整備が必要だった)
実習室必要物品の購入・予算計上	各領域からの要望を聴取して予算計上。今年度実習室購入備品は、幼児モデル人形・摘便浣腸モデル・ベッドサイドテーブル・ワゴン等
実習室環境整備	①スクリーンの洗濯等これまで業務に入っていなかった整備を検討実施した、②ベッド整備、③日々の環境整備、⑤設備修繕上の連絡調整
実習室使用に関するアナウンス	①自己学習室マップの掲示とアナウンス、②実習室使用上のマナーの呼びかけ(掲示等)、③実習室に関連する情報のアナウンス
地震時の物品調達・片付け・整備	地震による帰宅困難者の宿泊のための物品貸出し・返却作業・洗濯・整備等、実習室物品の災害用の貸し出し、片付け

表2 2010年度実習室自己学習支援員による自己学習支援件数

(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1年生	0	0	0	0	0	0	67	36	68	54	5	0	230
2年生	0	35	136	29	1	0	0	5	0	0	9	0	215
3年生	0	0	0	0	0	66	0	0	1	0	0	0	67
4年生	0	0	29	7	0	0	0	0	0	0	0	0	36
大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	35	165	36	1	66	67	41	69	54	14	0	548

体育デー委員会

1. 構成員

- [委員長] 榊原あゆみ（3年生）
[副委員長] 添田桜（3年生）
[委員] 4年生：藤田祥子、白土聡美、
学士11：岩下ひとみ、横山仁美
学士13：揚村雄介、岩瀬和子
2年生：佐藤さやか、細川舞子
1年生：今井莉絵、澤田彩乃
学士14：安達麻衣、岩坂典子
[顧問] 大濱あつ子（特別顧問）、小口江美子、大橋久美子、進藤務

2. 役割

1) 体育デーの企画・運営

本委員会は学生委員が主体的に企画・運営を行う。教職員顧問は企画・運営のサポートを中心に行っている。

2) 体育デーの目的（学生作成の2010体育デーのしおりより）

- (1) 他の学年の人たちや先生方との親睦を深める。
- (2) 身体を動かし、気持ちの良い汗を流す。
- (3) 参加者の皆さんが思い切り楽しむ。

3. 活動内容

新入生委員勧誘を行いメンバーが揃った後、体育デーまでの期間の昼休み時間を利用し週1～3回、学生の自主的な話し合いのもとで体育デーの企画を行った。主な準備内容として、役割分担・種目決め・ルール決め・必要物品の準備に加え、各チームの参加者出場種目の決定・体育デーのしおりの作成と参加者への配布（学生全員、参加教職員）などを行った。

2010年度の体育デーは、6月2日（水）中央区総合体育館にて開催された。競技種目は、バレーボール・ポートボール・ドッジボール・台風の目・玉入れ・障害物競走・綱引き・チーム対抗リレーであった。

競技の結果は、1位：白チーム（4年・学士12回生）、2位：黄チーム（3年・学士13回生）、3位：青チーム（2年・学士14回生）、4位：赤チーム（1年・大学院生）であった。

体育デー当日は、あらかじめサポーターとして募集した学生とともに各種目の審判の実施、司会進行などを実

施した。教職員顧問は適宜ミーティングに参加し、学生の自主的な活動へのアドバイスや援助、教職員の出場種目の調整等を行った。また、本年度よりマナー委員によるマナー大賞も設けられ、学年全員がスタッフとして参加協力し、マナーがよく、かつよく活躍した1年生に贈られた。

4. 課題

- 1) 体育デーのしおりの配布範囲と配布方法についてあらかじめ委員会で確認を行い配布もれがないようにすること
- 2) 非常勤教員への連絡が遅くならないよう配慮すること
- 3) 年度が変わり役割変更する際は学生間の引き継ぎを綿密に行うこと（体育デー当日使用の物品の整理・保管、体育デー当日の改正点、会計報告書提出など）

5. 資料・データ 該当なし

学生支援推進プロジェクト

文部科学省 平成22年度「大学教育・学生支援推進事業」
学生支援推進プログラム

地域教育力を活かした学士力および GSH 向上プログラム
井部俊子（事業推進代表者）・菊田文夫（事業推進責任者）

1. 本取組の概要

本学が位置する中央区築地・明石町地区は、祭礼や季節行事等の組織的な運営のため、地域住民の世代間交流が積極的に行われている。そこで、このプログラムでは、本学の学生ひとりひとりが看護専門職業人として、また、よき市民として、アイデンティティを確立できるように、地域教育力を活かした活動を地域住民に支援いただきながら企画実施し、学部学生全体の学士力向上と本学の GSH（Gross Students' Happiness = 学生総幸福）向上を目指す。

2. 本年度の重点的取組

昨年度に引き続き、専門職業人に不可欠なコミュニケーションスキルの獲得や、近い将来、職場や家庭で担うべき役割を果たすために必要とされる社会的責任感・倫

理観・自己管理能力を育むための取組を行った。そのための具体的な内容として、「地域住民との世代間交流、異文化交流を進めていく活動プログラム」と、就職活動に大きな寄与が期待できる「卒業生と在校生を繋ぐ縦の関

係づくりプログラム」および「応急処置・救命処置のトレーニングと日本救急医学会認定 ICLS コース資格取得支援プログラム」を盛り込んだ。

3. 本年度の活動プログラム

活動プログラムなど	監修	開催日時	参加者
救急・クリティカルケアセミナー	卯野木健 四本竜一	5月11日・13日 6月10日	40名
特別講演「新生児集中治療室の日々」	小黒道子	6月25日	34名
メディカルラリー	卯野木健 四本竜一	7月10日	50名
先輩が伝えたいルカ生への処方箋	中山久子	7月30日	28名
野外活動等で出会う、緊急時の応急処置講習会	卯野木健	12月18日	20名
第1回 ICLS コース	卯野木健 四本竜一	1月20日・29日	10名
第2回 ICLS コース	卯野木健 四本竜一	2月10日・19日	12名
クリティカルケアセミナー	卯野木健 四本竜一	2月12日	22名
「聖路加はっとストリート」制作支援	学生支援推進 プログラム事務局	4月号・6月号	
学生支援推進プログラムのホームページ更新	学生支援推進 プログラム事務局		

4. 課題

本年度は、本補助事業に協力いただいている地域住民や協同者の都合、ならびに、東日本大震災の影響により実施を見送った活動プログラムが複数あり、来年度に実施すべく、その準備を進めたい。さらに、来年度についても、学部学生の学事暦を考慮した活動プログラムの実施計画を立てるとともに、メールマガジンを定期的送信するなど、学部学生に積極的な参加を呼びかける広報活動にも力を注ぎたい。

の事前打ち合わせ、事後の報告反省会を行うので、看護教育会議では全体での課題の共有や、看護教育界、実践現場の新しい情報について相互に提供しあう。

3. 活動内容

会議を4月、7月、2月の3回開催した。病院からはメンバー紹介、看護部の方針、新人の採用計画、卒業生を含めた新人ナースの状況、病院の新規事業計画等、大学からは学生数、カリキュラムの年間計画（実習計画を含む）、実習における学生の状況、研究センターの活動等について、情報交換を行った。また、カリキュラムが2011年度から変更するにあたり、その説明を行った。

看護教育会議

1. 構成員

看護系教員全員、聖路加国際病院看護部長・副部長ならびにナースマネージャー全員

2. 役割・職務

主たる実習病院である聖路加国際病院の看護部と連携を図り、本学の看護教育の質の向上を図る。

個別の実習科目については、看護部および当該病棟と

4. 課題

相互に報告に終始しがちで、双方のスタッフが集まる貴重な機会を有効に使える工夫が前年度からの課題であったが、これは本年度も解決はされなかった。次年度は、討議するテーマを設定するなど工夫をしたい。

教育会議

1. 構成員

[司会] 菱沼典子学部長

[メンバー] 本学専任教職員、客員教授、兼任教授、
非常勤講師、臨床教員

[書記] 教務部 高橋

2. 役割

本学専任の教職員の他に、非常勤講師、臨床教員が一堂に会し、その年度の本学の活動内容を知ってもらうこと、また、意見交換を行い本学の教育の質の向上を目指す。

3. 活動内容

毎年年度末に1回開催している。2010年度は3月24日(木) 16:00~17:30に開催し、以下の内容で進められた。

(1) 理事長挨拶

(2) 学長挨拶

(3) 大学の状況報告

(4) 教育に関する意見交換

図書館の機能強化について論議された。

4. 課題

非常勤講師や臨床教員に本学の活動を知ってもらうよい機会である。しかし、平日の昼間という時間帯や今年度は東日本大震災の影響もあり、外部講師の出席者が少ない。

また、限られた時間の中で、それぞれの報告に時間がとられるため、十分な意見交換や発言の時間が少ないことが課題であった。そのため、報告事項は簡潔にまとめて、必要最小限の時間に収め、参加者の意見交換を行った。できるだけ多くの外部講師との意見交換をし、「本学の教育の質向上」に役立つ場とするかが今後の課題である。

看護学研究科

大学院収容定員に対する在籍者数 (2010.4 現在)

修士課程

学 年	収容定員	現 員 数
1 年	看護 : 15	23
	看護 : 15	19
2 年	看護 : 15	26
	看護 : 15	18
3 年		6
計	60	92 (153.3%)

博士後期課程

学 年	収容定員	現 員 数
1 年	10	11
2 年	10	17
3 年	4	27 (内留年者 17)
計	24	55 (229.1%)

大学院入学状況 (2010 年度入学者)

左欄：一般 右欄：社会人

		入学志願者									
		当該大学出身者		他大学出身者		外国の学校卒		その他		計	
修士課程	看護学	4	0	18	8	2	0	2	0	26	8
	ウィメンズ	9	0	26	0	0	0	0	0	35	0
博士後期課程		3	2	0	7	1	0	0	0	3	9

		入学者									
		当該大学出身者		他大学出身者		外国の学校卒		その他		計	
修士 課程	看護学	4	0	12	7	0	0	0	0	16	7
	ウィメンズ	8	0	11	0	0	0	0	0	19	0
博士後期課程		3	2	0	6	1	0	0	0	3	8

大学院修了者数

修士課程		博士後期課程 (学位授与)	博士後期課程 (単位取得後退学者)
看護学専攻	22 うち社会人5	7 (2)	2
ウィメンズヘルス・ 助産学専攻	15		

() 内は学位授与者のうち単位取得後退学後再入学し学位を受けたもの

大学院科目等履修者受け入れ状況

授業科目	単位数	履修者数	単位取得者数
がん看護学・緩和ケア特論Ⅲ	2	1	1
がん看護学・緩和ケア実習	6	1	1

研究生受け入れ状況

指導教授	研究生数
井部俊子教授	1
田代順子教授	2
及川郁子教授	1
松谷美和子教授	1

大学院受入状況

	修士課程			博士後期課程	博士後期課程 2次募集	研究生
	学内推薦	I 期	看護学Ⅱ期 ウィメンズ2次			
募集要項の付期間	2010年 6月～7月	2010年7月～ 2011年2月	2010年7月～ 2011年2月	2010年 7月～10月	2010年11月～ 2011年2月	2010年9月～ 2011年2月
願書受付期間	2010年7月2日 ～7月8日	2010年8月27日 ～9月2日	2011年2月10日 ～2月17日	2010年9月27日 ～10月1日	2011年2月10日 ～2月17日	2011年1月11日 ～2月10日
募集人員	若干名	㊦： 12 ㊧： 15	㊦： 3名 ㊧： 若干名	10	若干名	—
志願者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 24 社会人 4 ㊧： 18 社会人 0	㊦： 9 社会人 3 ㊧： 2 社会人 1	15 うち社会人 9	3 うち社会人 3	4 (継続3名を 含む)
受験者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 23 社会人 4 ㊧： 18 社会人 0	㊦： 9 (4.7倍) 社会人 3 ㊧： 2 社会人 1	15 うち社会人 9	3 うち社会人 3	—
合格者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 18 社会人 2 ㊧： 11 社会人 0	㊦： 7 社会人 3 ㊧： 2 社会人 1	9 うち社会人 7	3 うち社会人 3	—
補欠者数	0	㊦： 1名	0名	—	—	—
入学者数	㊦： 0 ㊧： 4	㊦： 16 社会人 2 ㊧： 10 社会人 0	㊦： 7 社会人 3 ㊧： 2 社会人 1	9 うち社会人 6名	3 うち社会人 3	4 (継続3名を 含む)

㊦：看護学専攻 ㊧：ウィメンズヘルス・助産学専攻

がんプロフェッショナル養成プラン

1. 構成員

[運営委員] 林 直子

[評価委員] 山田雅子

[インテンシブコース担当] 本田晶子

2. 役割・職務

本学では、大学院修士課程がん看護専門看護師コースにおいて、毎年4～5名の修了生を輩出してきた。本年度も連携大学および医療施設との教育連携を基盤とし、学生の専門性に応じた実務教育の強化を図った。本学、北里大学、慶應義塾大学による<南関東がん看護教育ト

ライアングル>による協働を整え、がん看護専門看護師教育の相互交流を強めた。インテンシブコースとして開講3年目を迎えたがん化学療法認定看護師コースの研修生27名に対し、連携大学の腫瘍内科専門医、がん専門薬剤師等の専門家による特別講義や臨床講義により、総合的な学習が展開できるよう努めた。また、がん看護専門看護師の臨床活動の支援、修了生を対象とした事例検討会やコンサルテーション事業の定期的な開催や、大学院修士課程において米国臨床看護師等との情報交換を図り、継続的な臨床実践の強化・支援に取り組んだ。

3. 活動内容と成果

1) 大学院修士課程がん看護専門看護師コースにおい

ては、臨床実習や実習カンファレンス、教育会議を通して学生のがん看護高度実践能力の向上やチーム医療の質向上を目指したインテンシブコース担当育の充実を図った。また、がん化学療法看護認定看護師教育課程として教育コース（600時間、受講者27名）を実施した。教育内容を洗練するために教育会議で評価、改善を図り、十分な教育環境を提供するよう努めた。

- 2) シミュレーションラボにおける化学療法看護演習のために演習プログラムに基づき、ラボ整備、共同演習を実施した。抗がん剤曝露に関しては、蛍光塗料などを用いた手技による曝露範囲の特定などを行い、抗がん剤の安全な投与管理、リスクマネジメント、スキル等の習得を図った。研修生のがん看護高度実践能力としてアセスメント、根拠に基づく実践力の向上を得た。演習による技術習得は、臨床実習の実地トレーニングに連動させ更なる技術獲得を図った。
- 3) インテンシブコースとして、がん看護専門看護師コース修了後認定審査を受けるcandidatesやがん看護専門看護師を対象にした事例検討会、CNSが主催するコンサルテーション事業の継続開催と評価を行い、がん看護専門職者の継続教育の強化を図った。また、10月末に、米国・メイヨークリニックの臨床看護師・看護管理者を招いて、大学院生、がん看護に携わる教員と日米のがん看護の臨床および研究の現状についてディスカッションを行った。

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム

「市民参画型ケアを推進する看護学若手研究者の育成」に関する委員会（PCC 若手研究者育成選定委員会）

1. 構成員

[委員長] 井部俊子、菱沼典子、麻原きよみ（9-1月サバティカル）、山田雅子、田代順子、堀内成子、研究支援室高木裕也、

[書記] 教務課中島薫

2. 役割・職務

2009年度末に日本学術振興会の組織的な若手研究者等海外派遣プログラムに採択された。本プログラムの効果的な施行を協議、運用し、プログラムの目的を達成する

ために、2009年度末より委員会を設置した。

3. 活動内容

- 1) 派遣課題の募集に関する取り決めの策定と運用
募集要項の作成と募集を2009年度1回、2010年度2回行った。
- 2) 派遣課題選定に関する取り決めの策定と運用
選定基準の策定し、評価表による評価とそれに基づく採用者の決定を行った。
- 3) 若手研究者派遣のための学内の協力体制の醸成
助教が学内の教育業務等を離れるにあたって、学内の協力体制は不可欠であり、全ての教員に本プログラムの意義を伝えて、協力を得ている。
大学院生の派遣申請を推奨するため、情報周知や相談窓口での意欲喚起に取り組み、本事業によって研究者としての成長が得られるよう支援した。
- 4) 派遣活動の評価
本年度、日本学術振興会から実施状況とプログラムの有用性についてのヒヤリングを受けた。派遣課題については報告書の提出を義務付けているが、適正な公表と評価の必要性を認識した。

4. 課題

本学において、助教が長期間不在になるのは教育業務(実習指導)との関係で困難であり、また、看護界においては教員不足であって博士研究員のポジションにいる者はほとんどいないことから、長期間の派遣が難しい。

派遣修了後の情報共有と評価のシステムが不十分なので、次年度は早急に取り組む必要がある。また、学外への成果公表も課題である。

5. 資料（2009年度及び2010年度の2年分を一括掲載）

応募件数・採用件数一覧

	2009年度	2010年度 (第1回)	2010年度 (第2回)
応募件数	20	11	15
採択件数	10	7	11

※2009年度及び2010年度(第2回)の採択分は、次年度の派遣予定を含む数

2009年度派遣課題一覧

五十嵐ゆかり (博士研究員)	2010/3/7 ～2010/3/27	オーストラリア	①シドニー・トレシリアン家族ケアセンター及び移民局翻訳通訳サービス/Masako Shkara ほか ②シドニー・リバプール病院/Kyle Mortimer ほか ③メルボルン・ウィメンズヘルス多文化共生センター/Carmela Leracitano	外国人女性への出産ケア：医療機関と地域の取り組みの現状
マフトウファ (博士後期課程2年)	2010/2/13 ～2010/5/26	インドネシア	国立イスラム大学 Gatot Subroto 病院 Fatmawati 病院 Mayapada/Bella/Amelia 病院	Novice Nurses' Experience during Their First Six Month in Indonesia
加藤木 真史 (修士課程1年)	2010/3/14 ～2010/3/21	英国	11th St Mark's Enhanced Recovery Symposium (at St. Mark's Hospital in London)	術後回復を促進する早期離床プログラムの検討

2010年度派遣課題一覧

長松康子 助教シニア	2011/2/4 ～2011/4/6	①英国 ②米国	①マージーサイド・アスベスト被災者支援グループ/Mr. John Flanagan ②コロンビア大学/Dr. Richard Garfield	英国・米国における中皮腫患者に対する看護
小林真朝助教	2011/2/4 ～2011/4/7	米国	University of Washington School of Nursing Psychosocial and Community Health Professor Noel J. Chrisman	生活習慣特性を活用したコミュニティ支援プログラムの開発における CBPR の応用
伊東美奈子助教	2011/2/6 ～2011/4/6	米国	California Nurse Foundation Mentor Project Director, Anna Mullins California Nurse Mentor Project	看護師の離職率低下に貢献する効果的なメンターシッププログラムとは
イエニタ・アグス 博士後期課程1年	2010/7/10 ～2010/8/31	インドネシア	国立イスラム大学	Effectiveness of Health Education to Pregnancy Women to Reducing Maternal Mortality in Indonesia; a Baseline Survey
フリーダ・E・マデニ 修士課程1年	2010/6/14 ～2010/9/26	タンザニア	国立ムヒンビリ健康科学大学看護学部	Evaluation of Reproductive Health Awareness Program for Unmarried Adolescent in Urban Tanzania
上田直子 修士課程1年	2010/6/17 ～2010/6/29	米国	カリフォルニア大学サンフランシスコ校看護学研究科 (国際協働論演習)	日米比較による今後の日本の助産師裁量権拡大の検討
徳武郷子 修士課程2年	2010/6/17 ～2010/6/29	米国	カリフォルニア大学サンフランシスコ校看護学研究科 (国際協働論演習)	日本における preconception care の効果的な普及方法に関する一考察—e-learning を使用したプログラムの実施、評価を通して—
前田菜穂子 修士課程2年	2010/6/17 ～2010/6/29	米国	カリフォルニア大学サンフランシスコ校看護学研究科 (国際協働論演習)	産後出血の対応アルゴリズム作成
瀬戸山陽子 博士後期課程2年	2010/10/6 ～2010/10/10	米国	Health 2.0 San Francisco 2010	健康情報共有のための、Web2.0 技術の活用
北園真希 修士課程2年	2010/11/3 ～2010/11/22	米国	The International Conference on Perinatal and Infant Death Pregnancy Loss and Infant Death Alliance	妊娠中に子どもの死に直面した母親の死別プロセスにおける意思決定とその要因

看護実践開発研究センター

運営委員会

1. 構成員

- [センター長] 山田雅子
 [研究科長・WHOコラボレーティングセンター長]
 菱沼典子
 [PCC 実践開発部門長] 亀井智子
 [研究活動支援部門長] 森明子
 [キャリア開発支援部門長] 松谷美和子
 [WHOコラボレーティングセンター事務局] 田代
 順子
 [研究センター専任研究員] 小口江美子 (11月末ま
 で)、實崎美奈、八重ゆかり、田代真理、大畑美
 里、本田晶子
 [研究支援室係長] 高木裕也
 [オブザーバー] 山口喜義事務局長

2. 役割・職務

看護実践開発研究センター運営委員会規定第3条に基づき、センター運営の基本方針に関する事、事業計画に関する事など、センター運営に関して審議した。

3. 活動内容

11回の運営委員会を開催し、主としてセンターの組織

改変およびセンター事業の推進について審議した。主な議題の詳細を表1に示した。

また研究支援の対象となった文部科学省及び厚生労働省の科学研究費による研究一覧を資料として添付した。表2には、客員研究員及び博士研究員とその研究活動の一覧を示した。

4. 課題

今年度は、研究センター組織の見直しに取り組んだ。見直しのきっかけは、昨年度、継続教育を拡大し、予算的にも大きな事業となってきたが、センターのそもそもの目的である市民とのパートナーシップに基づく新しい看護の創生について見えづらくなってきたこと、また、5つの部門と6つのはたらきについて系統だった説明がしにくいという意見が研究員から寄せられたことにある。教職員に対するアンケートなどを通して、1年間の議論を経て、3月末に2010年度からの組織の骨格が定まってきたところである。

新しい構成は、「PCC 実践開発」「研究活動支援」「キャリア開発支援」の3つの部門を立て、WHO コラボレーティングセンターの機能との連携を強化し、また、センターでのさまざまな情報を集約し市民向けも含めて発信していくための機能を「情報集約発信担当」として位置づけた。2010年度以降、組織図に従った機能の整理、運営委員会構成員の検討などを行い、組織再編の目的を実現していきたいと考えている。

5 資料・データ

表1 看護実践開発研究センター運営委員会各回の主な議題

回数	開催日	議 題
第1回	4月13日	センター組織について 組織変更に伴う規定等の改正について 客員研究員・博士研究員の承認 学生の実習あるいは研究受け入れに関する申請書について 2010年度センター事業における事業主の変更について 認定看護師教育課程細則改正(案)について
第2回	5月11日	研究活動支援担当業務案について 客員研究員・博士研究員の承認 学生の実習あるいは研究受け入れに関する申請書について
第3回	6月8日	「ルカ子母乳育児相談室」・「赤ちゃんがやってくる」の開催場所変更について 認定看護師教育課程規則改正について 大学院生対象研究助成について<安田記念医学財団> 博士研究員の承認

第4回	7月13日	博士研究員について 研究助成に関する委員会規程・審査基準・手順について センター事業における講師出勤簿兼請求書の導入について 来年度のセンター事業計画の検討
第5回	9月14日	研究センター事業 2011年度事業申請について
第6回	10月12日	研究センター事業について「研究センター利用のしおり」見直し・改定における修正案の検討 センター専任研究員の公募について 兼任研究員の承認について
第7回	11月9日	2011年度研究センター事業・聖路加テルモ共同研究事業「事業計画書」・予算（案）について
第8回	12月14日	2011年度研究センター事業・聖路加テルモ共同研究事業「事業計画書」・予算（案）について 聖路加・テルモ担当研究員の採用について 研究支援部門の目的と活動について 研究センター専任研究員 2011年度の人事について
第9回	1月11日	聖路加・テルモ担当研究員の採用について 2011年度聖路加テルモ共同研究事業「事業計画書」・予算（案）について 市民アカデミー・新健康カレッジ 来年度の方向性について 2010年度以降のセンター報告書について
第10回	2月15日	専任研究員の任期満了および再任について 2010年度センター報告書原稿依頼について
第11回	3月8日	次年度役割分担について 2010年度研究センター報告書について（依頼文、報告書フォーム、作成スケジュールの確認）

表2-1 専任・兼任研究員およびテマ一覧（文部科学者省科学研究者） ○：専任研究者 *：部門長・担当

分類	氏名	代表・分担	研究テーマ	研究種目
PCC 開発	麻原きよみ	代表	保健師の倫理的実践に関わる自治体行政組織のエスノグラフィー	挑戦的萌芽研究
	有森 直子	代表	女性のリプロダクション健康課題の意思決定支援教育コンソーシアムとプログラム検証	基盤研究B
	飯岡由紀子	代表	女性生殖器系がんサバイバーのためのテーラーメイドケアの開発と評価	基盤研究B
	飯岡由紀子	代表	セルフトリートメントシステムの開発ーホルモン治療中の乳がん患者に焦点をあててー	挑戦的萌芽研究
	井部 俊子	分担	若年層における非正規雇用と社会参入に関する組織領域間の比較研究（研究代表者：原山哲）	基盤研究B
	江藤 宏美	代表	乳幼児の睡眠分析システム情報共有プラットフォームの構築	基盤研究B
	江藤 宏美	分担	現場変革に活かす新生児がリードするラッチングと母乳育児支援の効果検証（研究代表者：井村真澄）	基盤研究B
	江藤 宏美	代表	乳児睡眠のホームモニタリングを可能にする自動映像処理システムの開発	挑戦的萌芽研究
	及川 郁子	分担	小児医療における病院/在宅/地域をつなぐ高度実践看護師クリニックのシステム構築（研究代表者：片田範子）	基盤研究A
	大久保暢子	代表	慢性期脳血管障害患者の寝たきりを防ぐ背面開放座位ケアプログラムの開発	若手研究B
	大坂和可子	代表	がん体験者が伴走する Web 版乳がん患者サポートグループの開発	若手研究B
大隅 香	代表	妊産婦が安心できる助産師のワーク・ライフ・バランス実現に向けたアクションリサーチ	若手研究B	

PCC 開発	大森 純子	代表	新興住宅地の向老期世代を対象とした“地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発	基盤研究B
	小野 智美	代表	日帰り手術に向けての幼児の自律性を支援する看護介入プログラムについての効果研究	基盤研究B
	小野 智美	代表	大都市・都市部以外に居住する幼児の経皮水分蒸散量（TEWL）の基礎的調査	挑戦的萌芽研究
	梶井 文子	代表	在宅認知症高齢者のための学際的チームの連携強化を支援する評価システムの開発と検証	基盤研究B
	片岡弥恵子	代表	DV 女性と子どもの生き抜く力を支えるアドボカシープログラムランダム化比較試験	基盤研究B
	*亀井 智子	代表	長期テレナーシングによる在宅呼吸不全患者の憎悪予防効果の検証とガイドライン創生	基盤研究B
	*亀井 智子 梶井 文子 山本 由子	分担	都市部における世代間交流プログラム実践評価指標と視覚教育媒体の有効性の検証（研究代表者：糸井和佳）	基盤研究C
	小林 真朝	代表	生活習慣特性を活用したコミュニティ支援プログラムの開発と評価	若手研究B
	○實崎 美奈	代表	不本意に治療を中断する不妊症患者夫婦の要因分析：治療開始から1年後までの追跡調査	基盤研究C
	瀬戸屋 希	代表	精神科看護における家族ケアリストの開発に関する研究	若手研究B
	鶴若 麻理	代表	アジアの高齢者の終末期医療をめぐる事前指示に関する国際比較研究	若手研究B
	永森久美子	代表	長期的な子産み子育て力につながる「女性を中心としたケア」の実証	基盤研究C
	中山 和弘	代表	インターネット情報に翻弄される患者、家族を支援する看護職のためのeラーニング開発	基盤研究B
	長松 康子	代表	アスベスト関連相談に関する保健師向けガイドラインの構築と評価	基盤研究C
	野田有美子	代表	経口摂取に替わる栄養管理の導入を検討する患者・家族の意思決定支援ガイドの開発	研究活動 スタート支援
	林 直子	分担	オンライン学習と電子メール相談による子宮頸がんに対するリスクコントロールの促進（研究代表者：稲吉光子）	基盤研究B
	林 直子	分担	乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの開発と妥当性の検討（研究代表者：鈴木久美）	基盤研究B
	平林 優子	代表	慢性疾患幼児の在宅における療養行動発達支援を家族と協働する外来看護システムの開発	基盤研究C
	堀内 成子	代表	貴重児妊娠の不安を軽減するための就寝中胎動ホームモニタリングの実用化開発	基盤研究B
	堀内 成子	分担	日本人体験者のナラティブに基づくベリネイタル・ロスのケアガイドラインの開発（研究代表者：太田尚子）	基盤研究B
堀内 成子	代表	ローリスク妊産婦に対する過剰防衛医療の実態と回避方略	挑戦的萌芽研究	
御子柴直子	代表	代償期肝硬変における肝機能温存、発癌予防の栄養セルフマネジメントプログラムの開発	研究活動 スタート支援	
*森 明子	代表	妊娠を望む女性の気がかりとプレコンセプション・サポートの検討	基盤研究C	
○八重ゆかり	代表	看護ケア・エビデンス創出のための臨床研究と系統的レビューの基盤づくりに関する研究	研究活動 スタート支援	
山本 由子	代表	在宅高齢糖尿病患者のインスリン療法導入時評価指標の開発と映像媒体の利用効果	基盤研究C	

PCC 政策	井部 俊子	代表	わが国の病院に勤務する看護師の交替制勤務のあり方に関する研究	基盤研究B
キャリア 開発支援	麻原きよみ	代表	地域看護における体系的倫理教育ラダーの開発と評価	基盤研究B
	萱間 真美	代表	看護学の知識体系を構築するための質的研究方法を用いた学位論文指導プログラムの作成	基盤研究B
	佐居 由美	代表	安楽ケア実践力を育む看護基礎教育プログラムの構築	基盤研究C
	*田代 順子	代表	看護プロフェッショナルに向けた遠隔臨地実習のウェブ基盤学習支援の開発と評価	基盤研究B
	菱沼 典子	代表	少子化社会の学生の特性に合わせた看護学導入プログラムの開発	基盤研究B
	深谷 計子	代表	日米の看護師国家試験問題のテキスト理解と語彙：使用言語の難易度の妥当性	基盤研究C
	*松谷美和子	代表	看護学士号をもつ新人看護師に求められる臨床実践能力開発のための学習モデルの研究	基盤研究B
	柳井 晴夫	代表	臨地実習生の質の確保のための看護系大学共用試験（CBT）の開発的研究	基盤研究A
柳井 晴夫	分担	医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題－看護職志望者の適正と大学入試－（研究代表者：倉元 直樹）	基盤研究B	

表2-2 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（厚生労働科学研究費補助金）

○：専任研究員

分類	氏名	代表・ 分担	研究テーマ	研究種目
PCC 開発	萱間 真美	分担	精神障害者の退院促進と地域生活のための多職種によるサービス提供のあり方とその効果に関する研究（研究代表者：伊藤順一郎）	障害者対総合研究事業
	梶井 文子	分担	高齢者の経口摂取の維持ならびに栄養ケア・マネジメントの活用に関する研究（研究代表者：葛谷雅文）	長寿科学総合研究事業
	梶井 文子	分担	チームによる効果的な栄養ケア・マネジメントの標準化をめざした総合的研究（研究代表者：吉池信男）	長寿科学総合研究事業
	○山田 雅子	分担	チーム医療の推進における看護師等の役割拡大・専門性向上に関する研究（研究代表者：井上智子）	地域医療基盤開発推進研究事業
PCC 政策	萱間 真美	分担	精神保健医療福祉体系の改革に関する研究（研究代表者：竹島正）	障害者対総合研究事業
	萱間 真美	分担	新しい精神科地域医療体制とその評価のあり方に関する研究（研究代表者：安西信雄）	障害者対総合研究事業
	萱間 真美	代表	精神疾患の受療中断者や未治療者等を対象としたアウトリーチ（訪問支援）の支援内容等の実態把握に関する研究	厚生労働科学特別研究事業
	○山田 雅子	分担	在宅療養支援の実態把握と機能分化に関する研究（研究代表者：武林亨）	厚生労働科学特別研究事業

内閣府特命担当大臣表彰

聖路加看護大学看護実践開発研究センターが行っている社会貢献事業のうち「子育て・家族支援」に関係する活動が、文部科学省の推薦により内閣府特命担当大臣表彰を受けた。「赤ちゃんがやってくる」「ルカ子母乳育児相談」「天使の保護者ルカの会」「多世代交流型デイプログラム聖路加和みの会」等、People-centered Careの活動や本学教職員の昼夜を問わない努力、そして看護研究が社会に貢献していることが認められたもので、とてもうれしい出来事である。

2010年11月24日、総理大臣官邸で行われた表彰式に、センター長山田雅子教授、堀内成子教授、亀井智子教授が出席し、大臣より表彰状と副賞の盾を授与された。

表2-3 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（その他の研究課題）

○：専任研究員 *：部門長

分類	氏名	代表・分担	研究テーマ	研究種目
PCC 開発	*亀井 智子	代表	St. Luke's College of Nursing geriatric care project, Innovation of intergenerational day program in urban community in Japan,	Takayama Foundation, Switzerland.
	*亀井 智子	代表	認知症高齢者と家族のライフレビューにもとづく「メモリーブック」作成過程の心理的効果の検証:認知症高齢者と家族の継続面接による自己肯定感、抑うつの変化に焦点を当てて	聖路加看護学会看護実践科学研究助成金
	萱間 真美	代表	精神科地域医療におけるアウトリーチケア提供の新しいモデル構築に関する研究	医療科学研究所委託研究
PCC 政策	及川 郁子	代表	医療ニーズの高い障害者等への支援策に関する調査	厚生労働省障害者総合福祉推進事業
	*亀井 智子	代表	特別養護老人ホームにおける看護職のケア管理に関わる調査研究事業	厚生労働省老人保健事業推進費等補助金
	萱間 真美	代表	精神障害者退院促進支援事業	東京都中央区事業委託
	○山田 雅子	分担	訪問看護の需給推定に関する研究事業（研究代表者：村嶋幸代）	厚生労働省老人保健事業推進費等補助金
	○山田 雅子	代表	24時間訪問看護サービス提供の在り方に関する調査研究事業	厚生労働省老人保健健康増進等事業
PCC 国際	○山田 雅子	分担	療養通所介護の多機能化に関する調査研究事業（研究代表者：齋藤 訓子）	厚生労働省老人保健健康増進等事業
	*田代 順子	代表	「我が国の国際保健協力人材の継続的確保に関する研究」国際保健協力看護・助産人材の継続的確保に関する研究：国際看護・助産専門職キャリアパスモデル開発	国際医療研究開発費「国際医療協力研究分野」

表2-4 客員研究員および研究テーマ一覧

○：専任研究者 *：部門長

分類	氏名	研究テーマ	学内共同研究者	所属
PCC 開発	小林 紀子	母乳育児支援	堀内 成子	小林紀子助産院
	横塚 夏奈	母乳育児に対するケア	堀内 成子	助産師 横塚夏奈
	石井 慶子	周産期女性への心理的サポート(不妊・喪失)、グループ・ファシリテーター養成	堀内 成子	お空の天使 パパ&ママの会
	堀内 祥子	女性への心理的サポート、心的外傷後ストレス障害(PTSD)	堀内 成子	聖路加看護大学
				ペリネイタル・ロス研究会
	太田 尚子	日本人体験者のナラティブに基づくペリネイタル・ロスのケアガイドラインの開発	堀内 成子	静岡県立大学
	大久保菜穂子	市民向け健康講座の展開	○山田雅子 *森 明子 菱沼典子	新宿鍼灸柔整 専門学校
小松 浩子	リンパ浮腫ケアステーション(乳がん術後上肢リンパ浮腫の自覚症状の測定用具の開発と妥当性検証)、サポートプログラム	○大畑美里	慶応義塾大学看護医療学部 聖路加国際病院 (非常勤看護師)	

	矢ヶ崎 香	リンパ浮腫ケアステーション（乳がん術後上肢リンパ浮腫の自覚症状の測定用具の開発と妥当性検証）、サポートプログラム	○大畑美里	慶応義塾大学看護医療学部 聖路加国際病院 (非常勤看護師)
キャリア 開発支援	小松 浩子	がん看護事例検討会	○本田晶子	慶応義塾大学看護医療学部 聖路加国際病院 (非常勤看護師)
	矢ヶ崎 香	がん看護事例検討会	○本田晶子	慶応義塾大学看護医療学部 聖路加国際病院 (非常勤看護師)
	沼田 美幸	訪問看護認定看護師教育に関する研究	○山田雅子	社団法人 日本看護協会
	内田千佳子	退院調整看護師養成のためのプログラム開発	○山田雅子	訪問看護パリアン
	廣岡 佳代	退院調整看護師養成のためのプログラム開発	○山田雅子	訪問看護パリアン
	吉田 千文	退院調整看護師養成のためのプログラム開発	○山田雅子	千葉県立保健 医療大学
	福田 裕子	退院調整看護師養成のためのプログラム開発	○山田雅子	あおぞら診療所 新松戸

表2-5 博士研究員および研究テーマ一覧

部 門	氏 名	研究テーマ	共同研究者
PCC 開発	新福 洋子	タンザニアの母親たちの出産体験に基づく 家族立会いガイドラインの作成	堀内 成子

People-Centered Care (PCC) 実践開発部門

1. 構成員

〔部門長〕 亀井智子

〔開発担当事業主〕 片岡弥恵子(赤ちゃんがやってくる、堀内成子(ルカ子母乳育児相談・天使の保護者ルカの会・天使の保護者ルカの会; グリーフカウンセリング、森明子(ルカ子ウイメンズヘルスカフェ)、大坂和可子(乳がん女性のためのサポートプログラム)、大畑美里(リンパ浮腫ケアステーション)、及川郁子(子どもの健康、知ろう、考えよう)、山本由子(高齢者と家族へオンリーワンの「思い出帳(メモリーブック)」作りプロジェクト)、梶井文子(介護者のためのリフレッシュアートプログラム)、亀井智子(多世代交流型デイプログラム聖路加和みの会・高齢者のための転倒骨折予防実践講座・出張介護講座)

2. 役割

本年度より研究センター内の組織改正があり、昨年度まで「看護ケア部門」に属していた本部門は、PCC 実践開発部門開発担当、政策担当、国際担当の3つ担当に細分化された。

- 1) 開発担当は、看護実践開発研究センターの一部門として、People-centered health care にもとづく新たな看護サービスモデルの研究的開発、および看護モデルの実践提供を通じて、市民主導型看護ケア(PCC)のあり方を探求する。
- 2) 専任・兼任研究員が事業主となりさまざまな世代にある人々のさまざまな健康課題に焦点をあて、ナースクリニックの場において、広く市民に看護モデルの実践を提供するとともに、研究成果を蓄積し、根拠のある看護を開発・創生する。
- 3) 各事業主が学部生、大学院生、専門職、他大学の教員等を対象として、看護の実践開発を理解する等の目的で教育の機会、および場として各事業を提供する。

3. 活動内容

1) 事業の推進

看護ケア部門の各事業は、年度計画のもとに計画的に実施している。

開催回数、参加者数は表1の通り、年間2,766名の市民を対象に事業が展開された。

2) 開発担当ミーティング

本担当に属する研究事業全体の内容や課題、および様々な対象者に安全に事業を展開するための方法について話し合う担当ミーティングを1回開催した。

3) Quality control

本部門に属する事業の質を維持・向上するために「構造-実践過程-成果」の各要因から事業の質評価

を行っている。また、安全に看護実践を提供するために、事業開始時に各事業ごとに安全対策指針を策定し、それにもとづく安全対策を実施して各事業を展開した。

4. 課題

研究者と市民との協働により、看護実践を研究開発する上で、最も重要な要素はコミュニケーションと安全管理であると認識している。今年度は共有すべきインシデントはなく、各事業の安全対策指針が功を奏したと考えられた。引き続き、事業者間のミーティングを通して情報交換等を継続したい。

表1 PPC 開発担当が実施した事業

事業名	事業主	構造要因		プロセス要因			アウトカム	
		会場場所	事業主以外の学内従事者	学外従事者	プログラム	開催回数	年間参加者数	
赤ちゃんがやってくる	片岡	交流ラウンジ	院生-演習として履修 学部生-性教育ゼミ履修者 大学院生・学部生ボランティア	助産所助産師	父母と子どもが参加して新生児を家族に迎えるためのクラスを提供	8	177	
ルカ子母乳育児相談室	堀内	相談室、家庭訪問	学部生 - 看護研究Ⅱ	客員研究員	授乳中の母子の育児相談(授乳、眠り、離乳食など)	90	245	
ルカ子ウイメンズヘルスカフェ	森	ぼるかるーム	教員	子宮筋腫・子宮内膜症体験者の会	不妊、筋腫、内臓症、出生前診断など、テーマを決めて学習と話し合い	8	65	
			認定看護師教育課程(不妊症看護コース)研修生 演習として2回を企画・運営	不育症友の会等自助グループ				
天使の保護者ルカの会	堀内	交流ラウンジ ミーティングルーム	院生一研究として参加 学部生-家族発達Ⅱ、卒業研究 他の大学、看護職の研修	客員研究生 日本手芸普及協会 カラーセラピー	周産期喪失を経験した家族のお話会(小集団)	7	64	
天使の保護者ルカの会; グリーフカウンセリング	堀内	ミーティングルーム		客員研究員	周産期喪失を経験した家族個人のカウンセリング	10	18	
乳がん女性のためのサポートプログラム	大坂	交流ラウンジ ぼるかるーム 本館	学部生 大学院生ボランティア	聖路加国際病院プレストセンター・オンコロジーセンター看護師 プレストクリニック築地看護師	・小グループに分かれて体験を分かち合う会と専門職を招いた学習会を開催 ・先輩患者が他の患者の相談にのるピアサポートボランティアを開催	9	556	
リンパ浮腫ケアセッション	大畑	相談室		後藤学園 聖路加病院プレストセンター	アセスメントとリンパ浮腫マッサージ	45	179	
子どもの健康、知ろう、考えよう	及川	交流ラウンジまたは1号館	院生、学部生	各テーマの専門家(講師) 企画者として中央区の保育園看護師・保健師・病院看護師・養護教諭など	子どもの健康のテーマについて、講義により学習の機会と、参加者の質問や話し合いの時間を持つ	5	151	

介護者のためのリフレッシュアートプログラム	梶井	2号館内		ボランティア 看護師	介護者のリフレッシュとピアサポートを支えるためのクラス	3	9
高齢者とご家族へオンラインワンの「思い出帳(メモリーブック)」作りプロジェクト	山本	2号館内	院生 課題研究	ボランティア	生い立ちから現在までの生活や仕事に関する思い出帳を作成しながら振り返り、生き方の意味づけをサポートする	20	5組、 延べ 40名
聖路加和みの会	亀井	ぼるかルーム 大学芝生 地域散策	院生 ボランティア 学部生-生涯発達看護論Ⅱ実習 学部生-老年看護ゼミ演習	地域ボランティア 区書道連盟 NPO アロマセラピーサポートセンター キルトリーダーズ東京	都市部在住の小中学生と高齢者の世代間交流を促進し、高齢者にとっては子ども世代への知恵と文化の伝承、子どもにとっては高齢者理解を促進し、互恵的ニーズを充足する看護ケアを提供	36	712
転倒骨折予防実践講座	亀井	1号館アーツ	院生、学生ボランティア	桜美林大学 浦和大学 大東文化大学 神奈川県立保健福祉大学 横浜市立大学 看護師 るかなびヘルスボランティア	1コース6回制 1回目:心身アセスメント、問診、転倒歴、転倒リスク、QOL、骨密度、開眼片足立ち時間、10メートル歩行速度などの測定、運動プログラム 2～4回目:健康教育+運動プログラム 5回目:初回から12週後 6回目:初回から53週後	6	実5 延べ 150
出張介護講座	亀井	地域の指定場所へ出向く	-	中央区シニアセンター	依頼者と相談の上決定	7	400

キャリア開発支援部門

キャリア開発支援部門は、最新の知見を得る方法、知見を活用する方法、それらをさまざまな角度から検討して妥当な見解を引き出す方法、新しい知見を看護学生・

看護職者間・協働者間で共有する方法、看護ケアを必要とする人々に新しい知見を還元していく方法を身につけ、看護専門職者としてのアカウンタビリティを高めていくことを支援する部門である。

1. 構成員および役割・職務

表1 キャリア開発支援部門構成員

構成員	役割	職務
松谷美和子	部門長	部門の統括
井部 俊子	コース責任者	認定看護管理者ファーストレベル講習
八重ゆかり	専任教員	認定看護管理者ファーストレベル講習
森 明子	コース責任者・専任教員	不妊症看護認定看護師教育課程
實崎 美奈	専任教員	不妊症看護認定看護師教育課程
林 直子	コース責任者	がん化学療法看護認定看護師教育課程
本田 晶子	専任教員	がん化学療法看護認定看護師教育課程
大畑 美里	専任教員	がん化学療法看護認定看護師教育課程
山田 雅子	コース責任者	訪問看護認定看護師教育課程

田代 真理	主任教員	訪問看護認定看護師教育課程
福田 裕子	専任教員	訪問看護認定看護師教育課程
平良 智子	職員	部門の事務
福田 昌	職員	部門の事務

2. 活動内容

今年度は認定看護管理者ファーストレベル講習と、昨年同様の3領域での認定看護師教育課程を開講した。また、ナーススキルアップ講座として看護専門職者へのコンサルテーション、看護事例検討会、看護英語文献読解クラス、退院調整看護師養成プログラムのほか、新規事業として不妊症看護認定看護師、訪問看護師を対象としたスキルアップセミナーを開催し、多くの看護専門職者の学びの場となった。今後も看護職者のよい方向へ変え

たい・変わりたいというニーズに応えていきたい。

3. 課題

認定看護師教育課程の受講生の確保が課題であった。看護職者に受講希望があっても、一定のまとまった研修を受けることのできる人員の余裕が職場に十分でないことが予定数の確保を困難にしているものと考えられる。今後は、どのようなコースを開設し、当該部門の目的を達成していくかを早急に検討する。

4. 資料・データ

表2 2010年度キャリア開発支援部門：ナーススキルアップ講座

講座名	開催数	受講者数	修了者数
英文献を読もう！パートⅠ－基礎編	2コース（10回）/年	19	—
英文献を読もう！パートⅡ－構文理解強化コース	2コース（10回）/年	14	—
語り合おう！看護マネジメント —看護管理者のための‘サポートグループ’—	6回/年	76	—
退院調整看護師養成プログラムと活動支援	1コース（5回）/年	43	42
がん看護 事例検討会	9回/年	52	—
精神看護 事例検討会	4回/年	126	—
看護管理コンサルテーション	随時（予約制）	4	—
緩和ケアコンサルテーション	随時（予約制）	1	—
在宅ケアコンサルテーション	随時（予約制）	0	—
不妊症看護認定看護師ポストコース	1回/年	54	—
訪問看護スキルアップセミナー	4回/年	46	—
合計		435	

表3 2010年度キャリア開発支援部門：認定看護管理者講習・認定看護師教育課程

教育課程	開講期間	受験者数	合格者数	受講者数	修了者数
（認定看護管理者） ファーストレベル講習	8/23～9/29	97	90	90	90
（認定看護師教育課程） 不妊症看護コース	6/1～2/28	12	12	12	12
がん化学療法看護コース	6/1～2/28	32	28	27	27
訪問看護コース	6/1～2/28	25	22	25(3)	24
合計		69	62	64	63

研究活動支援部門

1. 構成員

〔部門長〕 森明子

〔部門員〕 八重ゆかり、高木裕也、田口瞳

2. 役割・職務

市民の健康生活の向上に資する看護の実践開発を促進するため、本学の教員ならびに研究員、大学院生の研究活動を支援する。

3. 活動内容（活動実績は表1参照）

(1)～(6)の活動のため、メール会議を含む3回の委員会を開催した。

- (1) 研究助成金情報の提供
- (2) 文部科学省及び厚生労働省の科学研究費の申請及び経理等手続きの支援
- (3) 研究員及び大学院生に対する研究コンサルテーション
- (4) 研究員及び大学院生に対する研究倫理コンサルテーション
- (5) 研究助成に関する選考委員会規程ならびに審査手順に基づいた選考
- (6) その他

5. 資料・データ

表1 研究支援部門活動実績（2010年度）

活動内容	件数	活動方法・手段等
(1) 研究助成金情報の提供	27	学内メールによる周知
(2) 科研費の申請・経理手続き	58※	科研事務の諸ルールに基づく
(3) 研究コンサルテーション	50	研究計画に応じた対面相談
(4) 研究倫理コンサルテーション	0	今年度は実施せず
(5) 研究助成に関する選考	1	研究助成に関する選考委員会規程に基づく

※文部科研：本年度交付39件+21年度繰越3件+他機関分担分10件=52件；厚生科研6件；計58件

WHOコラボレーティングセンター

1. 構成員

〔センター長〕 菱沼典子

〔事務局〕 国際研究部門代表 田代順子

〔委員〕 長松康子、小黒道子、眞鍋裕紀子

4. 課題

- 1) 研究助成金情報提供の迅速化と情報入手のためのリソース（ウェブサイト）紹介に努めた。今後はこれを維持促進するとともに、実際にどれだけ助成金の申請と獲得につながったかの把握がなされるべきであろう。
- 2) 科研事務の課題として、研究費を公正かつ効率的に使用できるよう研究の計画的な遂行を支援すること、及び手引きの整理に努め、迅速・正確に各種手続きが進められるように業務を見直すことを検討していきたいと考える。また、センター機能と関わる獲得研究費であっても科研費ではない場合、支援ニーズに答えられていない点も課題である。
- 3) 今年度受けた研究コンサルテーションを通じて把握した学習ニーズに対し、臨床研究に関連した勉強会などの開催を検討していきたい。
- 4) 研究倫理コンサルテーションの担当者を決める必要がある。
- 5) 本学の大学院生が研究助成に応募するにあたり、学内選考を必要としたため、その選考にあたる組織および運営に関して必要な事項を定めた規程および審査手順を作成した。これで運用してみてとくに大きな問題はなかったと考える。

2. 目的

第5期センター目標（Terms of Reference）と事務局活動内容

- 1) ミレニアム開発目標達成と小児高齢化社会に貢献する看護実践モデルを開発する。
- 2) PHCにおける看護のリーダーシップを推進する。
- 3) 個人・家族・地域のエンパワーメントを目指し、

エビデンスを用いて、実践の開発と研究を行う。

4) PHCにおける看護・助産についての教育と実践向上するため、研究とシステム改革を支援する。

上記看護開発協力センター目標達成に向け、(1)センターの活動（PCC 開発研究）の情報の統括と、(2)WHO との連携活動を行う。

3. 活動内容

(1) 2009年度研究活動:WHO/WPRO への報告:2009年度本看護実践開発センターでの市民主導型ケア開発研究を WPRO、WHO 本部へ年次報告書提出し、Web で公開した(資料1)。

(2) Global Network 2年毎総会が7月27日・28日にブラジル・サンパウロで開催され、事務局より田代と長松が出席した(資料2)。

(3) 国内広報として日本看護協会出版会「看護」WHONEWS に隔月に連載。Web で公開(資料2)。

(4) 国際保健協力研究:2010年度:国際医療協力研究委託費研究(22指定6)の「国際保健協力人材の継続的確保に関する研究」の分担研究「国際保健協力看護・助産人材の継続的確保に関する研究」を進め、本年度研究成果を報告した。

国際看護・助産学コンソーシアム、ワークショップを2010年8月28日に「国際看護学・助産学修士生のキャリアパス」をテーマに開催した(資料3)。

(5) 看護助産強化への教育を通しての貢献

インドネシア・イスラム大学からの博士課程院生:博士3年1名、2年2名の留学生の支援。

タンザニア、ウィメンズヘルス助産学修士2年1名は課程を修了した。

(6) WHO 看護開発協力センター創設20周年を記念し、大学創立記念行事として1月21日に記念講演とシンポジウムを企画準備し、予定通り終了した(資料4)。

4. 課題

(1) WHO/PHC 看護開発協力センターとして市民主導型看護実践研究の集約機能は、事務局業務の範疇を超え、継続的課題である。

(2) 看護助産を強化のための国内国際保健看護・助産学コンソーシアム形成は継続課題

5. 資料・データ

資料1) WHO 看護開発協力センターホームで公開中。

資料2) WHONEWS 一覧:WHO 看護開発センター Web 上および「看護」(日本看護協会出版会)で国内広報中

資料3) 長松康子、田代順子、小黒道子、眞鍋裕紀子・(2011). 国際保健協力看護・助産人材の継続的確保に関する研究—国際看護・助産専門職キャリアパスモデル開発(第1報:ワークショップ報告). 聖路加看護大学紀要. 37号. 10-14ページ. 聖路加看護大学.

資料4) 田代順子(2011). WHO プライマリヘルスケア(PHC)看護開発協力センター開所20周年記念講演. 学園ニュース No. 294. 聖路加看護大学.

	執筆者	テーマ	「看護」
2011年3月	長松 康子	WHO、HIV 感染者の人権擁護の呼びかけ	第63巻3号
2011年1月	小黒 道子	持続可能な妊産婦死亡とミレニアム開発目標	第63巻第1号
2010年11月	田代 順子	グローバルネットワーク第8回国際学術大会	第62巻13号
2010年9月	眞鍋裕紀子	障害を持つ子どもたちの権利	第62巻11号
2010年5月	小黒 道子	DVは世界的な社会問題	第61巻第6号

るかなび運営会議

1. 構成員

[委員長] 山田雅子

[委員] 菱沼典子、森明子、小口恵美子(11月まで)、佐藤晋巨(図書館)、高木裕也(研究支援室)、

真部昌子(コーディネーター)、佐藤直子(コーディネーター)

[ボランティア] 高橋恵子

2. 役割・職務

1) るかなびの活動計画を立案する。

- 2) るかなびの運営に必要な企画・手順等を検討し、問題があれば改善策を講ずる。
- 3) 研究センターの機関事業として機能するよう、活動を推進する。

3. 活動内容

- 1) 11回の運営会議を開催し、運営に関する所持を検討、決定した。
- 2) 活動資金の獲得のため、骨密度測定を有料（1回500円）とし、中央区との連携事業を検討し、白楊祭にバザーを出展するなどした。

4. 課題

今年度は、るかなびのコーディネーターおよび事業主が交代し、相談は骨密度測定に限って有料化するなど、これまで研究事業費に頼った運営を行ってきたことについて、自ら活動資金を得る方法を模索することが最大の課題となっていた。

骨密度の有料化については、これによって相談者数が減少したかどうかは明確ではないが、骨密度測定を希望している人に集中して利用してもらい、測定者延べ数目標とした人数に達することができた。また、中央区と連携して事業展開ができないかを模索し、協働ステーション中央が企画する協働事業提案に応募したが、行政サービスとの明確な差別化が図れないことから、採用には至らなかった。白楊祭のバザーには、市民ボランティアも積極的に参加し、大雨にもかかわらず、活動資金の一部を得ることができた。

来年度から3年間、テルモ㈱より研究資金を提供されることが決定し、心からありがたいと感じている。これからも、それに甘んずることなく、自分たちで可能な限り運用していく術を引き続き検討していきたい。

また、るかなびは、教育機能としても活用されており、学部生のコミュニケーションを学習する場、大学院生の研究フィールド、認定看護師教育課程研修生の一般市民を対象としたコミュニケーション技術を学習する場として定着してきている。

今後は引き続き相談技術の向上、センター機関事業としての役割の明確化が課題である。

聖路加・テルモ新健康カレッジセミナー 聖路加市民アカデミー

1. 構成員と役割

[企画・広報・運営] 小口江美子

[企画・広報] 羽田正直(4-5月)、吉川英夫(6-12月)

2. 活動内容

2008年度より社会貢献事業として一般市民向けの健康支援セミナー「聖路加・テルモ新健康カレッジ」を開講し、自分自身の体を理解し上手く健康を管理調整してより良く生きることを目指して、市民に学びの場を提供している。「新健康」のコンセプトは、「無病息災ではなくても、たとえ持病があっても、上手くそれをコントロールしながら、心身ともにより良く心豊かに生きる」ことを目指す、という本学の日野原重明理事長の提唱によるものである。2010年度は聖路加国際病院の医師や大学教授などにより1回の市民アカデミーの講演と3回の新健康カレッジセミナーが開催された。

- 1) 聖路加市民アカデミー（2010年5月29日土曜日 13:00-17:00開催）

近年、補完・代替療法の一つである音楽療法やアロマセラピーが、統合医療として世界各国の今日の医療の中に導入されつつあるが、今年度は新しい試みとして、それらが日本ではどのような現状なのか、将来の展望はどうであるのかについて焦点を当て、実演を含めたプログラムが企画された。共催団体は、聖路加看護大学、テルモ株式会社、聖路加国際病院音楽療法研究会、日本アロマセラピー学会の4団体であり、これもまた新しい試みであった。4団体は7回の準備委員会を重ね、開催1年半前より入念に企画・運営を検討し、当日のプログラム実施に臨んだ。

講演テーマと講師は、講演①臨床での音楽療法の必要性：日野原重明氏（聖路加国際病院理事長・日本音楽療法学会理事長）、講演②メディカルアロマセラピーとは？～その過去、現在、将来展望まで～：塩田清二氏（昭和大学医学部解剖学教授・日本アロマセラピー学会理事長）、講演③精油を安全に使用するには：青暢子氏（昭和大学医学部生化学教室）、講演④精油の不眠症への応用：山田朱織氏（16号整形外科院長）、講演⑤音楽療法について：伊藤マミ氏（聖路加国際病院緩和ケア音楽ケアサービス室）、講演⑥

不妊治療での音楽療法とその効果：菊田文夫氏（聖路加看護大学健康教育学准教授）で、講演の合間には音楽療法やアロマセラピーの実演も行われ、参加者は両療法を実際に体験した。講演後は、会場の参加者ほぼ全員が音楽を聴きながらアロマトリートメントを体験するという市民参加型の「音と香りのハーモニー」プログラムが実施された。

応募者や招待者を合わせて215名の参加者があり、演者、実演者、運営ボランティア、運営スタッフ等を含めると約300名が本講演に関わった。「音楽・アロマと両方の良さがでて勉強になった。こういったコラボは新鮮で興味深い」（40代女性）、「アロマと音楽療法とても興味深くおもしろかった。講演だけでなく、実演があったのがとてもよかった。体験するとより心に残ると思う。」（30代女性）などの感想が寄せられた。参加者によるアンケート回答の結果は聖路加看護大学紀要（2010）に掲載した。

- 2) 新健康カレッジセミナー（2010年 ①7月17日、③9月18日、④10月23日いずれも土曜日14:00-15:30

開催）

「もっと知ろう、自分のカラダ！」全3回シリーズ①ストレスや生活習慣に由来する高血圧とその対策：西裕太郎氏（聖路加国際病院循環器内科医長）、②ストレスに伴う抑うつ・身体症状とその対策：太田大介氏（聖路加国際病院心療内科副医長）、③関節の痛み：星川吉光氏（聖路加国際病院整形外科部長）：参加人数はそれぞれ①50名、②54名、③65名であった。

新健康カレッジセミナーは、年度を重ね、回を重ねる毎に単回参加者・継続参加者共に増え、地域住民に確実に定着した様子である。全3回参加者は24名、2回参加者は13名で、全回継続参加者には昨年同様セミナーに役立つ聖路加グッズが記念品として贈られた。

3. 課題

参加希望者との連絡を密にし、参加を支援する。継続的に開講し、さらなる定着を図る、など。

IV 事務部・学生支援組織

教務部

1. 構成員

[教務部長] 麻原きよみ教授

[教務課長] 高橋昌子

[教務課係長] 森川雪絵、櫛田智恵美

[国際交流担当] 中島 薫

[派遣スタッフ] 望月悦子

2. 役割・職務

本学の学生が本学の教育理念のもと、教育課程に従い単位を履修し、卒業または修了することができるよう支援し、その学籍を保管する役割を担う。

具体的には以下の職務を行う。

- (1) 学籍に関すること
- (2) 成績に関すること
- (3) 教育課程の編成、授業の実施に関すること
- (4) 国家試験に関すること
- (5) 入学試験に関すること
- (6) 国際交流に関すること

3. 活動内容

上記の例年の業務に加え、今年度は以下のことを行った。

- (1) 2011年度より学部カリキュラムが新カリキュラムとなり、また、大学院修士課程のカリキュラムが改正となるため、それぞれについて変更承認申請を行った。

その際、実習場の変更承認申請を今まで行ってこなかったことが判明し、文部科学省に顛末書の提出とともに実習場全てについての変更承認申請を行った。

- (2) 学部カリキュラム改正に伴い、養護一種免許課程認定の変更届が必要となり、その書類作成を行い、提出した。
- (3) 厚生労働省からの特定看護師（仮称）の調査対象となる「特定看護師（仮称）養成調査試行事業」に申請を行い、申請および実際の調査実施における事務処理を行った。
- (4) 組織的若手研究者海外派遣プログラムが採択さ

れ、2010年度は教員3名、学生7名の派遣の手続き等の事務処理を行った。

- (5) 学士編入学試験、学部一般入学試験の問題に出題ミスがあり、その公表、文部科学省への報告を行った。
- (6) 聴覚に障害を持つ受験生があり、その対応を行った。また、その学生の入学が決定し、教務課員が対応窓口となり、入学の準備を行った。
- (7) 教務システムを新たに導入し、その入れ替えの作業を行った。

4. 課題

- (1) 日々増加し続ける書類や物品を、限られたスペースの中でいかに整理し、機能的に保管していくか検討課題であったが、教務部別室に保管庫を購入し、個人ファイルの整理を行った。今後も継続して検討していく必要がある。
- (2) 学生数の増加により、教室の不足や勉強をする上で快適な環境とはいえない状況であり、大学全体の部屋の割り振りや使い方を検討することが課題であったが、予算の関係もあり、一部の教室の視聴覚機器を改善する計画のみにとどまった。教室全体の環境の整備や教室仕様となっていない部屋を教室仕様とするなどさらなる検討が必要である。

学生部

1. 構成員

[学生部長] 菱田治子

[委員] 大久保暢子、鶴若麻理、小林真朝、大熊恵子、中村綾子、大坂和可子

[学生課] 稲田昇三、天岡幸

2. 役職・職務

- 1) 学生自治会、課外活動支援（大久保、大熊、大坂、中村）
- 2) 奨学金（菱田、天岡）
- 3) 就職・進学（小林、大熊）
- 4) マナーと環境への取り組み（大久保、大熊、中村、大坂）

- 5) チャペル関係（鶴若、大坂）
- 6) よろず相談（鶴若、小林）
- 7) 福利施設の利用案内（稲田、天岡）

3. 活動内容

1) 学生自治会、課外活動支援

学生自治会とのミーティング、学生自治会定期総会の開催支援、学内行事（白楊祭、クリスマスの集い等）への支援を行った。また学生からの要望に合わせて学食内容の改善等を行うと同時に、昨年引き続き、HASメンバーの活動書類を大学史編纂・資料室委員会へ受け渡す作業に対する支援を行った。

2) 奨学金

聖路加看護学園奨学金や日本学生支援機構奨学金など学内外の奨学金制度の学生への説明、募集、選考手続、貸与または給付、返還手続等を行った。今年度新たに「生と性に関する教育」に関心を持って活動する学生を対象とした「ウパウパ奨学金」を創設した。また、日本学生支援機構業績優秀者返還免除選考方法について検討した。

3) 就職・進学

昨年度より大学院進学者数の増加を受け、就職・進学双方の支援に取り組み、3年生後期から4年生前期にかけて就職・進学ガイダンスを計3回行った。また、学生のアンケート結果をもとに、「就職・進学ガイドブック」内の先輩方の就職・進学体験記を幅広く掲載した。この他、就職・進学先の選定、試験の勉強方法、内定を受けた後の辞退の仕方等、学生の個別相談に対応した。

4) マナーと環境への取り組み

5. 資料データ

奨学金については下表のとおりである。

表1 主な奨学金

名 称	対 象	貸 与 月 額	
		第一種／定額型	第二種／選択型
日本学生支援機構	学部	自宅外64,000円 自 宅54,000円	30,000円、50,000円、80,000円、 100,000円、120,000円から選択
	大学院（修士）	50,000円または 88,000円	50,000円、80,000円、100,000円、130,000 円、150,000円から選択
	大学院（博士）	80,000円または 122,000円	
東京都看護師等修学資金	学部	第一種 36,000円	第二種 25,000円
	大学院（修士）	第一種 83,000円	第二種 25,000円
聖路加看護学園貸与奨学金 *緊急採用奨学金（学納金の額を限度とする）	学部	30,000円	
	大学院（修士）	50,000円	
	大学院（博士）	100,000円（1998年度より貸与月額改定）	
小澤道子記念奨学金	学部生	60,000円（月額、当該年度のみ）	

2008年度より「適切な学びの環境の実現」をスローガンに4ヵ年計画として活動を継続中。本年度も、学生マナー委員会を中心に、学事行事等でマナーの改善を呼びかける活動を実施し、活動の詳細は紀要に短報として掲載した。

5) チャペル委員会のページ参照

6) よろず相談

2009年度に引き続き今年度も、毎週水曜日12:00～15:00の間、卒業生を相談員としてよろず相談を実施した。利用しやすさを考慮し、メールでの予約、プライバシーを重視した部屋で行った。相談者数は5名であった。主として相談員の確保の難しさの点から、今年度でよろず相談事業を終わりにして、学生部における相談の強化やカリキュラムや学生生活に関する学生による相談窓口なども、自治会等と検討することになった。

7) 福利施設の利用案内

学生食堂の運営委託、鎌倉アリスの家運営、ふじみ野大井テニスコート、同ゴルフ場、スポーツクラブ・オアシスの利用申込受付、日本看護学校協議会共済会共済制度 WILL の手続、アパート・学生会館の案内等の学生支援を行った。

4. 課題

就職・進学説明会に就業経験年数の多い先輩の話も聞きたいとの要望があり、次年度の課題とした。また、マナーと環境への取り組みは、最終年度を迎えることから、活動の評価の視点を学生と共に明確にし、今年度までの活動に加え、活動の評価も行う必要がある。

表2 2010年度奨学生採用状況

2011.3.24 現在

	奨学金の種類	配布	申請	採用
1	高島君子記念看護奨学金基金	1	1	0
2	朝鮮奨学会	掲示のみ	自己申請	1
3	岡村育英会	16	10	10
4	茂木本家教育基金	6	2	2
5	守谷育英会	20	1	0
6	丸和育英会	12	2	2
7	山口県人づくり財団奨学生	1	—	—
8	石川県奨学生	1	—	—
9	東京都看護師等修学資金(学部)第1種	6	2	2
10	東京都看護師等修学資金(学部)第2種		2	2
11	東京都看護師等修学資金(修)第1種	12	4	2
12	日本学生支援機構(1年)第1種<予約>	—	—	2
13	日本学生支援機構(1年)第2種<予約>	—	—	8
14	日本学生支援機構(1年)第1種	説明会	19	5
15	日本学生支援機構(2年以上)第1種	説明会		1
16	日本学生支援機構(1年)第2種	説明会		7
17	日本学生支援機構(2年以上)第2種	説明会		4
18	日本学生支援機構(修1年)第1種	26	12	7
19	日本学生支援機構(修1年)第2種			3
20	日本学生支援機構(修2年)第1種		1	1
21	日本学生支援機構(博1年)第1種		3	3
22	あしなが育英会	0	—	0
23	川崎市大学奨学生	0	—	—
24	聖路加看護学園貸与奨学金(学部)	8	2	2
25	聖路加看護学園貸与奨学金(院)	13	6	6
26	聖路加看護学園貸与奨学金緊急採用	1	1	1
27	小澤道子記念奨学金(学部)	6	3	3
28	聖路加同窓会奨学金(学部、院)	13	3	1
29	青木奨学金(修)	5	3	3
30	ウバウバ奨学金	5	3	3
31	入学試験成績優秀者育英制度	受験生数分	—	10
32	有馬育英会助産師育成支援制度(修)	6	2	2
33	未来の助産師基金	6	2	2
34	財団法人中島記念国際交流財団	学生部室保管	自己申請	—
35	財団法人平和中島財団	学生部室保管	自己申請	—
36	交通遺児育英会	掲示のみ	自己申請	0
37	青峰奨学財団奨学生	掲示のみ	自己申請	0
38	岐阜県選奨生奨学金	—	—	1
				新規採用数合計 96

表3 奨学生内訳表

学生総数 510名 (学部学生 363名・大学院生 147名)

(単位：延人数) ※1名辞退 (2011.3.24現在)

学年	日本学生支援機構			東京都看護師 等修学資金	聖路加看護学 園貸与奨学金	その他奨学金	計
	一種	二種	小計				
4	8	13	21	2	3	5	31
学編4	1	0	1	0	3	2	6
3	5	20	25	3	0	4	32
学編3	0	4	4	0	1	2	7
2	9	20	29	1	1	3	34
学編2	0	2	2	3	1	2	8
1	7	15	22	1	—	14	37
小計	30(8%)	74(20%)	104(28%)	10(3%)	9(2%)	32(9%)	155(42%)
博3	1	0	1	—	7	0	8
博2	1	0	1	—	2	0	3
博1	3	0	3	—	0	0	3
修3	0	0	0	0	0	0	0
修2	11	4	15	7	9	13	44
修1	7	3	10	2	6※	1	19
小計	23(16%)	7(5%)	30(21%)	9(6%)	24(16%)	14(9%)	77(52%)
総計	53(10%)	81(16%)	134(26%)	19(4%)	33(7%)	46(9%)	232(46%)

表4 奨学生受給状況

年度	奨学金の 種類	日本学生 支援機構	東京都看護師 等修学資金	聖路加看護学園貸 与奨学金	その他 奨学金	受給総数 全学生数	受給率 (%)
2005(H17)	※1	101	※2 7	34	25	167/455	37
2006(H18)	※3	112	※4 10	41	26	189/476	40
2007(H19)	※5	111	13	40	29	193/480	40
2008(H20)	※6	115	19	44	33	211/477	44
2009(H21)	※7	138	20	※6 43	36	237/497	48
2010(H22)		134	19	※8 33	46	232/510	46

※1 期中辞退2名

※2 期中辞退1名

※3 予約採用5名、追加採用4名、緊急貸与1名、
期中辞退者3名

※4 2口貸与1名

※5 期中辞退者5名

※6 期中辞退者1名

※7 期中辞退者2名

※8 期中辞退者1名

チャペルアワー委員会

1. 構成員

[委員長] 上田憲明チャプレン

[委員] ケビン・シーバーチャプレン、鶴若麻理

[学生委員] 遠藤ななみ (委員長)、矢萩裕子、千野裕子、木村春香、奥村仁美子、山崎博子、荒木理紗、藤田ゆり、平岡沙梨衣、荻原沙奈、田村芽唯、北西恵、大久保宇哲、近藤優子、権藤尚子

2. 役割・職務

- 1) チャペルアワーの企画・運営
- 2) クリスマス礼拝の準備・担当
- 3) 聖路加国際病院礼拝堂のクリスマスイブ礼拝でのプロセッション参加学生との連絡調整ならびに準備
- 4) クリスマスツリーの飾りつけ

3. 活動内容

- 1) 毎水曜日 (12時30分～13時)、聖路加国際病院礼拝堂で実施されるチャペルアワーの案内ポスターの作成、順番で学生委員が司会を担当する。また2008年度より毎月1回チャペルアワーの時間内に、学内や聖路加国際病院にかかわりのある先生方を招き、お話をさせていただく会を企画し、運営した。月曜日と

5. 資料

クリスマスイブ礼拝プロセッション参加人数

	1年生	2年生	3年生	4年生	合計 (人数)
第1回目	0	6	0	2	8
第2回目	0	6	0	7	13

水曜日 (11時50分～12時) に本学310教室でミニチャペルアワーを実施し、今年度はマザーテレサの『日々のことば』を読み進めた。ミニチャペルアワーについては、委員会で2回の検討を重ね、2011年度は曜日や時間にとらわれず、新しい形を模索していくことになった。

2) 2010年12月22日 (12時30分～13時45分) のクリスマス礼拝の準備のためにチャペルアワー委員会を開催し、また司会、開会の祈り、聖書朗読などを学生委員が担当した。

3) クリスマスイブ礼拝のプロセッションには、資料の通り21名の学生が参加した。プロセッションの募集ポスター作成や事前練習について、参加者の連絡調整を行った。

4) クリスマスツリーの飾り付け有志を募集し、学生委員が中心となって行った。

4. 課題

定例のチャペルアワーへの毎回の参加人数も数人程度であり、後期は実習などの関連で参加人数が少なくなっている。礼拝堂での心の声に耳を傾け、本学の理念を振り返り体現するチャペルアワーについて、本学の学生、教職員すべてがチャペルアワーの意味を改めて考えていくことが求められる。

図書館・図書委員会

1. 構成員

[図書館長] 中山和弘

[課長] 松本直子

[司書] 金澤淳子、佐藤晋巨、新沼久美

[図書委員会] 中山和弘(委員長)、有森直子、小野若菜子、金澤淳子、佐居由美、佐藤晋巨、瀬戸屋希、田代真理、松本直子、八重ゆかり

2. 役割・職務

「聖路加看護大学図書館規程」「聖路加看護大学図書委員会細則」による。

3. 活動内容

以下、新たに実施したこと、変更があったことに関して記述した。通常の活動実績は「資料」にまとめた。

1) 資料の収集

(1) 課題

- 電子化、書架の狭溢化、学生の積極的なサービス利用等の変化に対応した収集方針の見直しを行う。
- レファレンスブック、臨床医学系における新しい図書を購入する。

(2) 対応

- 外国雑誌2011年契約において、新たに56タイトルを電子ジャーナル化した。
- 電子ジャーナルの刊行状況に応じた雑誌の収集・保管方針を検討した。図書委員会にて、看護学雑誌については、①国内は電子ジャーナルの刊行に関わらず、冊子を収集・保管し、②外国はアーカイブ権を持つものについて、冊子の収集を中止するという方針が確認された。
- 昨年度、書架移動を行い開架にスペースができたため、医学系の図書をまとめて購入、レファレンスブック37冊、一般図書419冊(冊数は看護学を除く)を備えた。
- 閉架に移動した10年以前刊行の医学系図書について利用状況を調査した。この結果は、次年度の図書購入や収集方針の策定の参考資料とする。
- 学生からの希望図書の受け入れについて方針を決定した。

2) 利用者とサービス

(1) 課題

- 図書館システムのリプレースを円滑に行い、新しい機能を活かして利用者へのサービスを向上させる。

(2) 対応

- 図書館システムは日本事務器(株) NeoCILIUSを導入、10月より導入仕様を検討開始、これによって OPAC やオンラインサービスの機能が向上した。
- OPAC では、従来の書誌データとともに表紙を表示、リンクリゾルバーを介した他のデータベースとの連携、文献管理ソフト RefWorks へのデータ出力などが新たに可能になった。
- インターネットを通じたオンラインサービスは、“MyLibrary”という画面から、従来の文献複写依頼、資料の購入依頼、参考質問などに加え、資料に対してレビューを書く機能や、図書館への意見を投書する機能が加わり、双方向のコミュニケーションが可能な利用者参加型のシステムとなった。

3) 学習・研究環境の整備

(1) 課題

- 本学における学術情報の蓄積と発信について検討する。

(2) 対応

- 図書委員会、研究科委員会における検討を経て、学位論文の全文公開がより推進された。2011年度より、博士論文は必須、修士論文は任意で、全文を SLCN@rchive に登録することになった。
- SLCN@rchive において、教育情報公開の一環として、教員情報(所属、職名、学位・資格、最終学歴、担当科目、研究テーマ、在職期間)を掲載するページを作成した。
- 図書委員会では、本学における学術情報の蓄積と発信について、大学ホームページ、「看護ネット」、看護実践開発研究センターのホームページ、SLCN@rchive 等を含め包括的に検討することが課題となっていたが、現状の把握に止まった。

4. 課題

- 1) 引き続き、電子化、書架の狭溢化、学生の積極的なサービス利用等の変化に対応した収集方針を検討し決定する。

2) 学内における学習環境を学生の行動やニーズから見直し、図書館が担うべき機能と備えるべき設備を検討する。そのうえで、閲覧席、PC、視聴覚機器のリニューアルを計画する。

3) 本学教員が制作した映像資料について調査、保存、媒体変換を計画する。

2011年3月11日に発生した東日本大震災における被害と対応を振り返り、今後の対策を検討する。

5. 資料等

表1 開館日数と入館者数

開館日数 (日)	270
うち土曜開館	47
入館者数 (人)	100,241
1日平均入館者数	371
(夜間)1日平均入館者数	20

表2 館内複写件数

複写機	193,799
月平均	16,150
プリンター	219,447

表3 ノートPCの貸出 (件)

学部生	院生	教職員	その他	計
352	97	35	20	504

表4 資料別の貸出し数

	学部生	院生	教職員	その他	総計
図書 (冊)	8,322	4,251	1,159	1,670	15,402
雑誌 (冊)	1,440	1,037	320	566	3,363
ビデオ (巻)	179	7	58	4	248

表5 利用者別貸出し総件数

1年生	2年生	3年生	4年生	修士	博士	教職員	
1,220	2,787	3,665	2,269	4,786	509	1,537	
科目等履修生	研究生	研修生	卒業生	聖路加国際病院職員	研究センター研修生	その他	総計
9	8	0	406	925	871	21	19,013

表6 分野別貸出し冊数ベスト5 (冊)

1位	2位	3位	4位	5位
看護学(WY) 7,736	医業(W) 815	小児科学(WS) 641	心理学(BF) 613	公衆衛生(WA) 589

表7 カウンターにおけるレファレンス件数

	学生・院生	教職員	その他 (学外者、研究生、博士研究員など)	計
所在・所蔵調査	549	32	21	602
事項調査	163	6	12	181
利用指導	455	24	48	527
その他	106	1	3	110
計	1273	63	84	1420

表8 文献検索相談件数

学部生	院生（修士）	院生（博士）	教員	その他	計
9	57	16	10	1	93

表9 来館した学外利用者数

	学生・院生	教職員	その他	総計
人数	55	22	25	102
複写件数	357		56	413

表10 相互利用（文献複写）件数

当館から他館への申込件数		1641	他館から当館における受付件数		2366
申込者別 内訳※	学部生	247	受付館種別 内訳	大学・短期大学	1618
	院 生	1013		その他	748
	教職員	377			
	その他	4			
申込先館 種別内訳	大学・短期大学	1176			
	NDL	20			
	聖路加国際病院	366			
	海外(BLDSC)	9			
	その他	70			

表11 図書館利用教育

オリエンテーション	対象：学部、学士編入、大学院修士課程、博士課程、各新入生
授業との連携	授業名（対象学年）：看護学概論、情報処理演習（学部1年、学士編入2年）、家族発達看護論Ⅰ演習・英語表現法Ⅲ-W(学部3年)、看護研究Ⅰ（学部4年）、看護学研究法（大学院修士・博士1年）
研究センターとの連携	授業名（対象課程）：情報テクノロジー論（認定看護師セカンドレベル）、文献検索・文献講読（認定看護師教育課程）
聖路加国際病院との連携 (libil 講座)	参加した利用者：大学院生、教員、認定看護師教育課程生、病院職員

表12 他機関への協力

対象機関	担当者
静岡県立がんセンター 認定看護師教育課程（皮膚・排泄ケア分野）	松本直子
聖母大学 大学院	〃
東京都ナースプラザ	〃
日本図書館協会 健康情報委員会	佐藤晋巨

表13 受入資料

		和	洋	合計	
図書 (冊)	購入	図書館	823	66	889
		研究室	63	27	90
		研究センター	250	0	250
		助成金等	6	0	6
		製本雑誌	158	101	259
	寄贈	図書館	784	366	1,150
		研究室	3	4	7
		研究センター	371	0	371
		助成金等	326	85	411
合計		2784	649	3433	
視聴覚資料 (巻)	購入	図書館	5	0	5
		研究室	3	0	3
		教育予算	14	0	14
	寄贈	図書館	32	0	32
		助成金等	6	0	6
	合計		60	0	60
逐次刊行物 (誌) ※	全タイトル		706	118	824
	新規		6	0	増減
	中止		1	0	5
購読電子ジャーナル (誌)		0	1,506	1,506	
提供電子ジャーナル (誌)		13,364			

表14 見計らい選書会 (9月7日 (火) ~9日 (木) 実施) 購入点数

図書	287
視聴覚資料	1

表15 除籍資料 (大学全体)

	和	洋	合計 (冊)
図書	306	24	330
製本雑誌	0	0	0
計	306	24	330

表16 所蔵資料総数 (大学全体)

図書 (冊)			視聴覚(巻)	合計	学術雑誌 (誌)		合計
和	洋	製本雑誌			和	洋	
52,343	10,120	8,583	1,331	72,377	1,623	400	2,023

表 17 購読雑誌の変更 (2011 年 1 月より)
新規に購読が決まったもの

No.	タイトル	出版者	頻度
1	月刊デイ : day	QOL サービス	月刊
2	日本受精着床学会雑誌	日本受精着床学会	不定期刊
3	産業看護	メディカ出版	月刊
4	子どものからだど心白書	子どものからだど心連絡会議	年刊
5	医療の質・安全学会誌	医療の質・安全学会	季刊

購読の中止が決まったもの

	タイトル	出版者	発行頻度
1	看護学雑誌	医学書院	廃刊
2	大学と学生	第一法規出版	廃刊

表 18 データベースの契約

	タイトル	ベンダー	同時アクセス数
1	CiNii	国立情報学研究所	無制限
2	医中誌 web	医学中央雑誌刊行会	8
3	聞蔵	朝日新聞社	1
4	MAGAZINEPLUS	日外アソシエーツ	1
5	最新看護索引 web	凸版印刷	10
6	British Nursing Index(BNI)	EBSCO	4
7	CINAHL Plus with Full text	〃	4
8	PsycINFO	〃	無制限
9	SocINDEX	〃	無制限
10	MEDLINE	〃 (特約)	無制限
11	The Cochrane Library	Wiley InterScience	無制限
12	Journal Citation Reports	Thomson Reuters	無制限
13	Clinical Evidence	BMJ	無制限
14	Maternity and Infant Care	OVID	1
15	Medline Nursing Database	〃	1

表 19 その他、リソース・アプリケーションの契約

	タイトル (機能)	ベンダー	同時アクセス数
1	AtoZ, LinkSource (リンクリゾルバー)	EBSCO	無制限
2	RefWorks (文献整理ソフト)	ProQuest	無制限

表 20 リポジトリへの登録

コンテンツの種類	一次情報 (件)	二次情報 (件)
学術雑誌論文	326	326
学位論文	1	603
紀要論文	517	517
研究報告書	128	128
その他	12	12
計	984	1,586

表 21 図書館資料 決算額

(円)

図書	製本雑誌	視聴覚資料	逐次刊行物	電子ジャーナル	データベース・リソース他
3,775,704	598,290	69,460	7,116,194	7,376,902	5,933,342

表 22 図書館システム入れ換え

年 月	作業内容
2010年4月	病院医学図書館と図書館システムの同時契約計画について理事長決裁をあおぐ。
5月	新図書館システム決定について理事長決裁をあおぐ。
6月	新図書館システム：NeoCilius を発注。
9月	キックオフミーティング開催。 学内環境を検証し、DB サーバに F/W が必要なことが判明。 デモサーバの利用を開始する。
10月	データコンバートテスト用データを抽出する。
2010年11月～ 2012年2月	月1回～2回のミーティングでデータ仕様書を作成する。
11月	DB,web サーバ、F/W、UPS 及びサーバラックを事務室内に設置する。
1月	データのテストコンバート実施し、データ検証を開始する。 業務端末納品・学内設定を大学 SE が実施後図書館で保管する。
2月	新システムの契約 F/W 追加による保守金額変更の理事長決裁をあおぐ。 新図書館システム導入費を支払う。
3月	本番データ抽出（目録3/7バックアップ分、閲覧データ3/22バックアップ分）
3月1日～	システムリプレイス準備のため、るかこデスクの受付一部停止する。
3月12日	震災により閉館
3月14日	震災により閉館
3月15日～24日	システムリプレイスのため閉館
3月24日	閲覧系業務の研修を受ける。
3月25日～26日	閲覧のみ開館
3月28日～31日	震災によりシステム稼働日が3/28→4/1に変更される。 これにより、「るかこデスク」の停止を継続する。代替としてメールでILL等受け付ける。 NeoCilius のオフライン貸出で貸出返却を開始する。
3月31日	NeoCilius の OPAC を公開する。 オフライン貸出データのロードを行い、仮稼働を開始する。 目録系業務の研修を受ける。
4月1日	NeoCilius 本稼働する。

〔東日本大震災による被害〕

【書架】

- 1) 人的事故、設備等の破損はなく、被害は開架の書棚上段部よりの図書、絵画が落下し一部破損するに止まった。
- 2) 2階の製本書架よりも、3階の図書架の被害が大きく、最上段の図書はほとんど落下、通路を塞いでしまった。
- 3) 閉架の集密書架内では落下はなかった。

【図書館システム入れ替えへの影響】

表22の通り。

【開館への影響】

余震や停電への対応として次のように変更した。

- 3月11日（金） 帰宅困難で大学に止まった利用者を対象に、通常通りカウンター業務を20時までに行い22時で閉館。
12日（土）、14日（月） 閉館
3月28日（月）～4月2日（土） 無人開館停止（平日20時、土曜日17時で閉館）



1. 構成員

[室長] 渡部尚子

[職員] 新沼久美 (図書館兼務)

[臨時職員] 結城瑛子・直井久枝 (同窓生)

[大学史編纂・資料室委員会] 中山和弘 (委員長)

有森直子・瀬戸屋希・佐居由美・小野若菜子・
八重ゆかり (以上教員)、進藤務・新沼久美 (以
上職員)、渡部尚子 (編纂資料室)、内田卿子・
岩間節子・直井久枝 (以上同窓生)

2. 役割・職務 (大学史編纂・資料室規程 大学史編纂・資料室委員会規程)

- 1) 本学に関連した史資料の収集・整理・保管
- 2) 収集史資料の公開・展示
- 3) 調査・研究および成果の発表
- 4) 自校史教育及び学習への支援
- 5) その他 1) ~ 4) に必要な事項

3. 活動内容

- 1) 学内所蔵、及び寄贈・貸借した写真資料約1500点を電子化・分類した。同時に被写体の同定作業を行い、卒業生や教員の名前を確認した。新たに収集した資料約300点の目録を作成し整理した。本学卒業生や元教員へのインタビューを実施し、主に戦中・戦後の本学の教育活動状況を調査した。戦時下の保健婦活動普及映画「女の手」の試写を通し、公衆衛生看護史における本学卒業生の貢献を調査した。聖路加国際病院の資料管理係との間で、将来的に資料収集・保管で協力していくことで合意した。聖公会資料保管協議会に参加し、資料収集における協力関係を築いた。
- 2) 収集・整理した写真資料を、調査研究や教育活動、広報活動に供した。インタビューデータを供することで、本学卒業生の活動をまとめる研究に寄与した。
- 3) 日本看護歴史学会学術集会で研究成果を発表した。また写真資料の収集活動について同学会会報に寄稿した。展示室にて企画展示を1回行った。学園ニュースに資料室からの記事を掲載することを申し合わせた。
- 4) 自校教育の演習を開講した。
- 5) 大学史編纂・資料室委員会規程が5月に承認された。(大学史編纂・資料室規程を作成した。) 本学の文書

取扱規程、文書保存規程を確認し、文書移管の体制について検討した。展示室、ブックレット、HPについて学内の認知状況を確認するアンケートを実施した。

4. 課題

2010 年度短期的課題への対応

- 1) 公文書・非公文書の移管ルール作り：検討を開始
- 2) 収集史資料の補修修復・保存作業の環境整備、保管庫確保：未整備
- 3) ブックレット評価と増刷・改訂、次号発刊の検討と編纂：アンケート実施、次号準備を検討

2010 年度中長期的課題への対応

- 1) 大学史編纂・資料室ニュースレター発刊の検討：学園ニュース紙面に掲載枠確保
- 2) 編纂資料室の将来構想 (病院との協同連携)：病院との話し合いを開始
- 3) 100年史編纂にむけての検討：理事会で準備の必要性を確認

2011 年度課題

- 1) 事務文書の保管状況把握と移管受入体制整備
- 2) 病院との資料収集活動連携を推進
- 3) 資料保管スペースの確保

5. 資料・データ

- 1) 実施インタビュー

個人 (4回)：瑞穂梅・金子房代・福本豊子と土山幸子

グループ (1回)：日野原重明・永井敏枝・千野静香・今村節子・吉田芳子・大坂多恵子・青木康子

- 2) 日本看護歴史学会第24回学術集会発表

「第二次世界大戦下における台湾・朝鮮から聖路加女子専門学校への留学生の実態」有森直子、「大学アーカイブズの設立と運営についてー私立看護系大学における試みと問題点」渡部尚子・中山和弘

- 3) 展示室企画

写真展示「ユニフォームに見る聖路加の歴史」2010年7月23日～2011年3月24日

写真展示「class of 2011 & 学士12回生」2011年3月25日～2011年4月30日 (予定)

ケース展示「看護物品の変遷」2010年7月23日～2011年4月7日

以上

秘書室

1. 構成員

畠山小巻

2. 役割

- 1) 理事長、学長、学部長の秘書業務
- 2) 企画・調査に関すること
- 3) 学内の連絡調整に関すること

3. 活動内容

通常の秘書業務に加え、今年度は下記業務を行った。

1) 日野原理事長による「大学院生のための診断学」特別講義の運営

5月から始まった計13回の講義に、本学大学院生や外部聴講生ら、延べ178名が参加。広報や受講生、講師との連絡調整、講義のアシスタント業務を行った。

2) ボランティアコンサートの企画・運営

日野原理事長の提案を受けて、韓国人オペラ歌手フィージン氏の無料コンサートを聖路加国際病院チャペルにて開催。患者さんや一般客など約100名の来場者から「よかった」という声が多く聞かれた。

4. 課題

日野原理事長による診断学の特別講義は、2011年度も開催が予定されている。100歳の記念講義ということもあり、特に外部から大勢の参加希望者が見込まれる。広報活動や関連部署との連絡・調整をしっかりと行い混乱のないようにしたい。

総務課（学生課）

1. 構成員

〔課長〕 稲田昇三

〔課員〕 天岡 幸、後藤順子(派遣スタッフ一月・火・金)、嶋田ひとみ(同一月～金)

2. 役割・職務

- (1) 申請・届出
- (2) 文書受領、作成
- (3) 学内刊行物編集・配付
- (4) 証明書発行、学内届出書受付
- (5) 学生部・学生課業務
- (6) 委託業務管理
- (7) 学内施設利用受付
- (8) 窓口受付業務
- (9) 庶務
- (10)

委員会事務局

3. 活動内容（上記2に沿って記述）

- (1) 東京都・文部科学省「学則および大学院学則変更承認申請」（2010年7月）、（2010年10月）、（2011年3月）
- (2) 郵便物・宅配便受領・仕分け、公文受領・回覧、諸資料配付、返信作成、常任理事会・理事会・評議員会議事録作成
- (3) 速報作成・発信（No. 1724～No. 1767 44号）、年報2009年度編集（自己評価委員会）、学園ニュース編集（No. 291～No. 294、広報部学園ニュース編集グループ）、規程集イントラ版改訂
- (4) 学生証・職員証の発行・回収、ルカード発行管理、WILL（保険・共済）加入手続・事故報告受付・仲介、在職証明書作成、重点目標・達成度評価の実施、ミセスセントジョン記念教育基金受付・採用手続・報告書受領管理
- (5) 奨学金業務（設計、説明会開催・募集・応募受付・選考・送金・返金管理・返金催促・返金免除者選考、…）、学生ロッカー・ロッカーキー管理、拾得物管理、学生アパート紹介
- (6) 警備員・清掃員管理（施錠・開錠時刻管理、派遣会社員管理）
- (7) 講堂・教室・会議室利用受付・警備員配置・会場事前案内、アリスの家施設管理・利用受付、東急スポーツ・オアシス利用手続
- (8) 学割証発行、コピーカード販売、駐車許可証、自転車駐輪許可証
- (9) 寄付金（一般寄付・受配者指定寄付）受領・処理、教職員出・欠勤管理、まちかどクリーンデーの実施（毎月10日・11回）、式典祝品準備、慶弔、贈答品手配
- (10) 自己評価委員会、学生部ミーティング、奨学生選考委員会、学園ニュース委員会、人権委員会、大学マネジメント検討会、2号館ミーティング

4. 課題

- (1) 種々雑多な業務を事務局内各課で分担している。その担当の境目が必ずしも明確ではなく、永年各職が担当してきた業務を経験的に継続して行っている。業務の担当はその分掌を明確にして、若い担当に受け継がれていくのがあるべき姿だと思うが、それぞれの部署が少人数で担当している現状からはある程度の現状許容が必要なかもしれない。

5. データ

WILL 手続の記録

	件数	事例
WILL 傷害事故	2	通学途上の自転車事故 課外活動中のケガ
共済で対応	5	実習中の病院での事故 実習中の賠償事故等

ミセスセントジョン記念教育基金受付・実施記録

申請者	所属	期間	目的地	費用概算(円)
柳井晴夫	大学院	2009/12/27～2010/1/3	インド・ハイデラバード	261,900
堀内成子	助産学	2010/3/11～3/15	米国・ダラス	345,520
中島 薫	教務部	2009/8/10～8/14	カナダ・マギル大学	258,853
長松康子	国際看護	2010/7/25～8/1	ブラジル・サンパウロ	264,880
柳井晴夫	大学院	2011/2/2～2/6	インド・コルカタ	169,270
国際交流委員会		2011/3/16～3/19 (延期)	タイ・マヒドン大学	—
合計				1,300,423

奨学金の貸与・給付の状況

学生部の項参照

講堂・教室等施設外部貸与記録

	件	金額
講 堂	32	3,545,595
教室他	71	1,318,675
合計	103	4,864,270

鎌倉アリスの家利用実績

宿泊者数(人)			日帰り利用 者数(人)	利用者数 合計(人)	利用金額 (円)
学生	一般	3歳～12歳			
321	170	17	48	556	1,222,000

東急スポーツ・OASIS 利用実績

学生・教職員の別

学生	教職員	計 (人)
447	92	539

利用店舗別

聖路加カーテン店	その他	計 (人)
463	76	539

経理課

[委託] 小林邦男

1. 構成員

- [課長] 島田裕司
- [係長] 森島久美子
- [課員] 豊島景子

2. 役割・職務

経理課では現在次のような業務を行っている。

- 1) 予算関係業務(教育予算・大学全体予算・補助事業
予算)

- 2) 決算関係業務
- 3) 補助金関係業務（文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団）
- 4) 給与事務（月次給与・賞与・年末調整等）
- 5) 社会保険事務（私学共済、労災・雇用保険、私立大学退職金財団）
- 6) 福利厚生（積立貯金・グループ保険・財形貯蓄）
- 7) 学納金徴収事務
- 8) 現金出納業務
- 9) 固定資産管理
- 10) その他の補助金関連業務
- 11) 教育費の執行および管理
- 12) 教員研究費の配付・管理
- 13) 現物寄付受入・管理
- 14) 公認会計士監査立会い（大学、科研費）
- 15) 公衆電話・FAX・コピーカード管理
- 16) 理事会・評議員会資料作成
- 17) 契約業務
- 18) 損害保険に関すること
- 19) 資産運用に関すること
- 20) 借入金の管理

3. 活動内容

2010年度も教育予算の申請時から予算作成に関わり、その執行や管理まで一連の流れを滞りなく果たすことができた。

補助金関係業務については、今年度は年度初めから「入学定員超過による補助金不交付問題」が起これば対応に追われた。幸いにして、補助金取扱要領の一部改正があり、本学は救済されたが、今年度の補助金は大幅に減額され、厳しい大学経営を余儀なくされた。

4. 課題

経理課の役割・職務内容はあまりにも広範囲に及んでおり、しかも専門性が高い。今までは各々担当業務を決めて対応してきたが、全員が全ての業務に精通することを目的としている。今年度は課員全員が各種研修会や勉強会に積極的に参加し、専門的知識の習得に努めた。

経理課は大学全体の資金の流れを扱う部署であるため、大学の経営内容をいち早く把握することが可能である。今後は大学経営にも貢献できるように体制作りが必要であり、各自もより一層の自覚を持って職務に取り組むつもりである。

管財課

1. 構成員

[課長] 高鳥直人

[課員] 中村寧孝

[委託] 田畑まどか

[委託・用度担当] 越敏治

2. 役割・職務

1) 施設設備運用管理業務

2) 備品管理業務

3) 発注検収業務

4) 修繕業務

5) 学内行事等の設営業務

3. 活動内容

1) 施設設備運用管理業務

受変電設備管理：電気室内キュービクル点検、法定点検（毎月1回、総合点検1回：3月）

空調設備管理：冷暖房配管切替作業（年2回）、中央監視盤スケジュール設定

消防設備管理：消防設備法定点検（年2回）、防災訓練時の機器操作

電話設備管理：交換機保守点検（毎月）、契約見直し作業、使用料金チェック、他

水槽設備管理：汚水槽清掃点検（年3回、2号館は年2回）、上水槽清掃点検（年2回）、中水槽清掃点検（本館のみ年1回）、飲料水水質検査

昇降機設備管理：本館エレベータ保守点検（毎月）、図書館ダムウェーター保守点検（2ヵ月毎）、2号館エレベータ（毎月）

講堂運用管理：設備保守点検（年2回）、設営業務、空調設定、他

照明設備管理：学内共有スペースの蛍光灯管理

放送設備管理：下校時放送スケジュール設定、非常放送設備点検（消防設備保守点検）

電子ゲート管理：電子ゲート・スケジュール設定、ログチェックおよび点検作業（週1）、入退出システム機器保守点検（年1回）

館内清掃管理：日常清掃管理、ガラス清掃管理、ワックス掛け清掃管理、粗大ごみ処理

校舎建物管理：光熱水関係使用量管理（月末メーター点検）、害虫生息調査（毎月）、空気環境測

定（2ヵ月毎）

2) 備品管理業務

印刷機器管理：コピー機運用管理（消耗品在庫管理、コピーカード入力作業含む）、リソ運用管理（消耗品在庫管理含む）、丁合機運用管理、
 什器類管理：教室内机・椅子管理（棚卸作業含む）、研究室等の棚管理
 鍵管理：教室・研究室等のドアキー貸出業務、本館研究室キャビネット鍵貸出業務、大学鍵台帳更新業務
 情報機器管理：学生プリンタ管理（トナー発注含む）、コンピュータ管理（修理対応）、サーバ機器管理（SE および委託業者との調整業務）、ネットワーク機器管理（保守業者との調整業務）、保守点検調整作業
 ソフトウェア管理：ライセンス管理及び継続契約手続き等（学術教育用ソフトウェア、サーバ系ライセンス、ウィルス系ソフトウェア）
 アカウント管理：ユーザ登録抹消作業（学生利用者、教職員利用者など）
 携帯電話管理：実習用携帯電話の貸出業務、契約更新作業
 大判印刷機管理：大判印刷機の貸出、消耗品在庫管理、入金処理

- 3) 発注検収業務大学教育予算関係（実習物品全般、各科目予算による消耗品・機器備品、教員個人研究費による機器備品など）、日用品関係消耗品全般（清掃用具類、衛生用品、蛍光管、コピー用紙など）、文部科学省科学研究費（消耗備品、機器備品、印刷物）、その他競争的資金（がんプロ、厚生労働省科学研究費など）、その他事務管理物品全般
- 4) 修繕業務建物設備関係全般、教育用機器関係全般、管理用機器関係全般
- 5) 学内行事等の設営業務入学式（講堂内会場設営）、卒業式（講堂・チャペル内会場設営）、入学試験（物品準備、掲示物作成、会場設営）、アリスホールイベント全般（使用機器準備、会場設営）、防災訓練（設営準備、機器操作）、その他学内諸行事全般

4. 課題

- 1) 昨年度から問題視されていた本館研究室の電気容量不足については、各研究室の電気回路の把握に努め、現時点で消費電力の高い機器を設置している利

用者に対して現状説明を行い機器使用について指導するなど運用でカバーした。

- 2) 管財業務におけるマンパワー不足の問題については、今年度後期に委託の派遣職員1名を専任職員に交代したことにより、今後は課内で回せる仕事の幅が広がり体制の強化が期待できる。しかし、施設設備等の専門性を要する管理業務については現メンバーよる体制だけでは限界を感じている。今後は本館・2号館の統一した施設管理を視野に入れたアウトソーシング体制を築き体制強化を図りたい。
- 3) ここ数年、本館内の小規模・大規模設備の故障が目立ってきており、管財課職員は日々修繕対応に追われている。これらは本館校舎建築時に導入されたものが多く、かなりの年数が経過しているためメーカーからの修繕部品の調達も厳しい状況である。今後は設備更新を視野に入れた修繕計画を立て予算確保に努めることが重要である。
- 4) 3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の影響でいくつかの研究室の上下2段の棚がズレや落下等により破損した。破損の原因の多くは本の積み過ぎによるものだと推測できたが、上下2段の棚以外は大きな損傷が見られなかったため、今後は耐震性に優れた棚の入替を検討したい。

5. 資料・データ

- ①固定電話利用実績
- ②廃棄物等処理実績
- ③光熱水関係年間使用量実績
- ④大判印刷機利用実績
- ⑤携帯電話利用実績
- ⑥コピー機利用実績
- ⑦消耗品関係発注実績
- ⑧文部科学省科学研究費関係・発注検収実績
- ⑨施設設備修繕件数
- ⑩講堂利用実績（会場設営件数）

	2009年度	2010年度 (第1回)	2010年度 (第2回)
応募件数	20	11	15
採択件数	10	7	11

※2009年度及び2010年度（第2回）の採択分は、次年度の派遣予定を含む数

■固定電話利用実績

単位：円

	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比	備考
本館	2,408,692	2,289,777	2,146,186	93.7%	
2号館	845,268	784,889	737,274	93.9%	
鎌倉	70,363	69,448	69,221	99.7%	
その他	96,827	97,458	94,789	97.3%	ADSL回線費等
合計	3,421,150	3,241,572	3,047,470	94.0%	

※2009年5月24日より一部回線契約変更

■廃棄物等処理実績

単位：円

	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比	備考
本館	1,044,036	923,958	1,062,453	115.0%	
2号館	180,524	183,225	199,395	108.8%	
合計	1,224,560	1,107,183	1,261,848	114.0%	

■光熱水関係年間使用量実績 (※毎月末のメーター検針による使用量合計)

電気使用量

単位：kWh

	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比	備考
本館	615,090	592,350	587,580	99.2%	
2号館	282,888	269,208	270,300	100.4%	
合計	897,978	861,558	857,880	99.6%	

水道使用量

単位：m³

	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比	備考
本館	3,729	3,720	3,625	97.4%	
2号館	1,312	1,130	1,051	93.0%	
合計	5,041	4,850	4,676	96.4%	

ガス使用量 ※本館のみ

単位：m³

	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比	備考
都市ガス	389.3	416.9	321.5	77.1%	

地域冷暖房 (DHC) 使用量 ※本館のみ

単位：GJ

	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比	備考 (運転期間)
冷水	663.9	671.7	805.6	120.0%	5月初旬～10月下旬
蒸気	645.9	661.6	704.2	106.4%	11月初旬～4月下旬

■大判印刷機利用実績

単位：件

	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比
貸出件数	48	60	64	106.7%

■携帯電話利用実績

携帯電話使用料金実績 (年間)

単位：円

	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比
年間合計使用料金	175,438	165,085	164,532	99.7%

携帯電話貸出実績 (部門別)

部門	年間利用日数	備考
地域看護学研究室	432	実習用
母性看護・助産学研究室	421	実習用
基礎看護学研究室	122	実習用
精神看護学研究室	47	実習用
大学行事 (教務関係)	5	体育実習、新入生オリエン等

携帯電話貸出実績（月別・電話別）

2010 年度	No. 1		No. 2		No. 3		No. 4		No. 5		No. 6	
	貸出 日数	部門	貸出 日数	部門	貸出 日数	部門	貸出 日数	部門	貸出 日数	部門	貸出 日数	部門
4月	0		0		3	大学	0		0		0	
5月	0		0				0		4	基礎	0	
6月	21	精神	11	地域	2 11	大学 地域	21	基礎	26	基礎	11	地域
7月	26	精神	9 8	地域 助産	22	地域	26	基礎	26 5	基礎 助産	26	地域
8月	0		0		0		0		31	助産	0	
9月	16	地域	15	助産	17	地域	17	地域	3	助産	17	地域
10月	31	地域	31	助産	31	地域	31	地域	31	地域	31	地域
11月	30	地域	30	助産	30	地域	30	地域	30	地域	0	
12月	0		31	助産	0		0		0		0	
1月	27	助産	31	助産	27	助産	19	基礎	27	助産	0	
2月	28	助産	18	助産	28	助産	0		28	助産	0	
3月	11	助産	0		11	助産	0		31	助産	0	
合計	190		184		182		144		242		85	

■コピー機利用実績

設置場所別・利用料金実績

単位：円

設置場所(機種)		2008年度	2009年度	2010年度	前年度比
本館	1F 事務室	1,191,503	1,431,101	1,332,504	93.1%
	1F 秘書室	54,886	54,726	377,830	690.4%
	2F 図書館(DC507)	580,599	559,312	336,459	60.2%
	2F 図書館(DC402)	646,410	400,024	291,032	72.8%
	2F 図書館事務室	389,332	293,718	435,719	148.3%
	3F 図書館	411,297	366,928	320,758	87.4%
	3F 廊下	208,866	168,063	143,623	85.5%
	4F 廊下	519,498	390,351	248,477	63.7%
	5F 廊下	948,834	917,960	490,580	53.4%
	6F 廊下	718,782	680,305	331,195	48.7%
2館	1F 受付	210,051	201,784	227,086	112.5%
	4F 廊下	331,081	410,434	228,217	55.6%
	5F 研究支援室	535,552	605,546	664,207	109.7%
	5F 廊下	310,981	732,220	369,178	50.4%
	7F 博士ラウンジ	465,785	335,082	207,233	61.8%
	8F 廊下	784,075	780,465	485,119	62.2%
合計		8,307,532	8,328,019	6,489,217	77.9%

※2010年度9月、現行機種の契約及び機種変更実施

設置場所別・印刷枚数実績

単位：枚

設置場所(機種)		2008年度	2009年度	2010年度	前年度比
本館	1F 印刷室	255,892	340,270	307,513	90.4%
	1F 秘書室(※)	10,183	10,153	83,953	826.9%
	2F 図書館(DC507)	94,871	92,696	72,198	77.9%
	2F 図書館(DC402)	118,839	71,823	68,610	95.5%
	2F 図書館事務室	90,448	79,187	77,969	98.5%
	3F 図書館	59,067	52,010	47,039	90.4%
	3F 廊下	38,923	31,238	25,377	81.2%
	4F 廊下	85,893	81,302	50,703	62.4%
	5F 廊下	174,572	171,095	113,519	66.3%
	6F 廊下	106,814	96,924	82,730	85.4%
2館	1F 受付	39,560	37,659	41,220	109.5%
	4F 廊下	42,102	61,211	49,837	81.4%
	5F 研究支援室	85,344	100,012	110,855	110.8%
	5F 廊下	65,796	130,123	83,667	64.3%
	7F 博士ラウンジ	56,886	33,644	35,669	106.0%
	8F 廊下	139,423	141,189	115,182	81.6%
合計		1,464,613	1,530,536	1,366,041	89.3%

※2009年9月より秘書室専用を教務部・非常勤講師室・秘書室等の共用スペースに変更

コピーカード販売実績

単位：枚

	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比
100度数(※)	1,533	1,119	588	52.5%
	628	1,194	1,276	106.9%
500度数	267	214	162	75.7%

※下段は図書館の販売枚数実績

■消耗品関係発注実績(管財課管理に限定)

コピー用紙発注実績

単位：枚

		2008年度	2009年度	2010年度	前年度比
本館	A4用紙	1,885,000	1,817,500	1,632,500	89.8%
	A3用紙	235,250	129,250	139,250	107.7%
	B5用紙	35,000	25,000	35,000	140.0%
	B4用紙	87,500	77,500	72,500	93.5%
2館	A4用紙	850,000	890,000	695,000	78.1%
	A3用紙	29,750	27,000	27,000	100.0%
	B5用紙	5,000	0	2,500	-
	B4用紙	5,000	10,000	10,000	100.0%
年間発注金額(円)		¥2,091,047	¥1,953,952	¥1,606,001	82.2%

その他日用品発注実績

上段：金額 下段()内：発注個数

		2008年度	2009年度	2010年度	前年度比	備考
蛍光灯		200,681	153,016	96,860	63.3%	カッコ内は学内標準蛍光灯FLR40の発注個数のみ記載
		(325)	(500)	(350)	70.0%	
ペーパータオル		260,153	233,890	244,522	104.5%	カッコ内は発注個数(東)
		(2,776)	(2,750)	(2,875)	104.5%	
トイレトーパー		263,787	394,800	394,800	100.0%	カッコ内は発注個数(ロール)
		(3,240)	(6,000)	(6,000)	100.0%	
RISO	マスタ	258,300	296,100	258,300	87.2%	カッコ内は発注個数
		(82)	(94)	(76)	80.9%	
	INK	351,330	382,200	360,150	94.2%	"
		(50)	(56)	(52)	92.9%	

■文部科学省科学研究費関係発注・検収実績

費目別・発注検収実績件数

単位:件

費目	2008年度	2009年度	2010年度	前年度比	備考
消耗備品	385	407	469	115.2%	10万円未満備品
機器備品(※)	20	16	23	143.8%	10万円以上備品
印刷物(※)	6	3	3	100.0%	
合計	411	426	495	116.2%	

※10万円以上の備品購入および印刷発注時は管財課による3社以上の入札制となる。

機器備品・発注検収内訳

単位:件

	2008年度	2009年度	2010年度
デスクトップPC	2	1	2
ノートPC	14	8	18
PCサーバ	0	1	0
プリンター	2	0	1
プロジェクター	1	0	2
ソフトウェア	0	1	0
実習用機器	1	5	0
合計	20	16	23
発注金額合計(円)	5,461,206	4,013,235	4,432,273

■施設設備修繕件数

	2008年度	2009年度	2010年度
10万円以上	13	20	13
10万円未満	27	30	44
合計件数	40	50	57
合計金額(円)	7,958,808	6,047,581	6,554,064

■講堂利用実績(会場設営件数)

	2008年度	2009年度	2010年度
大学行事	9	11	14
大学教職員主催の学会	10	10	10
その他医療看護系学会	15	20	19
合計	34	41	43

健康管理室

1. 構成員

[保健師] 中山久子（専任・衛生管理者）、篠塚理恵子、野田薫（非常勤）

[校医] 古川恵一（聖路加国際病院感染科部長）

[カウンセラー] 福井みどり（ライフ・プランニング・センターカウンセラー）

2. 役割・職務

学生と教職員の心身の健康保持・増進、感染管理、健康相談、健康に関する知識の普及。

3. 活動内容

1) 心身の健康保持・増進

(1) 入学時の健康管理オリエンテーション（年間実施表参照）

(2) 定期健康診断の企画・運営と有所見者のフォローアップ（年間実施表参照）

(3) 35歳以上の教職員の人間ドック予約・有所見者のフォローアップ

(4) 実習オリエンテーション（感染予防と心身の健康のための自己管理）

(5) 後期健康状態調査の実施と調査結果に伴う対応（年間実施表参照）

健康相談面接、メールによる相談、ヨガクラス・カウンセリング・医療への連携

(6) 健康手帳の発行・管理（年間スケジュール参照）

2) 感染管理

(1) 実習前、免疫獲得状況の把握と免疫獲得のための学生への情報提供

(2) 新入生及び前年度結果（－）の学生のツベルクリン反応検査実施

(3) B型肝炎予防接種の機会を提供（年間スケジュール参照）

(4) 実習中、結核に曝露した学生及び教員への対応と健康状態フォローアップ

(5) インフルエンザへの対応と予防接種の実施（年間スケジュール参照）

(6) ノロウイルス罹患者への対応と感染拡大防止のための学内対応

(7) HPVワクチンの情報提供と相談

3) 健康相談及び応急対応

(1) 学生及び教職員のケガなどの身体的健康問題に関する応急対応

(2) 学生、院生の実習・研究・人間関係などのストレスによる精神的問題に関する対応

(3) 聖路加国際病院の校医・近医の紹介と連携

(4) 学内カウンセリングへの紹介、予約

(5) 入学試験・学内行事の応急救護

4) 緊急事態（事件、事故、暴力や性的被害を受けた等）が発生した場合の対応

(1) 本人・家族への迅速な身体的、精神的ケア

(2) 教員及び医師など必要なメンバーへの連携と対応

5) 知識の普及

(1) インフルエンザやノロウイルスなどの感染症に関する知識の普及

(2) 学生保健委員会を開催し、学生保健委員による保健ニュースの作成とメール配信

（年間スケジュール参照）

6) 就職活動支援

(1) 就職活動やインターンシップのための健康診断書の発行

(2) 志望病院から内定通知が届かなかった時の精神的サポート

7) 保健師交代の引き継ぎ

(1) ①～⑥についてのマニュアル化

(2) マニュアルに基づく具体的な内容と方法の引き継ぎ

8) 認定看護師の健康診断書結果と免疫獲得状況の把握と管理

4. 課題

1) 健康診断結果のデータ電子化

2) 緊急事態が発生した場合の本人・家族への迅速な身体的、精神的ケアと教員及び医師など必要なメンバーへの連携体制の充実

3) 健康管理室ニュースなどの情報発信機会の増加

5. 資料・データ

表1 健康管理室年間活動内容

<p>【入学時の健康管理オリエンテーション】</p> <p>オリエンテーションでは健康管理室の利用方法、健康診断の日程などの連絡、カウンセラーの紹介、カウンセリングの利用方法などの説明を行なった。身体的健康調査・心の健康に関するエゴグラムテスト・保健師との個別面接（入学時の不安や生活面、身体面の問題に対する相談）・セルフケア能力を向上する手段として、自身の健康状態を管理できる健康手帳を配布。</p>																																									
<p>【定期健康診断とフォローアップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期健診（血液検査・胸部X線・抗体検査・尿検査・血圧・体重・身長・視力測定）を462名が受け、そのうち有所見者は一般検尿12名、血液検査8名、胸部X線3名で内科受診し、精密検査及び治療を行った。 健康診断後に学生全員に対して校医と保健師との面談・内科健診を行なったが、それが学生にとって保健師や校医と気軽に心身の健康相談できる機会となり、病院、カウンセリング受診へと繋がった。 																																									
<p>【感染症対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型インフルエンザそして結核への対応が必要となったため、感染症看護堀成美助教と感染症科部長古川医師（校医）にアドバイスをいただきながら最善の対応を検討した。 新型インフルエンザ対応について正しい行動がとれるように正確な情報をホームページと学内メールにて伝えた。 免疫獲得不全者が麻疹（28名）・風疹（4名）・水痘（7名）・ムンプス（41名）いたため、予防接種を推奨した。 実習中、結核に曝露した3年生2名の対応として、校医の診察を受け、曝露から2ヶ月後に胸部レントゲン検査、QFT検査を受け、感染していないことを確認した。その費用は学生保険 WILL の適用となった。 実習における感染リスクから身を守るため、学生及び教職員がB型肝炎（46名）、季節性インフルエンザ（312名）の予防接種を高尾クリニックで受けた。 																																									
<p>【健康相談及び応急対応・学生部教職員や校医、カウンセラーと連携】</p> <p>健康管理室利用状況（表5）は、全数810件（昨年751件）。利用数は、5、6、7月は新学期の始まりの時期・定期健診の相談によるもの、10、11、12月は3年生の実習による心身の不調によるもの・予防接種に関する相談・健康相談件数（227件）が多い時期に利用件数が増加した。また、身体不調の訴えから日常生活・精神的ストレスなどの相談に展開することが多く、カウンセラーや校医との連携を含めたメンタルケアが重要となった。</p>																																									
<p>【後期メンタル健康状態調査票の実施】</p> <p>来室機会の少ない学生の生活状況・日常生活の不安や問題などを把握し、適切な支援を行なうため、後期健康状態調査票を実施した。これにより、学生の身体及びメンタルの健康状態を把握し、保健師によるメール健康相談により学生が求める医療機関やカウンセリング、ストレスマネジメントヨガを紹介することに繋がった。</p>																																									
<p>【学内カウンセリング】月2回、学内でカウンセリングを実施</p> <p>福井カウンセラーによるカウンセリング回数は下記の通り。ライフプランニングセンターでの実施も含まれる。</p> <table border="1" data-bbox="199 1630 1321 1765"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table> <p>相談内容：①実習でのこと、②家族や彼氏との関係も含めた対人関係トラブル、③個人の性格に起因すること、④うつなど気分障害を呈していることなどである。</p>														月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	件数	8	6	6	6	6	2	8	5	2	3	4	2	57
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計																												
件数	8	6	6	6	6	2	8	5	2	3	4	2	57																												

表2-1： 2010年度 健康状態調査票 結果

(人)

学年	提出数/総数	ストレス アンバランス	受診・カウ ンセリング希望	ハラスメント 受けた・受けている	メンタルヘルス 要注意
学部1年	66人/86人	15	1	14	10
学部2年	45人/75人	5	3	9	2
学部3年	20人/70人	3	0	4	1
学部4年	44人/70人	7	2	9	4
学士2年	16人/21人	2	0	4	2
学士3年	14人/20人	1	0	1	0
学士4年	19人/21人	2	0	3	1
大学院修士	22人/92人	13	2	13	5
大学院博士	9人/55人	1	0	3	1

表2-2： 2010年度 健康調査票の項目について

各項目名	各項目について定義の説明
ストレスアンバランス	自覚しているストレス・発散しているストレスのバランスがとれていないと判断した場合
受診・カウンセリング希望	本人から受診の希望がある学生。記載された相談内容から、受診の必要があると判断した場合。
ハラスメントを受けた・受けている	ハラスメントは、身体的・性的・言葉の暴力・心理的暴力の4項目について質問。
メンタルヘルス注意	SDSを元に質問項目を作成。回答内容からカウンセリング・保健師面接の必要性を判断した。
保健師面接	調査票の提出時、提出後の呼び出しにて、必要のある学生に実施
ヨガ	看護実践開発センターによる市民健康講座『ストレスマネジメントヨガ』に参加。

表2-3： 2010年度健康状態調査票 対応

(人)

学年	保健師 面接	メール	ヨガ 紹介	ヨガ 参加	カウンセリング 紹介	婦人科	学校医	その他の 科受診
学部	35	0	2	2	9	4	43	16
大学院	3	16	0	0	3	2	14	7

表3：感染症免疫獲得不全者（入学時健診）

(人)

学年	水痘	麻疹	風疹	ムンプス
1年生	7	19	3	35
学士2年生	0	9	1	6

※現在は全員免疫獲得済み

表4：ツベルクリン反応検査結果

学年	陽性	陰性	2回目 陽性	2回目 陰性	2回目 不参加	来年度 再検査
1年生・学士2年生	94	15	10	5	0	5
大学院生（修士）	33	9	6	1	2	3
前年度結果陰性者	5	5	2	1	2	3

表5：予防接種者（学内で任意接種者のみ）

於：高尾クリニック（人）

	学部生	大学院生	教職員	合計
インフルエンザ予防接種	185	68	59	312
B型肝炎予防接種	37	9	0	46

表6：健康管理室より医療機関受診への紹介

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
聖路加 際病院	校医（感染症内科）	7	8	9	12	10	3	9	8	11	23	4	2	106
	皮膚科	1			1	1				1		1		5
	WIC				2									2
	女性診療科				1	2				1	2			6
	整形外科				1					2	1			4
	内科				2					1		2		5
	口腔外科													0
	救急部			1	1								1	3
	乳腺外科			1	1					1				3
	耳鼻科	1			1									2
	眼科				1						1	2		4
	心療内科・精神科								0	2	3		1	6
	その他					1		1			1			3
近	婦人科			1				3	1	2		1		8
	整形外科			1										1
	皮膚科									2				2
	眼科	1			1			2		1	1			6
	心療内科・精神科						1	1	1	2		1		6
	その他			1	3			1		1		2		8
	合計 人	10	8	14	27	14	4	17	12	25	32	14	3	180

表7-1： 聖路加国際病院の受診者数 (人)

	校	W I C	皮膚科	診療部 女性 合	外科 整形 科	救急部	外科 口腔		耳鼻科	眼科	精神科 心療 科	他	
受診者数	106	2	5	6	4	5	3	0	3	2	4	6	3

表7-2： 大学周辺の医院・クリニック受診者数 (人)

	皮膚科	眼科	婦人科	整形外科	心療内科・ 精神科
受診者数	2	6	8	1	6

個人のかかりつけ医受診は13人

表8： 健康診断書発行状況 (枚数)

目的	学部生	大学院生	合計
就職活動	73	11	84
インターンシップ参加	21	0	21
実習先に提出	6	8	14
奨学金応募	2	0	2
その他	7	2	9
合計	109	21	130

表9：先輩が伝えたいルカ生への処方箋

日時・場所	2010年7月30日(金) 18:00~19:30 聖路加看護大学1号館601教室
対象	学部学生・学士編入生
参加して下さる先輩方	増子徳幸さん 2005年卒業(学士6回生) 精神科訪問看護、訪問看護師 青木悠さん 2006年卒業(学士7回生) 聖路加国際病院、小児科病棟看護師 福田あゆみさん 2008年卒業 横浜市立大学附属市民センター総合周産期母子医療センター、助産師 近藤華子さん 2009年卒業 聖路加国際病院、内科病棟看護師
内容	4人の先輩方は自己紹介された後、増子さんの司会進行で、対談のようなかたちで、和やかな雰囲気の中、話しを伺った。ルカ生であることについて、進路・蹴活・看護の適性について、友人関係について、などテーマごとに、さまざまな体験をされた先輩達だからこそ伝えられる対処法や考え方をお話いただいた。また、事前にうけていた質問、学士編入生の就職について、ストレス発散法、モチベーションを高める方法についても語っていただいた。後半は、学士編入生と学部生のグループにわかれ、円になり質疑応答というかたちをとり、より密に具体的な話しを聞く機会となった。
参加者の声	日頃から自分がぼんやりと考えていたことを、明確に言葉にしてもらえた気がして、来てよかったと思いました。ベッドサイドで自分が生かされていると感じる、という言葉が特に印象的でした。本当にありがとうございました(1年女性) 先輩方も、私と同じような悩みを持ちながらもがんばったという話を聞いて、私もなんとか卒業しようと思えました。学士の人に詳しく話をさせていただいて、本当に参考になりました。(2年女性)

※文部科学省 平成22年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムとして開催した。

表10 2010年度 健康管理室 活動内容

活動内容	分類	年間主要業務	対象者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	補足
心身の健康保持・増進	(1)	新入生健康管理オリエンテーション (免疫状況調査・健康手帳・台帳・TAOK配布)	新入生	↑												
	(1)	新入生の保健面接	新入生	↑												
	(2)	定期健康診断(於: 予防医療センター 施設、有所見者フォロー)	全学生 教職員	↑												
	(2)	尿検査・血圧・体重・身長・視力測定 於: 健康管理室	全学生	↑												
	(2)	校医による内科健診	全学生	↑												
	(2)	定期健康診断結果の通知&面接フォロー	全学生	↑												
	(3)	35歳以上教職員の人間ドック予約・有所見者フォローアップ	対象者				↑									
	(4)	実習オリエンテーション	対象者				↑									
	(5)	後期健康状態調査の実施と結果のフォローアップ	全学生	↑												
	(6)	健康手帳の発行と管理	新入生	↑												
感染管理	(1)	新入生の免疫獲得状況把握と免疫獲得のための情報提供	新入生							↑						
	(2)	パルクリン反応検査	新入生							↑						
	(3)	B型肝炎予防接種 於: 高尾クリニック	希望者												↑	
	(4)	結核に暴露した学生および教員の健康診断	対象者												↑	
	(5)(6)	インフルエンザ・ノロウィルス罹患対応	罹患 希望者												↑	
	(5)	インフルエンザ予防接種 於: 高尾クリニック	希望者												↑	
	(7)	HPVワクチンの情報提供と相談	希望者												↑	
健康相談対応	(1)(2)	ケガ・体調不良・精神的健康問題に関する応急対応	全学生 教職員												↑	
	(3)	校医・近医の受診紹介	全学生												↑	
	(4)	カウンセラーによる学内カウンセリング	全学生												↑	
	(4)	学内行事(入学試験・運動会など)の応急救護	全学生												↑	
	(5)	緊急事態発生時の本人・家族へのケア、教員・医師との連携	全学生												↑	
知識の普及	(1)	インフルエンザ・ノロウィルスなど感染症に関する情報発信	全学生												↑	
	(3)	学生保健委員会(健診補助・健康管理ニュース発行など)	全学生												↑	
	(1)	健康診断書の発行	希望者												↑	
就職活動支援	(2)	就職活動中の学生の精神的サポート	対象者												↑	
	(7)	健康管理室業務のマニュアル作成・見直し	対象者												↑	
その他	(8)	認定看護師の健康診断結果と免疫獲得状況の把握と管理	認定 看護師												↑	

研究支援室

1. 構成員

[係長] 高木裕也

[室員] 平良智子、福田昌、田口瞳

[委託] 中山令子（渡邊至）（ ）内は前任者

2. 役割・職務

- 1) 文部科学省科学研究費補助金事務
- 2) 厚生労働省科学研究費補助金事務
- 3) がんプロフェッショナル養成プラン補助金事務
- 4) 組織的な若手海外派遣プログラム補助金事務
- 5) 研究センター事業運営サポート・会計事務 [看護実践開発研究センター規程]
- 6) 聖路加・テルモ共同研究事業運営サポート・会計事務
- 7) 認定看護師教育課程事務 [聖路加看護大学看護実践開発研究センター認定看護師教育課程規則]
- 8) 認定看護師管理者講習事務 [聖路加看護大学看護実践開発研究センター認定看護師管理者講習（ファーストレベル・セカンドレベル）運営委員会規則]

3. 活動内容

1) ～4) 教員からの各相談対応、支払業務、文部科学省・厚生労働省他提出書類のとりまとめ

5)・6) 事業申請処理、催し物案内・三つ折パンフレット等広報物作成、センターHP（ココログブログ）管理・運営、報告書作成、教室予約調整、会場設営・片付け等運営サポート、支払・入金・予算管理等会計業務、運用ルール [センター利用のしおり] の管理・更新

7) 教員会・入試委員会手配・調整・資料作成、募集要項・研修生便覧・シラバス作成、入試広報業務、学納金管理、入学準備（オリエンテーション、研修生証作成他）、学籍・成績管理、講師依頼・公文書作成、時間割作成、フォローアップ研修、入学式・修了式等行事関係、講義運営サポート、資料印刷、教科書販売手配、科目評価集計、教具管理、支払・入金・予算管理等会計業務、助成金申請・処理・報告書作成（日本財団他）、日本看護協会申請・更新・審査業務、HP（ココログブログ）管理・運営、実習関係業務、窓口業務（各種証明書、レポート）

8) 運営委員会手配・調整・資料作成、募集要項作成、募集広報、募集審査、学納金管理、学籍管理、講師依頼、公文書作成、時間割作成、教室予約・調整、開講式・修

了式等行事関係、講義運営サポート、資料印刷、教科書販売手配、科目評価集計、教具管理、支払・入金・予算管理等会計業務、日本看護協会申請・更新・審査業務、HP（ココログブログ）管理・運営

4. 課題

- 1) 年々、研究センター事業の数が増えており、さらに研究支援室に求められる役割も増えていることから、4名の常勤スタッフがそれぞれ、科研他競争的資金業務、認定看護師教育課程、認定看護管理者講習の担当の業務を行いながら、研究センター事業の運営サポートを行うのはかなりの負担となっており、昨年度からほとんど負担が軽減されていない。
- 2) 競争的資金が採択されると、会計業務は研究支援室の担当となるが、昨年度の時点でほぼ受入体制が限界となっていたところに、来年度新たに採択されたアジア・アフリカ学術基盤形成事業が加わるため、現在のマンパワーのままでは十分な研究支援業務を遂行が困難である。

危機管理対策室

1. 構成員

[責任者] 山口喜義

[室員] 進藤務

2. 役割・職務（聖路加看護大学危機管理規程）

学長直属の組織であり、発生する恐れ又は発生した危機に対し迅速かつ的確に対処し、構成員と近隣住民の安全確保を図り、本学の社会的責任を果たす業務を担う。緊急事態発生時の第1報もここが受ける。

3. 活動内容

毎月1回（8月を除く）開催される危機管理対策委員会の運営準備を行う。防災マニュアル（学生用・教職員用）消防計画、防災訓練計画、新型インフルエンザ等の感染症対応策を提案し、消防署や聖路加国際病院との調整を行い、防災訓練等を実施する。

安否確認システムの情報収集を行い、次年度導入の準備を進めている。

3月11日の東日本大震災の際は、学長のもとで、避難指示、建物・設備の被害状況確認、帰宅困難者の校内宿泊、食事の手配、宿泊場所・毛布等の手配を行った。交

通機関の運行状況、各地の地震被害状況を館内宿泊者に伝え、ラウンジにはラジオを設置、状況を学生等が知ることができるようにした。幸いにも、本学の損害は軽微で電気・ガス・水道も使えたため大きな混乱はなく当日を乗り越えることができた。予測不能な大停電の可能性などに対処して休校措置等も学長に進言して実施された。

4. 課題

3月11日の東日本大震災の実際の経験を踏まえて防災マニュアルや備蓄品の見直し、書棚転倒防止措置、安否確認システムの導入、休日夜間の危機管理体制整備等について実効性のある対策を取りまとめて危機管理対策委員会へ提案する必要がある。

広報室

1. 構成員

[広報室長] 山口喜義、

[広報室スタッフ] 進藤 務、福田 昌

2. 役割・職務

広報全般の企画

3. 活動内容

- 1) 学外への広報活動の企画・立案・実施
- 2) 広報委員会との協働

- 3) 予備校等での入試ガイダンスの対応
- 4) 見学への対応
- 5) 広告掲載
- 6) 大学グッズの作成
- 7) Web改革など

4. 課題

- 1) 広報活動への全学的な啓蒙・取り組みの強化
- 2) 広報委員会や学園ニュース委員会など他の委員会との連携
- 3) 志願者数増加に結びつく大学グッズの作成、配布
- 4) HPなどインターネットの内容充実など

5. 資料

- 1) 見学来訪者への対応

2010年4月～2011年3月 来訪者数：86名

- 2) オープンキャンパス参加者数

6月26日：322名、7月31日：803名、8月1日：636名 合計1,761名

- 3) 大学パンフレットについて

作成費：215万円 作成部数：6500部 発注先：栄美通信

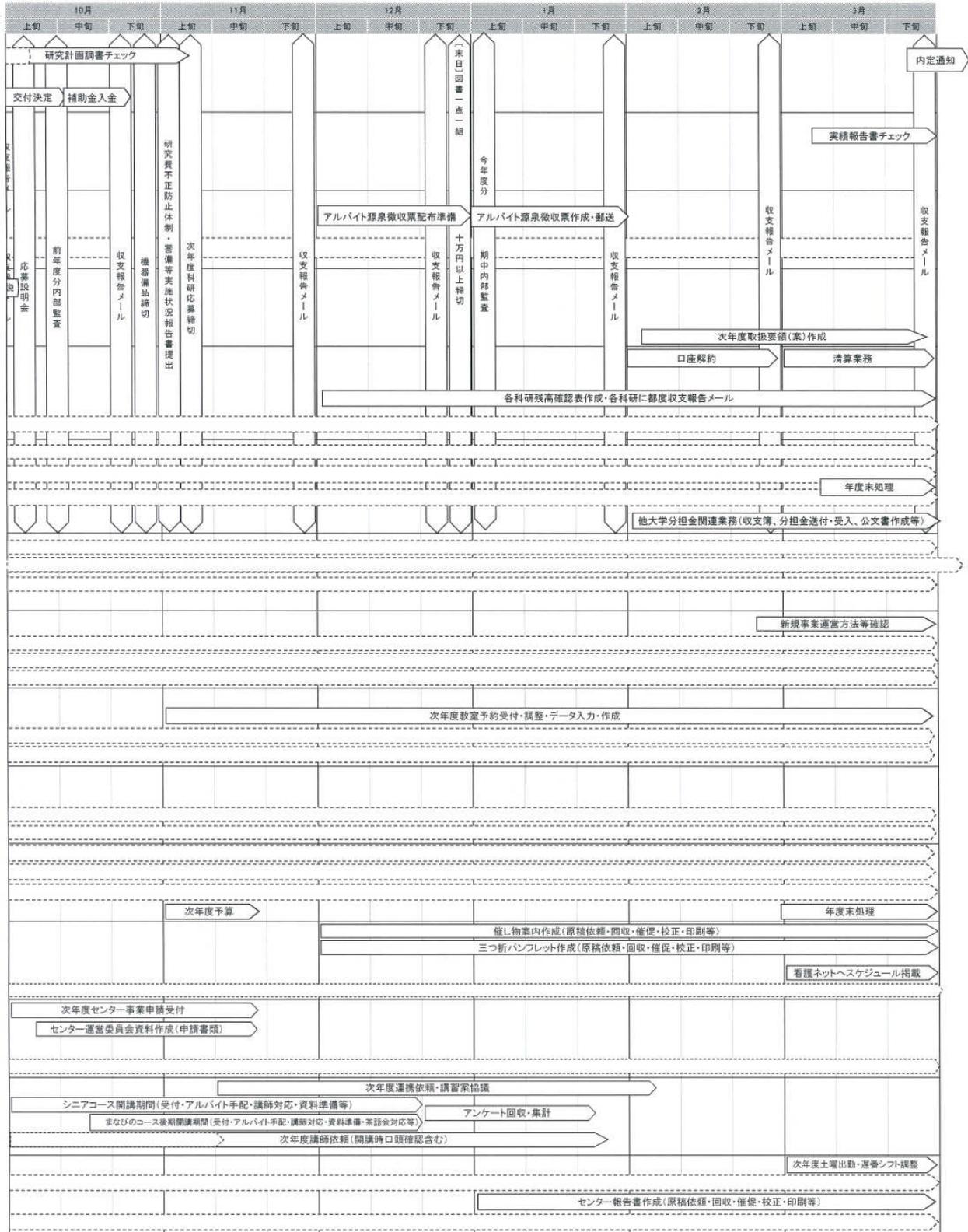
- 4) 予備校等での入試相談会

夏期相談者数：108名 冬期相談者数：78名 春期相談者数：15名

研究支援室業務別年間スケジュール



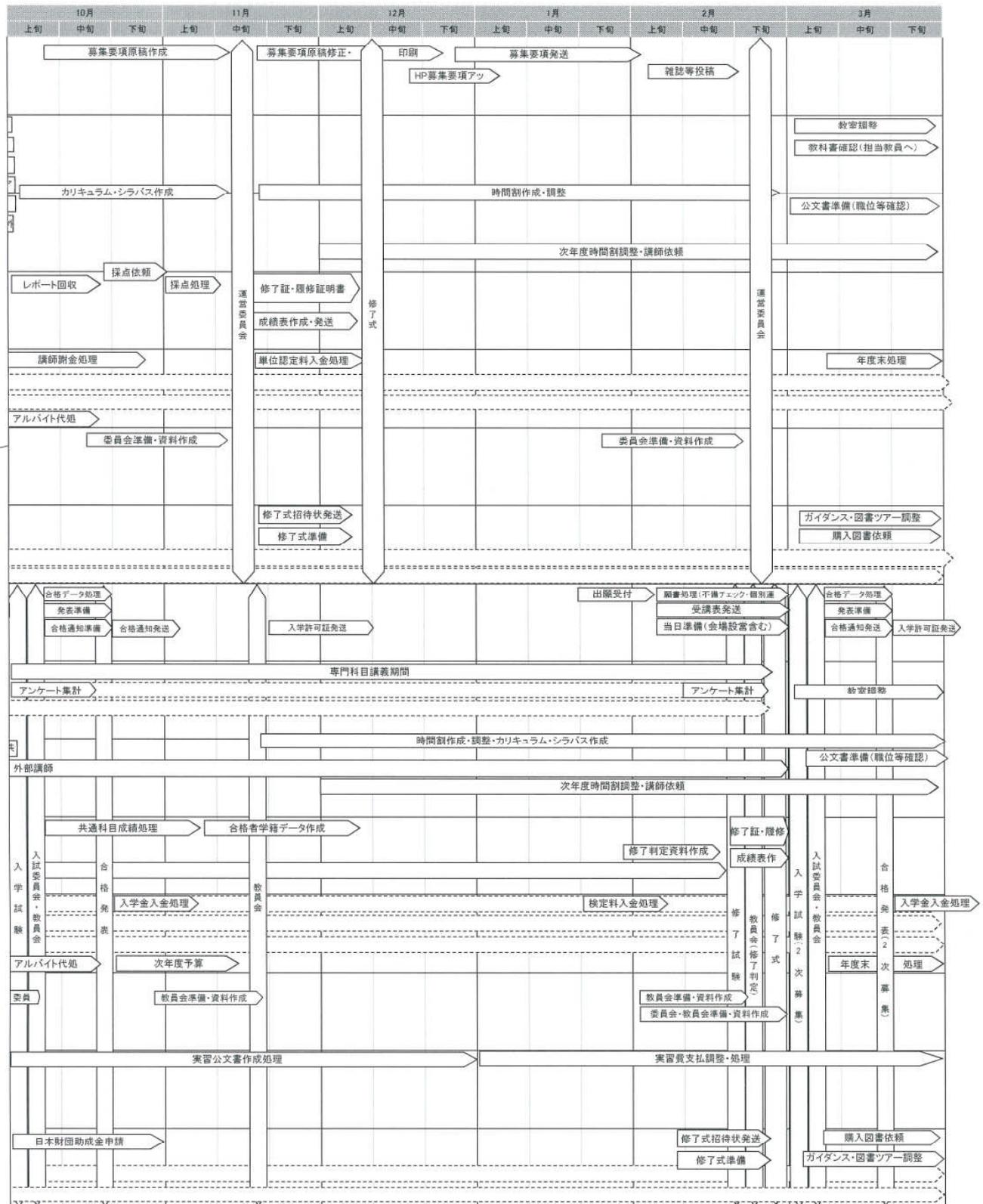
チャート (科研・センター)



研究支援室業務別年間スケジュール

	4月			5月			6月			7月			8月			9月				
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
認定者管理(メイン担当 福田 サブ担当 平良)	募集・出願						出願受付													
	講義	教室調整											開講準備・物品調達・教材手					授業準備・物品調達・授業サポ		
	講師	公文書作成・発送			略歴書・口座振替依頼受理								開講式案内「講師の皆様へ」等発送						アンケート集計処理	
	学籍・成績																			アルバイト管理
	経理業務	前年度決算																		次年度講師依頼(開講時口頭で確認)
	委員会																			外部講師対応(昼食手配・湯茶接待含む)
認定者講師教育課程(メイン担当 平良 サブ担当 福田)	募集・入試																		出願受付	
	講義																		願書処理(不備チェック・倍率速)	
	講師	公文書作成・発送(コース・共通)			略歴書・口座振替依頼受理														受講表発送	
	学籍・成績																		当日準備(会場設営含む)	
	経理業務	前年度決算																		共通科目講義期間
	委員会																			共通科目講義期間

チャート (認定事業)



V 学長諮問委員会

学事協議会

1. 構成員

[学長] 井部俊子

[学部長・研究科長] 菱沼典子

[図書館長] 中山和弘

[教務部長] 麻原きよみ

[学生部長] 菱田治子

[研究センター長] 山田雅子

[事務局長] 山口喜義

2010年度前半は麻原教務部長がサバティカルリーブのため高橋教務課長が出席した。

2. 役割

学長の諮問機関として本学の教育運営に係る問題を協議する。(学事協議会規程第1条)

3. 活動内容

2010年度の学事協議会は16回開催された。

主な協議事項

- 1) 2010年度聖路加看護大学活動計画
- 2) 学生数増加への対応について
- 3) インドネシア Islamic University との交流協定締結について
- 4) ウパウパ奨学金規程
- 5) 2010年度創立記念行事、講演会について
- 6) 修士課程の専門領域の変更に関して
- 7) 教員および院生による本学の学生を対象にした調査・研究の申請書について
- 8) 実習室委員会規程について
- 9) 急性期 CNS の申請に関して
- 10) 厚生労働省特別看護師(仮)養成試行
- 11) 実習施設未申請の件
- 12) サバティカル教員の委員会等について
- 13) 教育予算委員会のための教員の枠組みについて
- 14) 学生歌の扱いについて
- 15) 延世大学から学部学生の留学の問い合わせについて
- 16) 客員教授およびその任期更新について
- 17) 聖路加看護大学における国際交流の方向性について

て

- 18) 採用人事・昇格人事
- 19) 大学の将来について
- 20) 2011年度の委員会計画
- 21) 研究室の割り振り
- 22) ミセスセントジョン記念教育基金の採用
- 23) 次々年度以降の人事
- 24) 入学式等の実施について
- 25) 被災状況の把握と対応について
- 26) 災害救援について
- 27) 聴覚障害を持つ入学生への対応について

4. 課題

将来展望を見据えた「学事」事項を計画的効率的に協議していくことが課題である

自己評価委員会

1. 構成員

[委員] 井部俊子、菱沼典子(委員長)、麻原きよみ、菱田治子、中山和弘、山田雅子、山口喜義

[書記] 稲田昇三

2. 役割・職務

自己点検・評価の実施と結果への対応を主たる役割とする。年報の作成により、年度毎に自己点検を行い、課題を抽出して大学組織としての改善を図る。また大学基準協会による7年毎の認証評価を計画的に実施する。

3. 活動内容

11回の会議を開催し、以下の内容に取り組んだ。

- 1) 2009年度年報発行(2010年5月)。
- 2) 2009年度年報に記載された各課題を点検し、解決されたこととさらなる検討課題とに分けて検討した。
- 3) 2010年度年報の準備を行った。発行は次年度5月とすること、前年度の課題に対する点検評価を必ず行うこととした。
- 4) 教職員の目標設定とその達成度評価を実施した(資料参照)。

5) 1995年に改訂した現行カリキュラムの10年後のカリキュラム評価の年に当たり、10年目の卒業生と全学士編入生の追跡調査を計画したが、調査の目的が明確でなかったことから、実施できなかった。

6) 大学基準協会からの認証評価に対する評価の調査を受ける予定であったが、3月の大震災のため、次年度に持ち越された。

4. 課題

昨年度の課題に関して、①年報のあり方は方向が定ま

った。②教職員の目標設定とその達成度評価は目標設定をすることと教員間の正規な面談が実施されることに意味があると評価されているが、教職員評価につながるかどうかはまだ課題となっている。

本年度、年報の各部門・委員会が挙げた課題を見直し検討したが、本学の今後の方針と重ねて解決策を計画すべき点が多くあることがわかった。次年度は将来構想委員会が立ち上がるので、課題への具体的な取り組みができるよう、課題の整理が必要である。

卒業生の追跡調査は課題となっている。

5. 資料

2010年度重点目標・達成度評価 評価者および実際のタイムスケジュール

[教員]

評価者		1次評価者		2次評価者		提出先		本人に返却	
		1次評価者		2次評価者		提出先		本人に返却	
教授		学部長		—		学長			
領域の長がいる准教授・助教		領域の長		学部長					
領域の長がいない准教授・助教		学部長		—					
提出期限	年度初めの目標設定	6/4		6/11		6/18		5/10 (次年度重点目標設定時)	
	年度半ばの報告	9/14		9/22		9/30			
	年度末の評価	2011/2/28		3/11		3/23			

[職員]

評価者		1次評価者		2次評価者		提出先		本人に返却	
		1次評価者		2次評価者		提出先		本人に返却	
課長、係長 (課長不在の部署)		事務局長		—		学長			
係長・一般職員		課長		事務局長					
提出期限	年度初めの目標設定	6/4		6/11		6/18		5/10 (次年度重点目標設定時)	
	年度半ばの報告	9/14		9/22		9/30			
	年度末の評価	2011/2/28		3/11		3/23			

研究倫理審査委員会

1. 構成員

[委員長] 亀井智子

[委員] 桑原博道 小松康宏 白木和夫 関正勝
鶴若麻里 廣瀬清人 松谷美和子 森明子 山田雅子

2. 役割・職務

聖路加看護大学研究倫理審査委員会規則に則り、聖路加看護大学研究倫理審査委員会内規ならびに研究倫

理審査委員会小委員会運用細則の第一条(目的)を達成するべく、研究計画の倫理審査を行う。

3. 活動内容

計11回の研究倫理審査委員会を開催し、提出された研究計画書について審査を行った(表1、2)。また、「臨床研究に関する倫理指針」「疫学研究に関する倫理指針」が21年4月施行となったことにあわせ、研究倫理審査委員会規則、および小委員会運用細則の改正、研究倫理審査細則の新規作成、申請書の改正、チェックリストの新規作成を行った。

4. 課題

改正した規則、小委員会運用細則、新規作成した研究倫理審査細則は23年4月から施行となるため、研究者へ周知することが必要である。また、審査申請件数が年間を通じて多くなっている、審査の種類を誤って申

請する、あるいは申請書類内に不備があるなどの申請書が散見されるため、研究者へ啓発を行う必要がある。

本学の教職員、大学院生、研究生が在職・在学中に収集・生成したデータの帰属をどこに置くか、については継続審議となっている。

表1 審査件数

	開催月日	出席委員数	新規申請		期間延長・一部修正等	審査件数
			通常審査	簡易審査		(新規のみ) 計
1	4月20日	8	3	-	3	3
2	5月18日	9	8	-	5	8
3	5月25日	7	8	-	-	8
4	6月15日	8	5	-	2	5
5	7月20日	7	10	1	5	11
6	9月21日	7	17	1	8	18
7	10月19日	9	6	1	1	7
8	11月16日	9	7	-	2	7
9	12月21日	8	7	-	2	7
10	1月18日	9	7	-	2	7
11	3月15日	8	7	3	5	10
計			85 〔内訳〕 教員：29 博士前期：33 博士後期：21 その他： 2	6 〔内訳〕 教員：3 博士前期：3	35	91

表2 審査結果

審査結果	承認	条件付き承認	保留	簡易審査不適格
通常審査	73	10	2	-
簡易審査	5	-	-	1
計	78	10	2	1

人権委員会

1. 構成員

[委員長] 田光信幸（日本聖公会東京教区、聖マーガレット教会司祭）

[委員] 松谷美和子(研究科委員会)、森明子(研究倫理審査委員会)、菱田治子(教授会)、岩間節子(評議員会)、細谷亮太(聖路加国際病院)、

[事務局] 稲田昇三(総務)

2. 役割

人権委員会規程第2条

1) 本学におけるセクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントおよびその他学習・研究・労働に関連して教職員、学生および研究者等に生じる権利・利益に関する諸問題に関する事項を審議すること

2) 本学における学内人権事項に関する苦情を受け付け、対応すること

3) 本学における学内人権事項に関する必要な措置を学長に具申すること

4) その他、本学における学内人権事項の解決のために必要な事項を実施すること

3. 活動内容

委員会開催

今年度は申立がなく、委員会の開催はなかった。

4. 課題

人権委員会規程に付随して、学内人権事項に関して申し立てる方法について「運用細則」を定め、申立の様式も明示している。また「ストップ・ハラスメント!」と題するリーフレットを新入学生・教職員に配付している。しかし、2004年に委員会が設置され「申立」の受け入れを開始したが、申立の実績は過去に1回2件のみである。学生・教職員の相談窓口は、学生部の「よろず相談」、健康管理室での相談やカウンセリングなどが準備され、また個別の教員への相談も行われているが、訴えを持ち込む「裁定」を行う機関として存立の意義を確立していかなければならない。

5. 参考データ なし

発明委員会

1. 構成員

[委員長] 山口喜義

[委員] 井部俊子

[事務局] 田口 瞳

2. 役割・職務

聖路加看護大学発明規程

職務発明等の知的財産権継承の可否および出願手続きに関する審議決定

3. 活動内容

発明等の届け出があれば速やかに委員会を開催し、知的財産権継承の可否および出願手続きの可否および出願手続きの審議を行っている。

4. 課題

発明、実用新案等に該当するかどうかの事前相談について、他大学の実績を調査して候補特許事務所案を選んでいるが、今年度は相談がなかったため特許事務所との交渉までは至っていない。

5. 参考データ

知的財産継承件数	発明	3件
	実用新案	2件

大学マネジメント検討会

1. 構成

[委員長] 井部俊子学長

[委員] 各委員会委員長、事務部門課長

2. 役割(規程)

前年度までの「委員長・部課長会議」においては、各委員会、事務部門各部課での活動や問題点について相互の理解を深める機会としたが、その活動を引き継いで同じメンバーで各部署の問題点について、学内各組織のリーダーが一堂に会し幅広く意見交換する会とすることを目的とした。

3. 活動内容

1) 隔月で6度の検討会を開催した。

第1回2010年5月25日

- ① 広報戦略について ② チーム医療推進について ③ 大学マネジメント検討会の位置づけ

第2回7月27日

- ① 情報システム委員会「プリント枚数意識化プロジェクト」について ② 危機管理委員会からの検討課題 ③ 特定看護師(仮称)モデル事業の申請について

第3回9月28日

- ① 学生のプリント枚数意識化プロジェクトについての報告 ② 安否確認システム導入についての報告 ③ 聖路加国際病院の合同防災訓練についての報告 ④ 学士編入の入試での出題ミスについて ⑤ 募金活動推進委員会の機能について

第4回11月30日

- ① FD/SD 研修会についての報告 ② 2011年度予算編成方針について

第5回2011年1月18日

- ① 2011年度教育予算の内容と課題 ② 増収および経費削減、人事施策に関わる経理課からの提案

第6回2011年3月22日

- ① FD/SD 委員会からの提案 ② 災害対策に関する意見交換

4. 課題

大学マネジメント検討会は本年度で活動を終わり、その活動目的はFD/SD委員会に受け継ぐ。

5. 参考データ なし

奨学生選考委員会

1. 構成員

[委員長] 菱田治子

[委員] 井部俊子、菱沼典子、麻原きよみ、天岡幸(学生課)

2. 役割・職務

聖路加看護大学奨学生選考委員会規程より選考委員会は下記について審議する。

- 1) 学校法人聖路加看護学園貸与奨学金の奨学生の選考および貸与奨学金の運用
- 2) 独立行政法人日本学生支援機構の奨学生の選考
- 3) 独立行政法人日本学生支援機構大学院第一種学資金返還免除候補者の選考
- 4) その他の奨学生の選考
(奨学生選考委員会規程第3条)

3. 活動内容

計7回の委員会を開催し、提出された各奨学金申請書について選考した(資料参照)。委員会開催回数を効率化するため、スケジュール調整を行い昨年度より開催数を減らした。また、2011年1月21日(金)創立記念行事にて奨学金給付者と奨学生との懇談会を設け実施した。

4. 課題

聖路加看護学園貸与奨学金資金が貸与者増加のため、減少している。資金確保の必要がある。

5. 資料

開催日	選考奨学金名	申請人数	推薦決定人数	
1	4/27	茂木本家教育基金	2	1
		丸和育英会	4	2
		高島君子記念看護奨学金	2	1
		岡村育英会	10	10
		守谷育英会	6	1
2	5/18	東京都看護師等修学資金	8	8
		日本学生支援機構学部定期採用	19	16
3	6/ 8	日本学生支援機構大学院定期採用	17	14
4	7/ 6	小澤道子記念奨学金	3	3
		聖路加同窓会奨学金	3	1
		聖路加看護学園貸与奨学金	8	8
5	7/27	ウパウパ奨学金	3	3
		有馬育英会	5	2
		青木奨学金	5	3
		聖路加看護学園貸与奨学金緊急採用	1	1
6	10/26	未来の助産師基金	4	2
		日本学生支援機構 特に優れた業績による返還免除候補者推薦(選考方法について)		
7	3/22	日本学生支援機構 特に優れた業績による返還免除候補者	6	4

危機管理対策委員会

1. 構成員

[委員長] 山口喜義

[委員] 井部俊子、菱沼典子、菱田治子、山田雅子、進藤務

2. 役割・職務（聖路加看護大学危機管理規程）

- 1) 危機管理に関する対策の検討・実施
- 2) 緊急時の対策本部機能を担う
- 3) マスコミ対応が必要な場合の措置

3. 活動内容

- 1) 消防計画の検討・作成
- 2) 防災マニュアル(学生版・教職員版)の検討・作成
- 3) 新型インフルエンザ等の感染症対応策の検討・実施
- 4) 災害用備蓄品の検討・整備
- 5) 非常持ち出し書類、重要保管書類の確認

6) 安否確認システムの導入検討

4. 課題

3月11日の東日本大震災により、帰宅困難者の学内宿泊、交通機関再開時の大混雑、徒歩帰宅の困難などを実際に体験。今後は、これらを反映した防災マニュアルや備蓄品の見直し、書棚転倒防止措置、安否確認システムの導入、休日夜間の危機管理体制整備等、より実効性のある対策の検討と実現が課題である。

5. 資料

非常用備蓄品

本館地下倉庫 水ペットボトル1200本、乾パン228缶、簡易トイレ5個

2号館地下倉庫 水ペットボトル192本、乾パン488缶、簡易トイレ2個、寝袋20個

※3月の地震による帰宅困難者学内宿泊時に水ペットボトルと乾パンを使用。補充手配中。

VI 常設委員会

教育予算委員会

1. 構成員

[委員長] 及川郁子（臨床看護系Ⅰ）

[委員] 菱田治子（教養・基礎系）、山田雅子（基礎看護系・センター）、田代順子（臨床看護系Ⅱ）、高橋昌子（教務部）、島田裕司・豊島景子・森島久美子（事務局経理課）

2. 職務・役割

予算委員会は、常設委員会として組織上は位置づけられているが、委員会委員の選出および活動は2010年11月～2011年1月までである。

- 1) 学部および大学院等の正規の教育活動および委員会活動に係る次年度予算の申請を概算要求基本方針に基づいて調整し、とりまとめる。
- 2) とりまとめた申請予算について、学園理事長、学長および事務局長へ報告する。

3. 活動内容

- 1) 2011年度教育予算について、予算委員会で次のように予算申請の調整を行い、予算総額55,668千円とした。
 - (1) 予算委員会開催：予算委員会の日程調整、予算申請方法・配布資料の確認、予算申請書の審査、修正予算の確認のため、計4回の委員会を開催した。
 - (2) 教育予算基本方針：教育予算を検討するにあたり、教育の質の担保に不可欠な予算を優先し、可能な限りの経費削減に努めることとした。
 - (3) 予算申請に関する説明会：2010年11月16日（前年度より20日ほど遅い）全職員に、「2011年度予算編成方針」「2011年度の教育予算の概算要求に当たっての基本的な方針について」「予算申請用紙」についての説明会を行い、2011年度教育予算総額は45,000千円以内を目標とすることを伝えた。また、予算関連の資料はイントラにアップし、周知を図った。
 - (4) 予算調整にあたって
第一次予算申請総額は113,368千円（2010年度申

請額より55,049千円増）であり、68,368千円の削減が必要であった。委員会では、申請された教育予算について以下の点を確認・検討した。

- ① 授業に関する科目予算および教務予算については、申請基準に照らし、i 申請根拠、ii 優先度、iii 単位数および教育内容・方法、iv 研究費との関連の4点をもとに、教育予算として適切であるか否かを検討した。
 - ② 委員会活動予算については、委員会活動の内容と照合し適切であるか否かを検討した。
 - ③ 新規申請および増額予算については、その理由や必要資料の添付による説明を求め、教育予算として妥当であるか否かを検討した。
 - ④ 必要時予算担当者にヒアリングを行い、実質的に必要な予算のみを計上することを徹底した。
 - ⑤ 教育・研究活動に不可欠な、図書館予算48,040千円の設備整備費および情報システム委員会予算6,640千円のIT関連整備については、大学全体に掛かる費用として教育予算と切り離れた。
 - ⑥ 今回の委員会では、2011年度実習費等（実習謝金、実習打ち合わせ費用、非常勤講師、特別講義）に関する予算について検討する機会が設けられ、実習等に関連する予算申請については申請基準に照らし検討した。
- 2) 2011年度教育予算調整結果申請された教育予算に対し最大限の削減修正を行った結果、最終予算は55,66千円（大学院研究費7,400千円を除くと48,268千円）となり、目標の45,000千円には届かなかった。増額した理由は、以下のことが考えられた。
 - ① 学部学生が増加している
 - ② 大学院に新たな専攻領域が新設され、それに伴う科目数が増えている
 - ③ これまで補助金で申請していた機器・備品の申請ができなくなった。
 - ④ 機器・備品の耐用年数が過ぎ、買い替えの必要のあるものが増えてきている。
 - ⑤ 大学院研究費が教育予算を圧迫している。

4. 課題

2011年度教育予算調整の過程において、今後の課題を

次のようにまとめた。

- 1) 大学全体の長期および短期将来構想に基づいた単年度計画の明確化とその予算化を実現するため、申請予算の検討に先だてこれらのことが明らかにされる必要がある。
- 2) 将来構想および単年度計画に基づいた適切な予算申請を実施していくには、予算委員会の設置が予算申請時期ではなく、それより数カ月前とすることが望ましい。
- 3) 今回、e-learning を利用した授業内容を推進するために科目レベルでの申請があった。施設整備、IT 関連整備に関する経費は高額となり、大学全体としてのシステムを見据えての計画的な予算化が必要である。
- 4) 機器・備品に関しては、耐用年数、学生数を考慮して計画的に買い替えを行っていくための予算化が必要である。
- 5) 予算削減のためには、現在行われている科目ごとの予算申請について、カリキュラムの変更に合わせて領域ごとにまとめることや、毎年経常的に必要な予算はそのまま認め変更部分のみを申請するなど、申請方法を検討する。新規申請、増額申請にあたっては、引き続き説明書や資料の添付を徹底する。
- 6) 実習関係費用の取り扱いおよび大学院の特別講義時間数についての基準を設けることが必要である。
- 7) 大学院研究費については、実習費等を考慮するなど取扱方法を検討する。
- 8) 実習等の謝礼・手土産用に大学専用の菓子をつくるなど、予算削減の工夫を取り入れる。

広報委員会

1. 構成員

[委員長 (部課長)] 江藤宏美

[委員] 池口佳子、伊藤和弘、卯野木健、大畑美里、大森純子、片岡弥恵子、角田秋、蜂ヶ崎令子、山本由子、稲田昇三、櫛田智恵美、高鳥直人、中村寧孝、福田昌、山口喜義

2. 役割・職務

広報委員会の広範囲にわたる役割をスムーズに、効率よく遂行するために、チーム制にして各プロジェクトを自律して遂行した。

- 1) オープンキャンパスの開催：リーダー・大森

サブリーダー：卯野木・福田 (広報室)

メンバー：高鳥・櫛田・中村・角田・山本・池口・大畑・稲田・蜂ヶ崎

- 2) 大学ホームページ作成：リーダー・卯野木、メンバー・江藤・高鳥・福田・中村
- 3) Active Page 作成：リーダー・江藤、メンバー・卯野木・高鳥・福田・中村
- 4) 白楊祭の参加・企画：卯野木、江藤、大森、池口、大畑、角田、山本、高鳥、中村、福田
- 5) 学園ニュースの編集・発行、2011-2012 大学パンフレット制作：伊藤、片岡、蜂ヶ崎、稲田、進藤(広報室)
- 6) 学生広報委員会：蜂ヶ崎、山本、福田

3. 活動内容

プロジェクトごとにチーム制にし、年頭に目標を立てて行った結果、それぞれのチーム内での話し合いも詳細に行われ、大きな成果が上がった。以下の通りである。

- 1) 新たな形式および体制によるオープンキャンパスの企画・運営

オープンキャンパスは、これまで土曜・日曜の午前開催、開始から終了まで一括したプログラムで実施してきたが、昨年度までの、特に日曜の来場者数の増加やニーズの多様化などの傾向を検討し、今年度からは新しい時間帯・形式・体制で実施することを企画した。いわゆる進学校 (高等学校) では土曜の午前に授業を行っている現状に合わせ、開催する時間帯は土曜・日曜の午後開催とし、参加者が都合のよい時間帯に自由に会場に出入りし、ガイダンスや相談 (入試や学費など)、学生との懇談、学内見学ツアーなどの各コーナーに随時参加できる形式を導入した。体制としては、前年度から学生広報委員と共同で企画し、運営は学生広報員・学生ボランティアと共に行った。開催する時期は、6月下旬・7月下旬・8月上旬の3回とし、昨年度と同様に大学院入学志願者向けのオープン研究室と同時開催とした (各回の来場者数：表1参照)。

- 2) 大学ホームページのリニューアル

作成に当たり、従来とは異なり、レンタルサーバを使用し、CMS (Contents Management System) を導入したシステムを取り入れた。CMS 導入により、従来よりも更新しやすい (複数の人が更新可能な) システムをめざした。さらに、樹状構造を見直し、

ホームページの主な対象である受験生が必要な情報にアクセスしやすいよう工夫した。公開は4月以降になる見込みである。

3) Active Page (website) の開設

本 Web Site は、大学ホームページサイトを補佐するという位置づけで、開設に係わった大学の構成員が責任を持って公開する Web Site である。情報公開を希望する大学の個人や団体が、自由かつ簡便に作成・公開できる Web Site として整備する事を目指している。聖路加看護大学の Activity を一般社会に報告する Site で、本年度はその公開準備を行った。現在、Hardware, Operating System, Services, CMS の構築までが完了している。Hardware の仕様概要は、CPU=Pentium D, RAM=8GB, HDD=500GB×2(RAID 1) であり、CMS は Movable Type 5 である。

4) 白楊祭の参加・企画

白楊祭の受験生相談コーナーにおいて、相談コーナー対応（主に父母対応）、学生広報委員との連携、物品発注・管理（飲み物、ネームプレート等）を行った。

5) 学園ニュースの編集・発行、2011-2012大学パンフレット制作

学園ニュースは、291号から294号まで4号発行した（表2参照）。293号から、学生への配布を中止し、大学イントラネットへ掲載した。

大学パンフレットは、既製の2010-2011版をベースに、2011-2012版を新たに6,500部作成した。新カリキュラムへの変更、養護教諭一種の卒業生や大学院助産学修了生の紹介などを新たに取り入れた。また、紹介する学生は学生広報委員会からの推薦を受けるなどの配慮を行った。

6) 学生広報委員会との連携

2010年度の学生広報委員会との共同開催回数は7回であった。内容はオープンキャンパス、白楊祭、母校訪問について詳細に話し合い、広報活動を展開した。

オープンキャンパスでは、今年度から新しい取り組みとして行ったコーナー制で、事前に詳細な計画を練り、学生主体の運営を行った。白楊祭では、受験生相談コーナーを連携して行った。夏休みに企画した母校訪問では、総数19件（うち直接訪問16件、大学よりパンフレット送付3件）実施した。

4. 課題

プロジェクトチームによる各活動は、ほぼ目標通りに遂行することができたが、他部門や委員会、各部署との連携は今後の課題である。また、今年度は新方式のオープンキャンパスの開催を重点的に取り組んだが、次年度は大学ホームページを始めとするウェブサイトにも力点を置いて展開していく必要がある。

以下は、各プロジェクトの課題を挙げた。

1) オープンキャンパス

- ①土日の施設管理上の対応：2号館およびチャペル棟正面玄関の開放と警備体制
- ②広報ツールの開発・検討：販売グッズの充実と書籍販売の導入
- ③受付時間前の来場者への対応：受付開始時間の設定・受付開始前までの待機場所
- ④ホールプログラムの検討：学生による歓迎の言葉などや模擬授業の順序
- ⑤各コーナーの内容的な工夫・検討
 - ・教員によるツアーの廃止：学生によるツアーに一元化
 - ・看護技術体験の内容の充実⇒学生広報委員会と検討（学生自治会やサークルとの連携）
 - ・学園生活紹介の内容の充実⇒学生広報委員会と検討（学生自治会やサークルとの連携）
 - ・アートルーム（和室・小部屋含）のディスプレイ
 - ・大学データに関するパネルの内容更新⇒広報室との連携

2) 大学ホームページ

- ①大枠は完成しているが、公開までに詳細な部分の検討
- ②新しい樹状構造に沿って、受験生が必要とする情報をさらに検討
- ③アクセス解析による、公開しているコンテンツが適切か否かの評価と改善
- ④更新を多くの教職員が自主的に行うための意識付けと、簡便に更新が行えるようなシステム構築

3) Active Page

- ①適切な情報公開 Page の掲載や当該 Web Site の利用者管理等を行う。
- ②Contents の作成・掲載・更新等は全て利用者に委任し、自由に活発な情報発信の場になるよう支援体制を整える。

③内容については、Web Site 全体としてのデザイン的な統一感を維持するために、掲載の方法や手順の支援や掲載にあたってのガイドラインを提示する。

4) 白楊祭

受付の管理、マニュアル・シフト表等内部資料の管理を行う。

5) 学園ニュース、大学パンフレット

①学園ニュースは、今後さらに学内関係者へ周知し、学外に対しては広報媒体としてアピールできるものにしていく必要がある。その戦略を具体的に検討していく。また、2011年度より大学ホームページに掲載する方針が決まっているが、一般の人々にオープンにする内容と学内に止める内容とに区

分する必要がある。この判断をいつ誰が行うか、ルール化する必要がある。

②大学パンフレットは、紙媒体と大学ホームページへの掲載において、今後、印刷冊数を検討する必要がある。デザインの共通化などを通じてコストを抑える工夫も考えられる。また、わかりやすい内容や見栄えのするデザインに配慮する必要もある。

6) 学生広報委員会との連携

①オープンキャンパス：LLS(Luke Life Support)、自治会との連携強化

②白楊祭：受付の管理、マニュアル・シフト表等内部資料の管理

5. 資料・データ

表1 2010年度オープンキャンパス来場者数

(単位：人)

	開催日時	来場者数 (前年度数)	内 訳
1回目	6月26日(土) 13:00~16:30	322 (前年度204)	学部志願者216・大学院志願者10・保護者96
2回目	7月31日(土) 13:00~16:30	803 (前年度502)	学部志願者 448・大学院志願者 60・保護者 295
3回目	8月1日(日) 13:00~16:30	636 (前年度574)	学部志願者377・大学院志願者10・保護者249

表2 学園ニュース掲載記事概要

No.	発行日 発行部数	巻頭記事/特集/その他	備考
291	2010年 4月27日	トップ「ようこそ聖路加看護大学へ」 学長 井部俊子	巻頭写真「礎を築いた人たち」
	900部	入学式 特集 新入学生のひと言集 新入教職員自己紹介	
		就職・進学支援体制について(学生部)卒業生・修了生の進路 90周年記念祝賀会での河村潤子文科相私学部長の祝辞	
292	2010年 7月9日	トップ「2011年度からのカリキュラム改訂について」 教務部長 麻原きよみ	学生家族にも送付
	1,300部	特集 魅力的な教育を目指して一本学の特徴的な取り組み— 体育Day	
		特別 オリエンテーションセミナー INFORMATION 2009年度決算報告	
293	2010年 12月18日 900部	トップ「クリスマスに寄せて」 国際看護学 教授 田代順子	学生家族、役員、 教職員、奨学金 財団等に送付 今号よりイント ラネットに掲載
		特集 クリスマス特集 We wish a merry Christmas! 第34回 白楊祭「夢 歩み続けよう ~1秒前の君はもういない」	

		日野原先生「白寿」おめでとうございます 表彰委員会より表彰者の紹介 交換留学生との交流（マヒドン大学・ヨンセイ大学） 内閣府特命担当大臣表彰を受ける（センター事業）	
294	2011年 3月4日 1,200部	トップ「門出を祝して」 学部長・研究科長 菱沼典子 特集 創立記念行事記念講演会講演録 「WHO プライマリヘルスケア看護開発協力センター開所時 を振り返って」 近大姫路大学 学長 南 裕子 大学院開設30年 修士1回生のあの頃 学長 井部俊子 卒業／修了おめでとうございます 「ひと言」集 INFORMATION 2011年度予算	巻頭写真「古の 学園の姿」① 学生家族、役員、 教職員、奨学金 財団等に送付 卒業生・修了生 に配付

情報システム委員会

1. 構成員

〔委員長〕 萱間真美

〔委員〕 小野智美、御子柴直子、本田晶子、高島直人、平良智子、中島薫、佐藤晋巨、秋山武則

2. 役割・職務

1) コンピュータシステムに関する運用、管理上の諸問題の検討

- ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク利用規程
- ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク倫理規程
- ・情報システム委員会規程

2) システムの運用の向上を図るための企画

3. 活動内容

1) 学生情報システム委員会に関して、今年度の主な活動は2つである。

1つは前年度作成した倫理ガイドラインの周知と評価である。学生委員は情報倫理ガイドブックのオリエンテーション等の活動を通して、教員と協力して学生の情報リテラシーとマナーの向上を図り、アンケート調査により今後の課題を明らかにした。

2つ目は印刷枚数の適正化へのキャンペーン活動である。学生が主体的に適切な印刷枚数を意識して効果的なコンピュータネットワークの利用ができるような工夫やアイデアを持ち寄り、ポスターやメールでの周知法を検討した。

2) 学修目的外使用（大量印刷物の放置行為等）を防

ぎ、学修環境の向上を図るため、印刷枚数の適正化への取り組みを検討した。過去4年間における学生の印刷枚数を調査し、1学年あたりの印刷上限値を設定した。印刷枚数確認画面も設定し、印刷枚数が印刷上限値の80%を超えた場合のアラート表示も行うこととした。アラート停止および印刷停止を解除したい場合は停止解除等申請書の提出を義務づけることとした。また、印刷物ヘッダーのID印字の有無も選択できるように設定を変更した。施行は来年度とし、一連の取り組みへの意識を高めるためにポスターキャンペーン等の周知活動を実施した。

3) コンピュータネットワークシステムの整備状況については、高性能サーバー3台を追加し、10月より院生以外のターミナルサーバー利用者全員のログイン先を新ターミナルサーバーに変更した。

4. 課題

1) 昨年度からの課題への取り組み

昨年度の年報で指摘した課題のうち、4年間の追跡調査を終了したプリントアウト枚数について委員会および学生情報システム委員会で検討し、大学としてリテラシー向上への取り組みの一環として、プリントアウト上限枚数の設定を行うことに合意を得た。枚数の設定や確認プロセス、上限を超えた場合の対応等についても学生の意見を得ながら詳細を決定し、ポスターやメール、会議での周知までを行い、次年度の実施を待つのみとなった。上限を設定する目的について共通理解を得るプロセスには1年近くをかけた。今後の運用については適宜検討し、引き続き大学全体の共通理解を得ながら進めたいと考え

ている。

2) 今後の課題

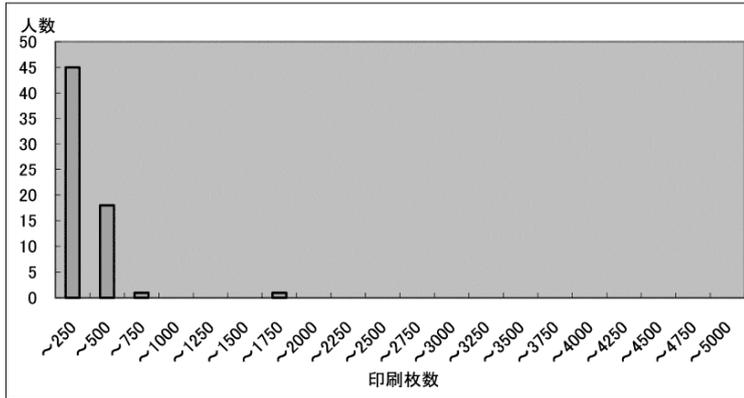
ここ数年、教員が外部から獲得した研究費によりデジタルコンテンツやWebコンテンツを開発する件数が増えている。これらのコンテンツは研究終了後に自らが担当する専門科目の教育において学生の学習効果を上げることを目的として実際に活用している授業もある。今後はこのようなコンピュータ環境を利用した教育学習サービスが本学でも増えることが予想されるため、次年度は学内における教育ニ-

ズの把握に努めるとともに、将来に向け、ニーズに基づいた情報システム環境の整備を検討していくことが重要だと思われる。

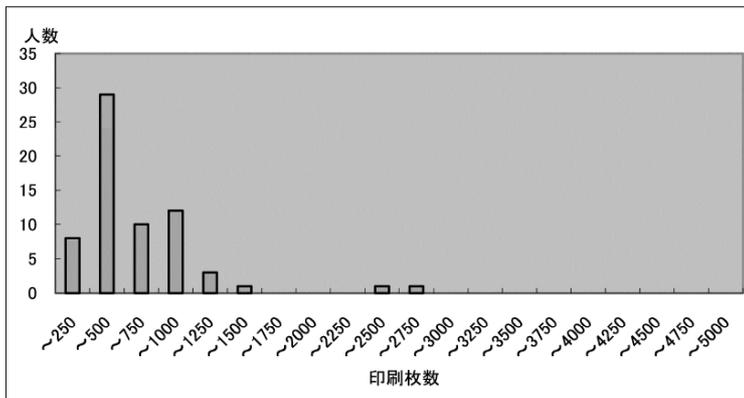
5. 資料・データ

- ①印刷データ（学部4年分：入学から卒業まで）
- ②印刷データ（学士編入3年分：入学から卒業まで）
- ③印刷データ（修士2年分：入学から修了まで）
- ④印刷データ（博士3年分）
- ⑤プリントアウト枚数適正化ポスター

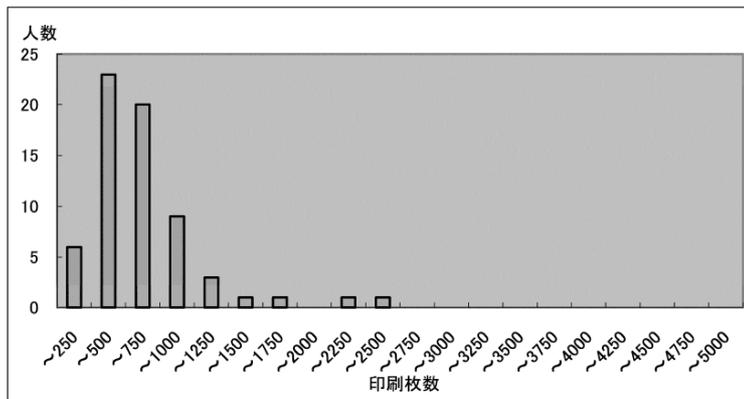
2006年入学(学部)



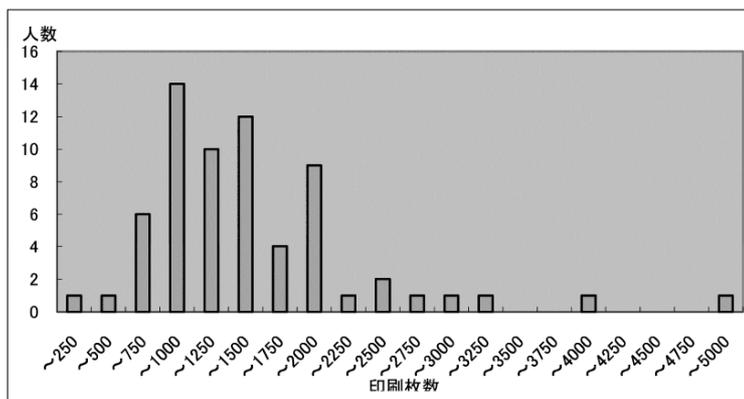
学部1年	枚数	人数	累積%
~250	45	69.2%	
~500	18	96.9%	
~750	1	98.5%	
~1000	0	98.5%	
~1250	0	98.5%	
~1500	0	98.5%	
~1750	1	100.0%	
~2000	0		
~2250	0		
~2500	0		
~2750	0		
~3000	0		
~3250	0		
~3500	0		
~3750	0		
~4000	0		
~4250	0		
~4500	0		
~4750	0		
~5000	0		
	65		



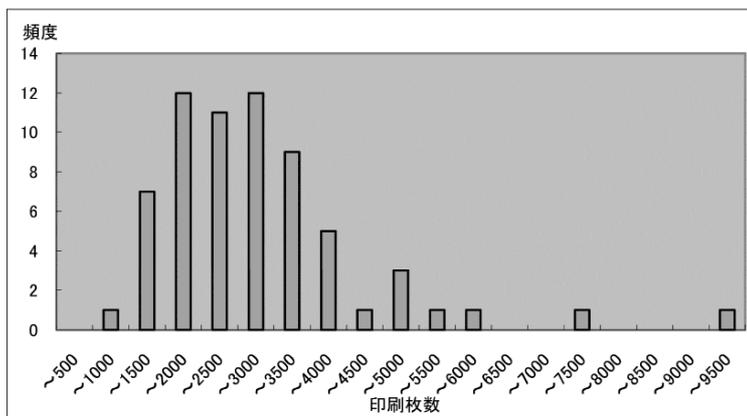
学部2年	印刷枚数	人数	累積%
~250	8	12.3%	
~500	29	56.9%	
~750	10	72.3%	
~1000	12	90.8%	
~1250	3	95.4%	
~1500	1	96.9%	
~1750	0		
~2000	0		
~2250	0		
~2500	1	98.5%	
~2750	1	100.0%	
~3000	0		
~3250	0		
~3500	0		
~3750	0		
~4000	0		
~4250	0		
~4500	0		
~4750	0		
~5000	0		
	65		



学部3年	印刷枚数	人数	累積%
~250	6	9.2%	
~500	23	44.6%	
~750	20	75.4%	
~1000	9	89.2%	
~1250	3	93.8%	
~1500	1	95.4%	
~1750	1	96.9%	
~2000	0		
~2250	1	98.5%	
~2500	1	100.0%	
~2750	0		
~3000	0		
~3250	0		
~3500	0		
~3750	0		
~4000	0		
~4250	0		
~4500	0		
~4750	0		
~5000	0		
	65		



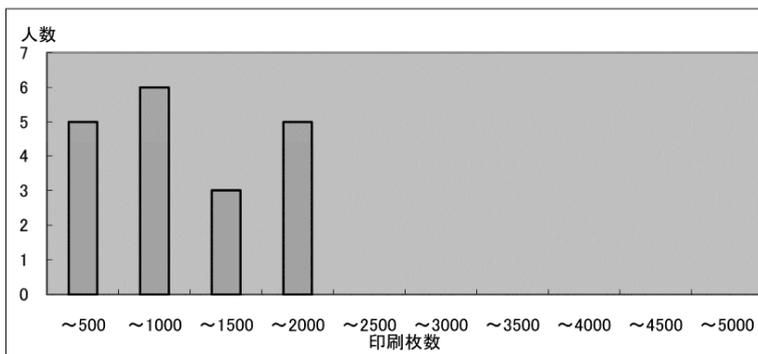
学部4年	印刷枚数	頻度	累積%
~250	1	1.5%	
~500	1	3.1%	
~750	6	12.3%	
~1000	14	33.8%	
~1250	10	49.2%	
~1500	12	67.7%	
~1750	4	73.8%	
~2000	9	87.7%	
~2250	1	89.2%	
~2500	2	92.3%	
~2750	1	93.8%	
~3000	1	95.4%	
~3250	1	96.9%	
~3500	0		
~3750	0		
~4000	1	98.5%	
~4250	0		
~4500	0		
~4750	0		
~5000	1	100.0%	
	65		



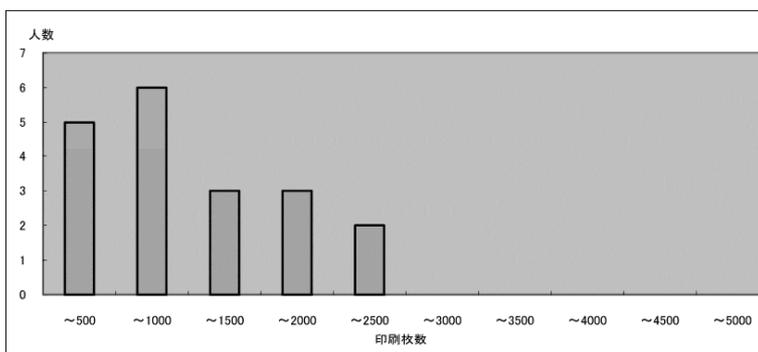
学部4年間合計

印刷枚数	人数	累積%
~500	0	0.0%
~1000	1	1.5%
~1500	7	12.3%
~2000	12	30.8%
~2500	11	47.7%
~3000	12	66.2%
~3500	9	80.0%
~4000	5	87.7%
~4500	1	89.2%
~5000	3	93.8%
~5500	1	95.4%
~6000	1	96.9%
~6500	0	
~7000	0	
~7500	1	98.5%
~8000	0	
~8500	0	
~9000	0	
~9500	1	100.0%

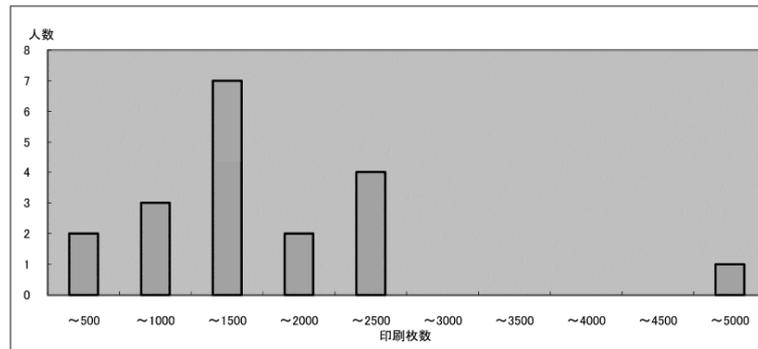
	1年	2年	3年	4年	4年間
最大	1,731	2,602	2,285	4,962	9,294
最小	16	76	38	239	961
平均	215	586	621	1,418	2,840



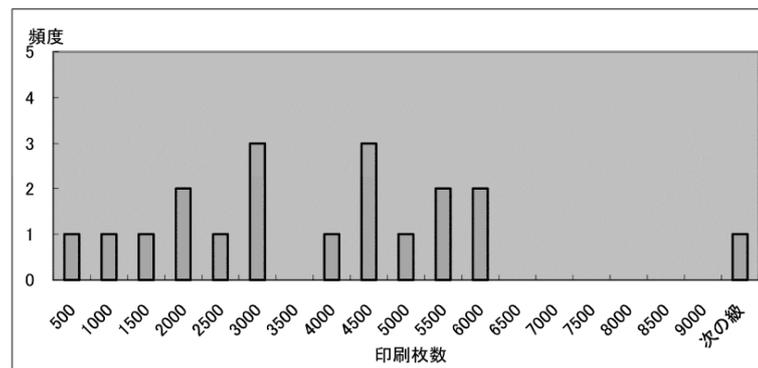
印刷枚数	人数	累積%
~500	5	26.3%
~1000	6	57.9%
~1500	3	73.7%
~2000	5	100.0%
~2500	0	100.0%
~3000	0	100.0%
~3500	0	100.0%
~4000	0	100.0%
~4500	0	100.0%
~5000	0	100.0%
合計	19	



印刷枚数	人数	累積%
~500	5	26.3%
~1000	6	57.9%
~1500	3	73.7%
~2000	3	89.5%
~2500	2	100.0%
~3000	0	100.0%
~3500	0	100.0%
~4000	0	100.0%
~4500	0	100.0%
~5000	0	100.0%
合計	19	



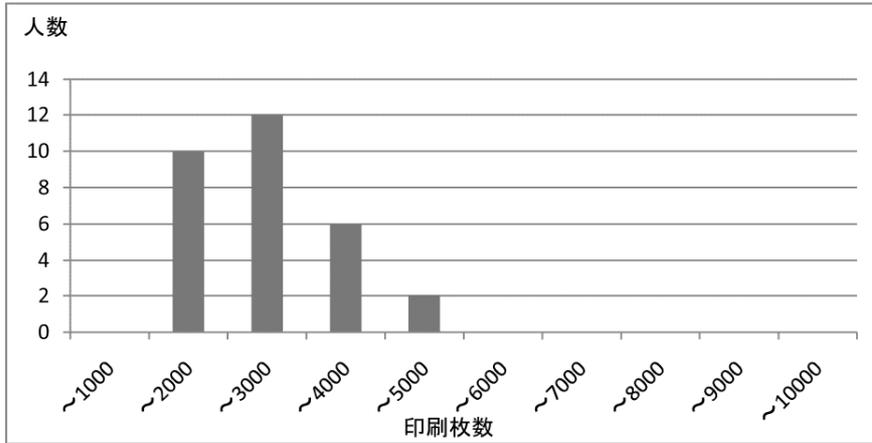
印刷枚数	人数	累積%
~500	2	10.5%
~1000	3	26.3%
~1500	7	63.2%
~2000	2	73.7%
~2500	4	94.7%
~3000	0	94.7%
~3500	0	94.7%
~4000	0	94.7%
~4500	0	94.7%
~5000	1	100.0%
合計	19	



印刷枚数	人数	累積%
500	1	5.3%
1000	1	10.5%
1500	1	15.8%
2000	2	26.3%
2500	1	31.6%
3000	3	47.4%
3500	0	47.4%
4000	1	52.6%
4500	3	68.4%
5000	1	73.7%
5500	2	84.2%
6000	2	94.7%
6500	0	94.7%
7000	0	94.7%
7500	0	94.7%
8000	0	94.7%
8500	0	94.7%
9000	0	94.7%
次の級	1	100.0%
合計	19	

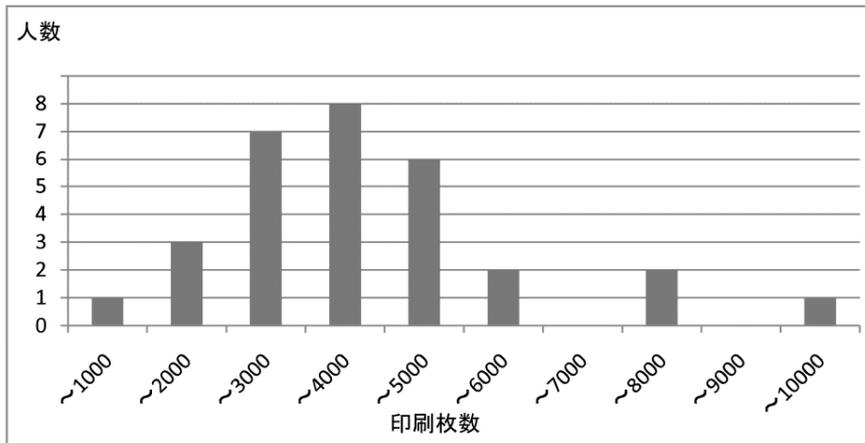
	2年次	3年次	4年次	3年間
最大	1,892	2,454	4,932	9,206
最小	14	80	115	452
平均	953	1,079	1,548	3,580

2006年度入学(修士)



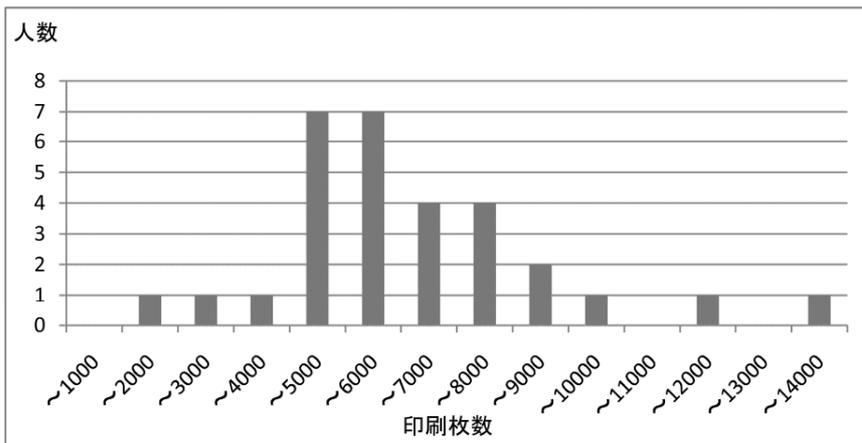
修士1年

印刷枚数	人数	累積%
~1000	0	0.00%
~2000	10	33.33%
~3000	12	73.33%
~4000	6	93.33%
~5000	2	100.00%
~6000	0	
~7000	0	
~8000	0	
~9000	0	
~10000	0	



修士2年

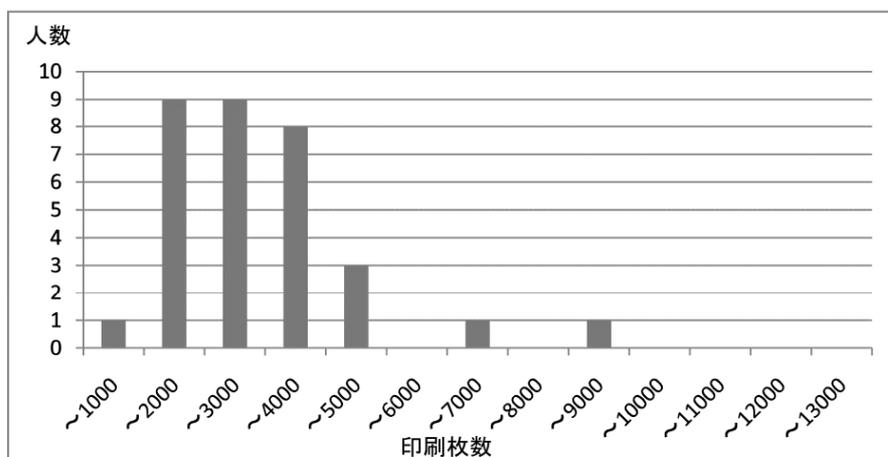
印刷枚数	人数	累積%
~1000	1	3.33%
~2000	3	13.33%
~3000	7	36.67%
~4000	8	63.33%
~5000	6	83.33%
~6000	2	90.00%
~7000	0	90.00%
~8000	2	96.67%
~9000	0	96.67%
~10000	1	100.00%



修士合計

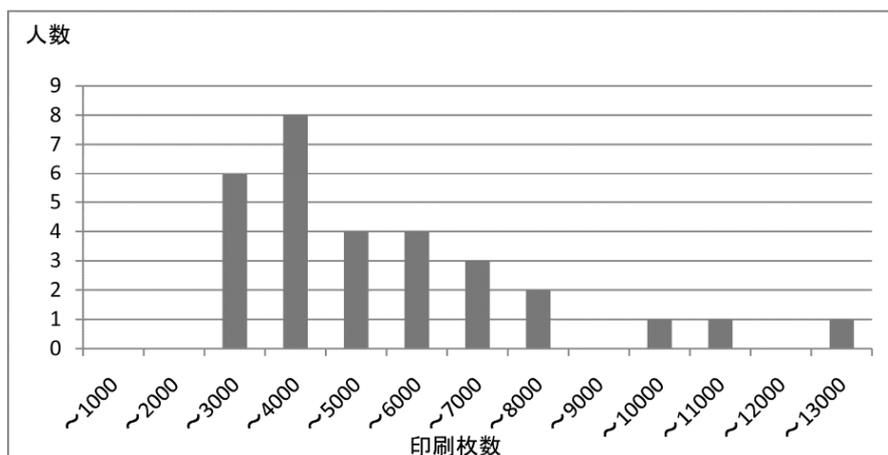
印刷枚数	人数	累積%
~1000	0	0.00%
~2000	1	3.33%
~3000	1	6.67%
~4000	1	10.00%
~5000	7	33.33%
~6000	7	56.67%
~7000	4	70.00%
~8000	4	83.33%
~9000	2	90.00%
~10000	1	93.33%
~11000	0	93.33%
~12000	1	96.67%
~13000	0	96.67%
~14000	1	100.00%

2007年度入学(修士)



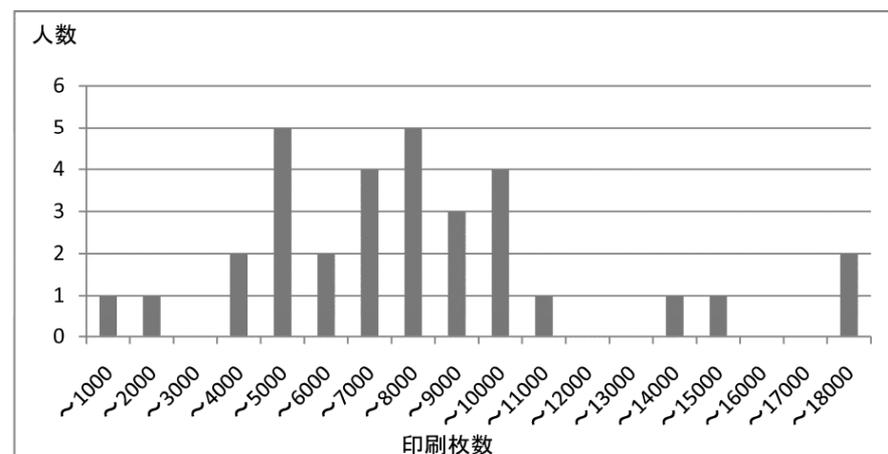
修士1年

印刷枚数	人数	累積%
~1000	1	3.13%
~2000	9	31.25%
~3000	9	59.38%
~4000	8	84.38%
~5000	3	93.75%
~6000	0	93.75%
~7000	1	96.88%
~8000	0	96.88%
~9000	1	100.00%
~10000	0	
~11000	0	
~12000	0	
~13000	0	



修士2年

印刷枚数	頻度	累積%
~1000	0	0.00%
~2000	0	0.00%
~3000	6	20.00%
~4000	8	46.67%
~5000	4	60.00%
~6000	4	73.33%
~7000	3	83.33%
~8000	2	90.00%
~9000	0	90.00%
~10000	1	93.33%
~11000	1	96.67%
~12000	0	96.67%
~13000	1	100.00%



修士2年間合計

印刷枚数	頻度	累積%
~1000	1	3.13%
~2000	1	6.25%
~3000	0	6.25%
~4000	2	12.50%
~5000	5	28.13%
~6000	2	34.38%
~7000	4	46.88%
~8000	5	62.50%
~9000	3	71.88%
~10000	4	84.38%
~11000	1	87.50%
~12000	0	87.50%
~13000	0	87.50%
~14000	1	90.63%
~15000	1	93.75%
~16000	0	93.75%
~17000	0	93.75%
~18000	2	100.00%

2006年度入学 博士印刷枚数データ

	2006年	2007年	2008年	2009年	4年間合計
	4019	1593	3647		9259
	707	490			1197
	2567	2265	4555	12984	22371
	7274	3503	6773	31808	49358
	6906	5718	2340		14964
	2671	3492	4356	8351	18870
	1540	738	375		2653
	404	86			490
	1215	233	177	4	1629
	431	61	398	5	895
合計	27734	18179	22621	53152	121686

	2006年	2007年	2008年	2009年	4年間
1人の最高印刷枚数	7274枚	5718枚	6773枚	31808枚	49358枚
1人の最低印刷枚数	404枚	61枚	177枚	4枚	490枚
平均	2773枚	1818枚	2828枚	10630枚	12169枚

2007年度入学 博士印刷枚数データ

	2007年	2008年	2009年	2010年	4年間合計
	3957	5423	9121		18501
	610	225			835
	1780	1038	1213		4031
	4419	5641	9851		19911
	5819	1786	1733		9338
	4857	7883	9280		22020
	1113	90	26		1229
	2619	689	2542		5850
	2429	1360	400		4189
	793				793
	1208	635	477		2320
合計	29604	24770	34643	0	89017

	2007年	2008年	2009年	2010年	3年間
1人の最高印刷枚数	5819	7883	9851		22020
1人の最低印刷枚数	610	90	26		793
平均	2691	2477	3849		8092

次年度(2011年度)から
 聖路加看護大学コンピュータネットワークシステム利用者各位

年間印刷枚数の上限値を設定します

次年度(2011年度)より大学のプリンターで印刷できる枚数を個別に設定します。

印刷上限値(年間あたり、年度繰越しはありません)	1年	2年	3年	4年	計
学部生	1,000	1,000	1,000	2,000	5,000
学士編入生	—	1,500	1,500	2,000	5,000
修士	4,000	8,000	—	—	12,000
修士(社会人)	4,000	4,000	4,000	—	12,000
博士	5,000	5,000	10,000	—	20,000
認定看護師教育課程	1,000 / 9ヶ月間				1,000
認定看護管理者	300 / 2ヶ月間				300

どの位印刷したか、わかりますか？

上限値を超えてしまったら？

出力状況をインターネットで確認することができます。コンピューターホームページのトップ画面からリンクされています。

印刷ができなくなります。再度出力できるようにしたい場合には教務への申請が必要となります。

— お知らせ —
 印刷時のヘッダーへのID印刷の有無が選択できるようになります。

*質問がある方は、まずは各年度の情報システム委員までどうぞ。

2011.1.21 情報システム委員会

図 印刷枚数上限値設定ポスター

国際交流委員会

1. 構成員

[委員長] 深谷計子

[委員] 梶井文子、堀成美、五十嵐ゆかり、中島薫

2. 役割・職務

国際交流委員会規程に基づく。

3. 活動内容

- 1) タイ・マヒドン大学シリラート校交換研修参加者（認定申請者3名）および韓国・ヨンセイ大学交換絵研修プログラム参加者（認定申請者4名）に対する単位認定
- 2) ①ヴィラノバ大学夏季交換研修生（1名）派遣学生の募集、書類選考の実施
 ②マヒドン大学／ヨンセイ大学交換研修生（各4名）受け入れプログラムの実施
 ③マヒドン大学／ヨンセイ大学交換研修生（各4名）派遣学生の募集、選考の実施
- 3) 学生国際交流委員会による交換研修生歓迎会、交流プログラムの企画および実施
- 4) 聖路加看護大学 Global Health Seminar の実施

4. 課題

- 1) 前年度の課題（交換交流プログラムにおける看護科目の充実、ホームステイ先の確保、派遣プログラム応募促進、学生交流委員会の活性化）を解決するための方策の一つとして「聖路加看護大学 Global Health Seminar」を企画・実施した。学生のグローバルな視点を養い、海外への関心を喚起することで、本学の国際交流活動への積極的な参加を促すとともに、本学の教育の特色のひとつである国際性の醸成を前面に打ち出す企画の実施により、本学国際交流事業全般の活性化を狙うものであり、2011年度も引き続き実施を予定している。
- 2) 受入先の事情により、米国・ヴィラノバ大学との交換留学プログラムを終了することとなったため、これに代わる新しいプログラムの検討が必要である。

5. 資料・データ

表1 2010年度交換研修プログラム等実績

国	学校・プログラム名	滞在期間	参加者名
受 入	タイ マヒドン大学	2010年5月6日(木) ～5月18日(水)	シリラート校： Ms. Poranee Posawang (3年生) Ms. Sathinee Srikunnikanon (3年生) ラマティボディ校： Ms. Pailin Thong thai (3年生) Ms. Titaree Ditsirapong (3年生)
	韓国 ヨンセイ大学	2010年6月27日(日) ～7月10日(土)	Ms. Jeong Eunjin (4年生) Ms. Choo Sung Hye (4年生) Ms. Park Hyun Wook (4年生) Ms. Lee Mi Hyun (4年生)
派 遣	米国 ヴィラノバ大学	2010年8月2日(日) ～8月23日(土)	平川 瑠華 (3年生)
	タイ マヒドン大学 シリラート校	2010年8月17日(火) ～8月30日(月)	黒白 夏妃 (4年生) 佐藤 繭子 (4年生) 荒木 理紗 (学士13) 粟飯原綾佳 (2年生)
	韓国 ヨンセイ大学	2010年8月31日(火) ～9月13日(月)	小西 咲 (4年生) 古川 愛 (4年生) 海老沢 実樹 (学士12) 金 有実 (学士12)

表2 聖路加看護大学 Global Health Seminar2010 実績

日 時	講 師 名	参加者数
2010年10月16日(土)	齋藤あや (Class of 1997)、梅田麻希 (Class of 2000)	60名
2010年12月4日(土)	内山文香 (Class of 2004)、小黒道子 (Class of 1995)	48名

表彰運営委員会

1. 構成員

[委員(教職員)] 山田雅子、大熊恵子、實崎美奈、森島久美子、畠山小巻

[委員(学生)] 松本真緒・横川彩夏(4年生)、岸本梨沙・小林俊介(3年生)、高取由美・横林典子・和田真奈美(2年生)、浅海りり子・田中千紘・別府 紫・丸山 紗希・安本 悠(1年生)

2. 役割・職務

学生や教職員が互いの努力を称え、感謝の気持ちを伝えあう機会を作ることを目的とする。

3. 活動内容

昨年度の表彰については、教員・職員より概ね好評であったため、今年度は昨年度と同じ内容で活動を継続した。引き続き、ランキングを重視しないこと、教員・職員・学生・関係者を広く表彰の対象とすること、表彰者決定のプロセスを分かりやすく伝えることに留意した。

表彰式は、創立記念行事に引き続き、講堂で執り行った。表彰については、学園ニュースと看護ネットに紹介した。

4. 課題

投票者数が少ないことが課題である。引き続き表彰運営委員会の活動を広報しながら、地道に参加者を増やしていきたい。

また、活動資金を寄付に頼っていたが、次年度は委員会活動費として予算化することができた。

5. 資料・データ

表 表彰および紹介対象者一覧（敬称略）

	項目	表彰及び紹介対象者
1	グッドプレゼンター賞	「知的障害者への性教育の現状と問題点、支援のあり方について」小西 咲（4年生）
2	グッドティーチャー賞	深谷 計子（英語担当）
3	チャプレン賞	「星の王子さまから見るキリスト教」 深堀書加、藤井理華、藤田ゆり、舟塚愛美、古内早紀、別府紫、穂積咲希、堀 真紀子（1年生）
4	グッドボランティア	いちごフレンド、ナイトフレンド、だいじょ部、マナー委員、小屋野幸呼（4年生）、金有実（4年生）
5	SL スター	伊藤節子・山下郁代（学食スタッフ）、越、酒巻（用務員）、石川智美（2年生）、天岡、嶋田（総務）、教務課の女性、中山久子、堀、角田、廣瀬、佐居夫妻、日野原
6	学会等での受賞者	梶井 文子 ・ JTTA2010 in MISHIMA 日本遠隔医療学会学術大会優秀論文賞 論文名：認知症高齢者の学際的チームアプローチによるケアの質評価 Web システム —使用前後における利用者ならびにチームアプローチの変化の検討— ・ 第11回日本認知症ケア学会石崎賞 発表演題：在宅認知症高齢者のサービス提供者間における連携強化のための情報交換のあり方
		大森 純子 ・ 第 69 回日本公衆衛生学会奨励賞 受賞した業績：社会集団の文化と社会関係を基盤とした公衆衛生活動の実践と研究 小林 真朝 ・ 日本地域看護学会奨励論文賞 論文名：市町村保健師による保健事業における委託の意味づけ—住民との関係性のとらえ方のパターンによる分析— 著 者：小林 真朝、麻原 きよみ 掲載誌：日本地域看護学会誌 第10巻1号 森 明子 ・ 日本看護科学学会優秀賞 論文名：Supporting stress management for women undergoing the early stages of fertility treatment: A cluster-randomized controlled trial 掲載誌：JJNS 6(1), 2009

紀要委員会

1. 構成員

〔委員長〕 林 直子

〔委員〕 實崎美奈、田代真理、田口 瞳

2. 役割・職務

1) 聖路加看護大学紀要委員会規程を参照

3. 活動内容

1) 紀要第37号の発行

(1) 4、5月に投稿募集をファカルティ・スタッフミーティングおよびメールで呼びかけ、6月に投稿予定者の確認を行った。

(2) 短報での投稿申込のあった著者に対し、論文種類について改めて解説を行い、論文種類の変更の意向を確認した。

- (3) 6月末に複数業者に見積もりを取り、10月に投稿数が確定したのちに業者を正式に決定した(瀬味証券)。
- (4) 11月に投稿原稿を受け取り、編集作業を進めた。
- (5) 6月の申し込み時点では19本(原著3、研究報告4、論説1、短報11)であった。その後、原稿の取り下げ、論文種類の変更等があり、最終的には10本(研究報告1、短報9)となった。
- (6) 3月16日に700部を配布した。

2) 聖路加看護大学紀要委員会 著作権申し合わせ事項の作成

著者からホームページへの紀要論文(PDFファイル)掲載の希望があった。これを受け、委員会にて「聖路加看護大学紀要委員会 著作権申し合わせ事項」を作成し、教授会での承認を経た上で著者へ受諾する旨を連絡した。「聖路加看護大学紀要委員会 著作権申し合わせ事項」は委員会規程等と同様に学内サイト(イントラ)に掲載した。またその内容に沿うように、規程を一部修正した。

3) 紀要のあり方に関するアンケート調査の実施

前年度からの課題であった原著論文の投稿数の減少および全体的な投稿数の減少に伴い、本紀要のあり方を再考すべく、全教員・図書館司書に対して紀要のあり方に関するアンケートを実施した(結果は資料に掲載)。

本アンケート調査は、3月8日の教授会にて報告し、下記の課題を提示した。

4. 課題

- 1) 原稿数の増加につながる紀要の演題募集の時期を検討する
- 2) 投稿論文の内容が論文種類に合致しないとの意見が委員会に寄せられた。これに対し『短報』は昨年度導入したばかりであり、今年度は本委員会が定める内容に沿うものとなるよう編集担当者が著者に内容、構成の調整を働きかけ、随時確認を行った。今後、今年度の紀要に対する意見を広く求め、今回実施した調査結果と併せて方向性を検討する
- 3) 紀要の質を維持するため、委員会として全投稿論文の内容が論文種類に適したものであるかどうかについて、これまで以上に確認する。

5. 資料

- 1) 実施日：2010年11月
- 2) 配布数：67、回答数：29(回収率43.3%)
- 3) 結果

- (1) 聖路加看護大学紀要への原著・研究報告等の査読を要する論文種類の投稿数が減少している理由

	人数(複数回答・人)
申し込み締め切りが早い	6
申し込み後の原稿投稿締め切りが早い	3
他の学術雑誌への投稿希望のため	21
査読があるため	2
その他	7

- (2) 昨年度より論文種類に短報を加えたが、短報についてどう思うか。(28人回答)

「適切である」 19人

理由：・本学の活動報告記録として短報が機能すると考えれば現状は適切

- ・研究の過程で行った活動を報告できる投稿先はほとんどないので、短報を載せていただいてありがたい
- ・大学のプレティンなので、研究、教育その他活動を広く記録に残せるため。

「改善の必要がある」 6人

理由：・一般で言う短報の定義とは異なる。

- ・紀要に掲載されている短報は、必ずしも短報ではないと思うようなものが入っている。

「どちらとも言えない」 3人

理由：・修士論文などは学外の専門の学術雑誌に投稿すべきと思うが、課題研究でレビューをまとめたものを発表できる場としてもあるとよい。

- ・本学に関連する事業や教育などの内容や評価を知ることができるので短報があるとよい。

- (3) 今年度の紀要は短報のみとなっている。今後も論文種類が短報に偏る可能性があるが、この現状についてどう考えるか。(24人回答、重複あり)

- ・原著のエントリーが継続できるような工夫が必要

(査読のあり方の検討等) (7人)

- ・学内の活動や試みを報告する場がほかにないので、短報が増えても仕方がない・意義がある (7人)
- ・原著・研究報告は他の学術雑誌に投稿するので、原著が少なく短報が多くなっても仕方がない (6人)
- ・紀要の意義について学内で検討すべき (2人)

(4) 今後の紀要の形態について (29人回答)

「電子版のみ」 12人

- 理由：・検索できて印刷できればそれでよい。
・エコロジーの観点および経費節減のため。

「電子版と印刷版」 15人

- 理由：・電子のみの出版を保証する体制 (災害時のためにデータを別地域にも分散保存する等) をとれていないので、印刷物はまだ必要だと思う。
・アナログデータ、デジタルデータともに後世に残していく。予算がなければデジタルのみ。
・大学の広報になるので、印刷物もあると便利。

オリエンテーション・セミナー委員会

1. 構成員

[委員長] 菊田文夫

[委員] 卯野木健、大橋久美子、蛭田明子

2. 役割・職務

新入生オリエンテーション・セミナーの企画、実施

3. 活動内容

1) 新入生オリエンテーション・セミナーの開催

本学学部入学生を対象として、本学の理念およびカリキュラムへの理解、上級生や教職員との交流、さらに、新入生相互の交流などの促進を目的に、2010年度新入生オリエンテーション・セミナーを、財団法人キープ協会清泉寮において開催した。なお、本セミナーは、多数の上級生ならびに教職員の協力の下に実施されたものである。

日時：2010年4月9日(金)、10日(土) 1泊2日

場所：財団法人キープ協会清泉寮 (山梨県北杜市

高根町清里 3545)

参加者：新入生105名、上級生32名、教員32名

●プログラム

4月9日(金)

9:00 大学出発 (バスで清里まで移動)
昼食後

13:15-15:00 ポールラッシュ記念センター見学
(正木実)

15:10-16:30 レクリエーション (大濱あつ子)

17:30- タベの祈り (ケビン・シーバー)

18:00-19:00 夕食

19:00-21:00 上級生企画

4月10日(土)

7:00- 朝の祈り (上田憲明)

8:00- 9:00 朝食

9:00- 9:45 学長講演「本学の歴史と理念」
(井部俊子)

10:00-13:00 グループワーク

「春を探そう、仲間を知ろう」
(昼食持参でフィールドへ)

13:15-14:15 わかちあい「私たちの出発」

14:15-14:45 学部長講演「大学で学ぶ」
(菱沼典子)

15:00 清泉寮出発 (バスで大学まで移動)

2) オリエンテーション・セミナーレポート

新入生オリエンテーション・セミナーに参加した新入生の感想とグループワークの結果をまとめたレポート(冊子)を2011年2月25日付けで発行し、新入生および教員に配布した。

4. 課題

入学式後の新入生を対象とした学内オリエンテーションには、事務局、教務部、図書館、学生部、健康管理室など、多様な部局部門が関与している。そこで、これらの部局部門とオリエンテーション・セミナー委員会が連携しながら、新入生の新たな生活のスタートを効果的に支援する体制をつくりあげていく必要があるのではないかと考える。

FD・SD委員会

1. 構成員

[委員長] 飯岡由紀子

[委員] 留目宏美、野田由美子、松本直子、豊島景子

2. 役割・職務

学部・大学院教育推進のためのFD・SD研修会の企画、実施

3. 活動内容

1) FD・SD研修会企画および実施

(1) 前期は、FD・SD weekとして主な対象を設定した研修会(2時間)を3回実施した。

①第1回

対象：新任・若手教員 テーマ：「授業の作り方ー入門編」

形式：授業づくりに関する講演+グループ討議

参加人数 28名

②第2回

対象：職員 テーマ：「聖路加看護大学における職員研修のあり方」

形式：他大学のSD状況報告+グループ討議

参加人数 26名

③第3回

対象：教授・准教授、職員

テーマ：「大学経営を踏まえて今後の聖路加看護大学の発展を考える」

形式：本学の経営に関する報告+全体討議

参加人数 41名

(2) 後期は、本学客員教授による研究法の講演と教職員全員を対象とした研修会を行った。

④特別講演「Advancing Global Health through Nursing Research: Innovative Approaches」

講師：Kathleen F.Norr

⑤第4回

対象：教職員 テーマ「事例で学ぶアカデミックハラスメント」

形式：AM 講演+PM グループ討議(事例を用いて)

講師：NPO 法人アカデミックハラスメントをなくすネットワーク 代表理事御輿久美子参加人数 37名

2) 次年度以降のFD・SD研修会をより組織的な取り組みとするため、看護学教員研修プログラム及びSD研修プログラム(案)を立案した(資料参照)。

4. 課題

1) 主な対象を設定した研修会は概ね好評であったことより、今後も継続することとする。

2) 討議形式の研修会を多く取り入れたことは参加者から有意義であったと評価されたことより、今後も研修会の形式の工夫や対象者のニーズを反映して研修会を企画する。

3) 研修プログラムの立案までは行ったので、今後はプログラムを実施して、有効性を評価することが課題となる。

5. 資料・データ

1) 看護学教員研修プログラム(案)

教育、研究、管理・運営、社会貢献を横軸に、レベルⅠ～Ⅲを縦軸にしたFDマップを作成した。レベルⅠは「基礎的知識とスキルを備える」レベルⅡは「能力を向上させる」レベルⅢは「包括的な課題に取り組む、複雑な事象に対応できる」を目標とした。それぞれの期待される能力に応じた目標と研修テーマを考えた。

2) SD研修プログラム(案)

求められる職員像を設定し、階層別の研修を考えた。初任者、一般職員、管理職ごとに研修を考え、その他職員全体を対象とした目的別研修も設定した。

聖路加看護大学年報 2010年度（平成22年度）

2011年5月

発行者 聖路加看護大学

〒104-0044 東京都中央区明石町10番1号

TEL (03) 3543-6391

FAX (03) 5565-1626

<http://www.slcn.ac.jp/>

